平成29年度

北上川『流域圏』推進交流会議

～多様な交流と連携によるネットワークづくり～

報　告　書

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会

本事業は（一社）東北地域づくり協会の公益事業の支援により実施しています。

北上川流域において、川をテーマに活動をしているＮＰＯや行政などが集い、相互の交流と連携を深める機会として、平成 28 年度から本交流会議を開催しています。

顔の見える関係づくりを進めることにより、活気ある流域社会を目指していきます。

平成29年度　北上川「流域圏」推進交流会議

日　時：　平成３０年２月３日（土）　13：00 ～ 16：45
会　場：　展勝地レストハウス　（岩手県北上市立花14-21-１）

□ 13:00　開　会

主催者挨拶　平山健一　実行委員長
来賓挨拶　東北地方整備局河川部　河川環境課長　平山　孝信　氏

□ 13:15　流域活動発表

① 「中間支援の環境活動　～北上川河口清掃ほか～」
ＮＰＯ法人 奥州・いわてＮＰＯネット　理事長　菅原 恵子 氏

② 「久保川イーハトーブ世界の自然再生」
久保川イーハトーブ自然再生協議会　常勤研究員　佐藤 良平 氏

③ 「川を活用し盛岡のまちづくりにつなげたい」
北上川に舟っこを運航する盛岡の会　事務局長　阿部 優 氏

④ 「川のふれあい　北上川サポート協会」
ＮＰＯ法人 北上川サポート協会　事務局長　金野 和則 氏

⑤ 「活動報告（北上川遊覧船 分流めぐりの試みほか）」
水と緑の環境フォーラム・ものう　監事　舟嶋 茂昭 氏

⑥ 「胆沢ダムを活用した地域活性化の取組」
奥州市商工観光部商業観光課　観光物産係長　菊地 徳行 氏

～ 休憩 ～

□ 15:00　河川行政の取組報告

① 「東北生態系ネットワーク推進協議会の設立について」
東北地方整備局河川部　河川環境課長　平山 孝信 氏

② 「北上川下流の復旧・復興状況など最近の取組について」
北上川下流河川事務所　副所長　今野 裕美 氏

③ 「ダムを活かした水源地域の活性化について」
北上川ダム統合管理事務所　副所長　槙田 雅士 氏

④ 「県管理河川における水防災意識社会の再構築に向けた取組」
岩手県県土整備部河川課　総括課長　岩渕 和弘 氏

⑤ 「『全国運河サミット in みやぎ』について」
宮城県土木部河川課　技術副参事兼技術補佐　巻　博之 氏

□ 15:50　意見交換　～自然環境、舟運復活、今後に向けて～

□ 16:35　表彰式（奨励賞、特別賞）

□ 16:45　閉　会

目　次

平成29年度　北上川「流域圏」推進交流会議

（１）挨　拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

主催者挨拶　平山健一 実行委員長 ---------- 1

来賓挨拶　東北地方整備局河川部 河川環境課長　平山 孝信 氏 ---------- 2

（２）流域活動発表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

①「中間支援の環境活動～北上川河口清掃ほか」（NPO法人奥州・いわてNPOネット） ------ 4

②「久保川イーハトーブ世界の自然再生」（久保川イーハトーブ自然再生協議会） ---------- 11

③「川を活用し盛岡のまちづくりにつなげたい」（北上川に舟っこを運航する盛岡の会） ------- 17

④「川のふれあい 北上川サポート協会」（NPO法人 北上川サポート協会） ---------- 21

⑤「活動報告（北上川遊覧船 分流めぐりの試みほか）」（水と緑の環境フォーラム・ものう） ---- 27

⑥「胆沢ダムを活用した地域活性化の取組」（奥州市商工観光部商業観光課） ---------- 34

（３）河川行政の取組報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

①「東北生態系ネットワーク推進協議会の設立について」（東北地方整備局河川環境課） ---- 39

②「北上川下流の復旧・復興状況など最近の取組について」（北上川下流河川事務所） ----- 45

③「ダムを活かした水源地域の活性化について」（北上川ダム統合管理事務所） ---------- 48

④「県管理河川における水防災意識社会の再構築に向けた取組」（岩手県河川課） -------- 53

⑤「『全国運河サミット in みやぎ』について」（宮城県土木部河川課） ---------- 58

（４）意見交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

～自然環境、舟運復活、今後に向けて～

（５）表彰式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

～奨励賞、特別賞～

参 考 資 料

（１）実行委員会規約 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

（２）実行委員会名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73

協 賛 企 業

〔主催者挨拶〕

実行委員長　平山 健一

皆さん、ご無沙汰しておりました。本日の会を主催しております実行委員会のまとめ役を仰せつかっています平山です。本日は、「北上川流域圏推進交流会議」を開催しましたところ、このように沢山の皆さんにお集まりいただきありがとうございます。年１回の集まりですが、皆さんの元気な姿を拝見することを大変楽しみにしておりました。

また、ご来賓の国土交通省東北地方整備局河川環境課長の平山孝信様には、お忙しいところご出席をいただき、厚くお礼申し上げます。発表･報告をいただきます皆様には、お忙しいところ準備をいただき、ありがとうございます。

さて、この交流会議は、昨年度に続いて２回目ですが、北上川流域における上下流交流が始まったのは、平成７年（1995）の北上川流域連携交流会の発足当時に遡ります。250kmの長さを持つ北上川の上下流交流は、当時、地域づくりの先駆例として注目されました。

それから20年の歳月が流れ、北上川流域全体を舞台にした広域的な活動は、一部の活動を除いて休眠していましたが、平成25年３月、北上展勝地の軽石 昇さん等の呼びかけで、「川のとも､舟のともの集い」が開かれ、昔の仲間が久しぶりに顔を合わせました。

この集まりが契機となり、流域各地の市民団体や国・県等の行政の皆さんの想いが募り、平成28年度に再び民間を主体として、行政も参画する「実行委員会」がスタートして様々な活動が始まりました。

活動は、まず「人のネットワークづくり」を重点的に取り組んでいるところです。その一つが「ホームページ」です。皆さん、我々の「ホームページ」をご覧になっていますでしょうか。中村厳さん等が苦労した手作りの「ホームページ」は、現在、展勝地の和賀さんを窓口担当者として運用しており、流域内の活動団体の紹介、流域情報・イベント開催情報等を提供し、また国・県等の関連機関へのリンクを可能にしています。

このように、ようやく流域内の情報の共有が可能な体制が整い、運用されておりますが、今月からは川の関係者からのご意見・想いなどを発信する「川談義」欄を設けました。皆様の投稿をお待ちしています。

また年１回、広く参加者を募り、北上展勝地で開催しております、この交流会議では、「市民団体からの報告」と「優れた活動の表彰」、「行政からの情報提供」、「参加者の意見交換」のプログラムで構成し、終了後、「懇親の場」を設けています。

本日の「報告・情報提供」は、いずれも興味深い発表ですが、外来種駆除に取り組んできた久保川からの報告と東北地整からの「生態系ネットワーク推進協議会」に関する情報提供は、水辺の環境整備の「新しい進め方」についての報告です。

また「市民団体からの報告」には、舟・カヌーなどを川・ダムの魅力を活用した、「街づくり」

や「地域づくり」に関する「実践例や夢のある取組み」が紹介されます。

「意見交換」は、参加者が様々な課題について理解を深める場であります。執行部に向けた厳しい注文でも、忌憚ないご意見を頂ければ幸いです。

さらに、今年度から新たな企画として、盛岡で「舟運をテーマに、川・まちづくりのシンポジウム」を開催させていただきました。これは流域内の市民団体の活動動向を踏まえて､それらを支援するための企画であり、今回は、「リバーフロント研究所」の金尾健司代表理事や、富山市で観光遊覧船を運航している中村孝一氏等の講師と地元代表を交えての議論から、川を利用した地域づくりを進める上での課題や体制づくりに参考となる議論をしていただきます。

平成30年度は、下流部の石巻か登米で開催したいと考えているところです。下流部で議論すべきテーマ等について、ご希望などがあれば､意見交換の際にでも、ご発言をいただければ幸いです。

さて、このように我々の活動の現状は、皆様のご尽力により、やっとここまで「場づくり」が進んで参りました。問題の有無に関わらず、上下流、官民、国・両県の志を持った人々が、定期的に顔を合わせて、酒を酌み交わしながら、仲間を実感する場が、このように育ち、維持されていることに「北上川の素晴らしさ」を感じています。

我々のそれぞれが想い描いている、「川から学ぶ人づくり」、「川の文化の発信」、「自然環境の改善」、「川・まちづくり」等々､「持続性ある社会づくり」のための様々な活動は、このような「交流の場」から、芽生え広がっていくことを大いに期待しているところです。

今後の活動については、小山隆春さん、和賀匡彦さんはじめ事務担当の皆さんに大きな負担をかけている事務局体制の強化と若返りに挑戦して、「強固な場づくり」と「役に立つネットワークづくり」に努めていきたいと思います。これからも皆様の積極的なご参画・ご支援をよろしくお願いします。

本日は我々の手作りの会ですので、行き届きませんが、楽しい、賑やかな会としたいのでよろしくお願いしてご挨拶にかえさせていただきます。

〔来賓挨拶〕

東北地方整備局河川環境課長　平山 孝信 氏

皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、東北地方整備局河川環境課長の平山です。本日は、「北上川『流域圏』推進交流会議」に参加させていただきまして、誠にありがとうございます。僭越ではございますが、開会に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

会場の皆様におかれましては、日頃より河川行政の推進につきましてご理解ご協力賜りましたことを、この場をおかりして感謝を申し上げます。

また、皆様の日ごろからの活動が多くの人々に、この北上川に触れ親しむ機会を提供し、河川に対する理解と関心を高めるなど、多大な貢献をいただいていますことについて、重ねてお礼を申し上げます。

我々、東北地方整備局、または国土交通省では、平成26年度より河川協力団体制度を制定いたしまして、河川管理のパートナーとして、河川の維持、河川環境の保全に関する活動を行う民間団体を法律的に位置づけ、支援する取り組みを行っているところです。現在東北管内で56団体が指定されています。今年もまた新たに３団体が応募しているところでございまして、この活動も徐々に広まっているところです。

昨年は、新たな取り組みとしまして、11月２日に東北管内の河川環境団体を集めて、意見交換会を仙台で実施させていただきました。

水辺の活用をテーマに18団体の方々に参加していただきました。活動の事例紹介や活発な意見交換ができたかなと思っています。その中の意見としましては、人員や資金、または後継者の確保という課題があるということとか、河川、ダムの利用に関して、まだまだ制限が多い川の要望があったり、国だけではなくて、県、自治体の連携をきちんと図ってくれというようなご意見をいただいたところです。

こういった意見を踏まえまして、皆様方の活動しやすい環境をつくっていきたいと考えていますので、引き続きご協力のほどをお願いしたいと思います。

また、水辺の活用といたしましては、平成26年から水辺での取り組みが始まってございます。

昨年も「水辺で乾杯」や石巻でのさまざまな活動、花巻での勉強会など、各地で取り組みが進められているところです。

東北地方整備局の河川環境課でも、こうした活動を紹介するホームページとしまして、Facebookを活用した「Mizbering とうほく」というホームページを使って、各地の活動をアップしています。

また、すでにFacebookを持っている活動団体につきましては、リンクを貼らせていただきまして、こちらから皆様の活動がご覧になれるということで、紹介しています。ぜひ、皆さんご覧いただきまして、活動の一助にしていただきたいということと、皆様の活動について、ぜひ投稿をお願いできればと思っています。

先ほど、平山先生からもちょっとご紹介がありましたが、また新たな取り組みとしまして、河川を基軸とした生態系ネットワーク形成の取り組みということで、全国的に活動が行われているところです。詳細については行政の取り組み紹介で紹介させていただきますが、東北地方整備局でも、この活動を進めようと12月14日、東北生態系ネットワーク推進協議会を立ち上げさせていただきました。平山先生にも委員に加わっていただいているところです。

この活動につきましては、河川にとどまらず、その周辺の流域、または流域を超えた広域と活動の場を広げて、東北の有する豊かな自然環境の保全の取り組みを通じて、この環境を資源として、観光や地域振興、地域経済活性化につなげていきたいというものです。

来年はモデル地域として、岩木川、北上川、鳴瀬川の流域で、何とか取り組みを始めていきたいと考えています。東北の中ではまだこの取り組みはよく知られていないということで、まずは地域の方々にご紹介することから始めていきたいと思っています。

最後となりますが、平山先生を初めとして、今日の交流会議の実行委員の皆様におかれましては、この会の開催にご尽力をいただきましたことに対し、重ねてお礼を申し上げますとともに、本会議が成功裏に行われますことを祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

流域活動発表

① ＮＰＯ法人 奥州・いわてＮＰＯネット

② 久保川イーハトーブ自然再生協議会

③ 北上川に舟っこを運航する盛岡の会

④ ＮＰＯ法人 北上川サポート協会

⑤ 水と緑の環境フォーラム・ものう

⑥ 奥州市商工観光部商業観光課

★ 流域活動発表 ★

①「中間支援の環境活動 ～北上川河口清掃ほか」

NPO法人奥州・いわてNPOネット

理事長　菅原 恵子 氏

こんにちは。私は、ＮＰＯ法人 奥州・いわてＮＰＯネットの菅原恵子です。

パワーポイントを使いながらお話をさせていただきます。実は私どもの法人は中間支援のＮＰＯで、決して環境活動だけやっているわけではなく、環境活動もしていますので、その中からお話をしたいと思います。

タイトルに中間支援と入れていますが、団体活動する方たちのいろんな相談に乗ったり、助成金情報を提供したり、いろんな支援をしている団体です。よく周りから、「菅原さんのところって何だかんだやっているね」と言われます。何だかんだやらないと中間支援にはならない。何だかんだやっている活動の中から環境にかかわることをご紹介したいと思います。

まず、これは今年行いました水生生物調査の人材育成の写真です。ここの場所は平泉の太田川で、今年は花泉の団体や平泉の団体と連携して、人材育成を行いました。

こちらは奥州市内の江刺区にあります人首川での実地研修の様子です。研修に参加した方も何名か来ていただいていますが、まず水生生物調査を私たちが実際にやるのではなくて、水生生物調査を地域でやっていける人たちを育てていくのが私たちのＮＰＯの役割です。

これは平成25年ぐらいから始めたモクズガニの稚ガニの放流のシーンです。ここは北上川です。前沢の北上川で、小学校の子供たちと地域の団体さんたちの活動の中に人材育成の対象になっている人たちが入って、体験しながら、経験しながら覚えてもらっています。

モクズガニの稚ガニ放流は、地域の４団体が連携して、同日放流をつい２年ぐらい前まで続けてきています。あと、モクズガニの捕獲数の確認なども行っています。平成19年から飛ばし飛ばしに２年ぐらいまでやっていました。

これは平成25年には、実はコモチカワツボ、もう皆さんご存じですよね、コモチカワツボの県南広域の一斉生息調査をしました。これには多分今日おいでの団体さんでご協力くださった方たちもいらっしゃると思います。県南広域の25団体の連携によって、62カ所で行っています。同時にホタルの生息確認調査もいたしまして、これも26団体が連携して行って、62箇所でホタルの生息確認をしています。私たちはその事務局を務める役割になっています。

さて、この写真はどこの写真だと思いますか？実は北上川の河口の町、石巻市北上町の平成23年の震災の年の10月の写真です。私、どうしても石巻の「リアスの森」と熊谷産業の社長さんに会いたくて、10月に現地に入って、私が撮った当時の写真です。ここは住宅地だったところです。いっぱい住宅があったところでが、こんな状態になっていましたね。

何で行ったかと申しますと、実は石巻の北上町

というのは皆様ご存じのように、北上川の河口の町です。平成12年から行政の主導で「海岸清掃隊」といって、海岸の清掃のボランティアが各市町村でバスを出して10年間ずうっと続けて訪問していたところです。それが震災の年から行政の対応が困難になったということで中止になってしまった。

清掃を通して交流をしていたのですけれども、止まってしまったときに、奥州市内の団体さんたちから「自分たちが行って清掃活動をしたときに、あんなにお世話になったのに、何にもしないのですか？」という声が上がって、「行ってみたい」とみんなに言われて、現地にまだ行っていないし、どうしようかなあと思って、下見に私が10月に入ったときの写真があの写真です。

幸いなことに、熊谷産業さんや現地の「リアスの森」さんから、ぜひ来てほしいというお話をいただいて、翌年、平成24年の７月に初めて、震災後に奥州市内の市民団体が24人だけバスをチャーターして行きました。

工事が始まると、もう海岸がなくなってしまっていました。海岸がないので、結局やったことは草刈りとか、瓦れきの撤去でした。でも、参加した皆さんの何かができたという満足度はすごい高かったです。

それから１年に１度、毎年７月の第２土曜日に訪問しています。これは、今年の７月に訪問したときの写真です。今まで全然なくなってしまった海岸が戻ってきて、この写真は北上川の河口のところです。向こうはもう太平洋です。空の下が太平洋で、右側のほうにちょっと見えるのが北上川の河口で、ここに砂浜ができていたので、震災後初めて、砂浜でのごみ拾いができました。参加者の満足度はやっぱりごみ拾いだよねということで高かったですね。

当日は、石巻市の瀬崎組さんという土木会社があるのですが、そこの従業員の方も３～４人来て、手伝ってくださいました。

これは岩手大学から参加していただいた皆さんで、浜辺に埋まっていた網を手で砂をよけながら引き上げているところです。こんなごみもありますので。

これは、平山先生が当日参加してくださって、ちょっと空を見てほしいのですが、この日はすさまじい暑さでした。炎天下で雲一つなくて、30度を超える熱射の砂漠みたいなところのごみ拾いで、先生はテトラポットのところであーっと背伸びをしているところを、私がちょっとパチッと撮ってしまって、本人の承諾もなく、今日載せてしまいました。平山先生、暑い中本当にありがとうございました。

帰りにはみんなで道の駅上品の里に寄って、無料の足湯に浸って、「あー、気持ちがいい」と言って、みんなで入ってきました。

参加しているのは、奥州市内の市民団体なので、同じ共通の体験をすることで、結構団体相互のつながりができます。二重の効果があるなと、私は石巻の河口の町に感謝しています。

だから、今年続けられるかどうか、今一生懸命作戦を練っているところです。

今年は市内の市民団体が16、それから３つの企業が参加していただいて、それから岩手大学から

10人参加していただき、あとは個人の方が３人ぐらい。20名弱で始めた活動が今60人ぐらいに増えています。でも、６年かかって60人というのも、本当に少しずつの動きですよね。でも、止めるのももったいないと思って、今年も頑張らないといけないと考えています。皆様も、機会がありましたらぜひご参加ください。

今度はちょっと話が変わります。

今、生態系の保護って大切なことだと言われていますね。絶滅危惧種になっているマツムシソウという草花も、私よりも皆さんのほうがもしかしたら詳しいかもしれません。岩手県内で見つかっているのが金ヶ崎にほんのちょっぴりありますが、地域が高齢化して、保全が大変になってきたという相談がありました。県の人たちにお願いして、「どうにかなりませんかね」ということで、県の人たちと一緒になって、バスを出していただいて29年の10月に現地調査をしました。

咲いていましたマツムシソウが、改善された田んぼのあぜ道にほんのわずかに残っていて、車が通るところです。ここから先の保全をどうしようかなという状態になっています。ブルー紫のこんなきれいな花ですよね。

このマツムシソウの保全をテーマに、私たちはワークショップを開催しました。まず現地で保全活動をしている「生物多様性応援隊」の高橋隊長さんから保全活動についてのお話を伺いました。それを参考にしてワークショップを開催しました。

これがワークショップの様子です。結構ワークショップをすると話が盛り上がってきて、これは発表の様子です。

ワークショップでポストイットに書くのをご存じですよね。このポストイットに書いたものをファシリテーショングラフィックと言いまして、うちは結構これが得意ですけれども、グラフィックに落としてみました。

それがこれです。向かって左側は目指したい姿、右側は、でも現状はこうだよねという図。私これを見たときに、あれ？と思った。この矢印のところです。「山・休耕地の地主が土地を提供」して、栽培をしてみたらどうか。実は、ＮＰＯネットの今年度の計画に、完成した胆沢ダムに関連することですが、そこは今、活性化事業でやっていますが、放ったらかしにされている民有地があるります。ダムの土砂置き場になったところです。そこの活用を考えていたので、最初は植樹、植樹と考えていましたが、もしかしたら「野の花によるお花畑」をつくろうかなと、今方向転換して、これを今年のプランにして調査をしたり、種植えをしてみようかなと思っています。

話が長くなってしまいそうなので、以上、活動についての発表を終わらせていただきます。

中間支援ＮＰＯの

環境保全活動から

特定非営利活動法人
奥州・いわてＮＰＯネット
菅原惠子

平成25年

コモチカワツボ確認調査

25団体の連携により　62ヶ所

ホタル生息確認調査

26団体の連携により　62ヶ所

北上町は北上川の河口の町

平成12年から、行政主導で

「海岸清援隊」が

清掃交流活動を行っていた

平成24年7月

奥州市内の市民団体24人が
リアスの森の協力により
河口の清掃活動を再開

平成29年

- 16団体
- 3企業
- 岩手大学
- 個人

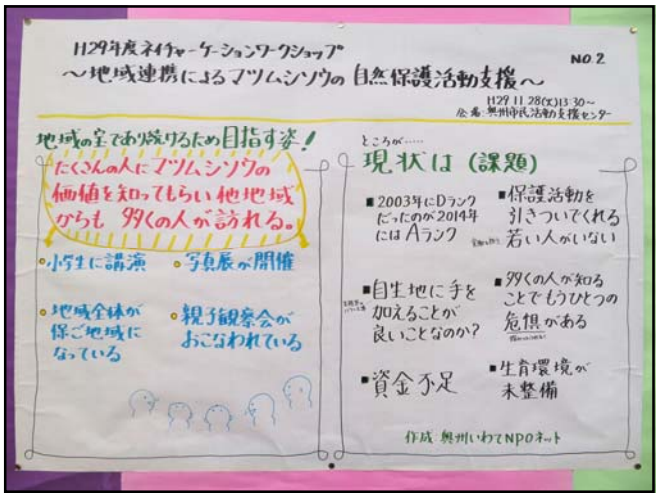
60名が参加

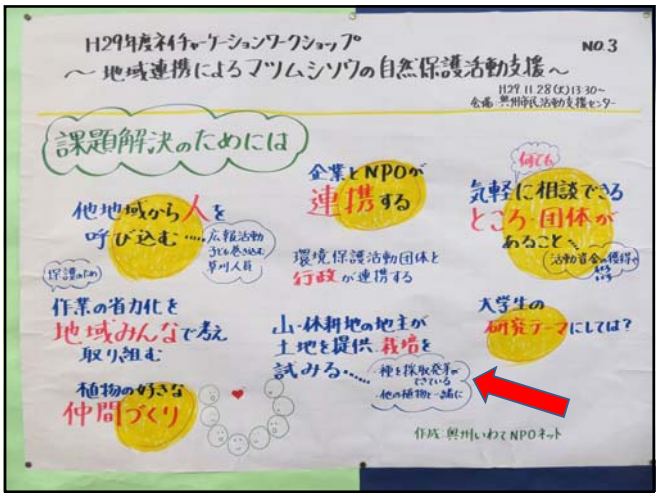
絶滅が危惧される
マツムシソウ

何とかならないか

現地調査を実施

現地で保護活動をする
生物多様性応援隊
高橋隊長の話を伺い
それを参考にして
ワークショップを開催した





本年度の計画

完成した胆沢ダム
土砂置き場となった地域があり
その活用を考えていたが・・・
植樹ではなく、野の花による
お花畑をつくる・・・

環境の課題の解決に対しては
地域を超え、連携した活動が
今後ますます必要と思われる。
市民団体の活動資金として
大きなウエイトを占める
公的助成の在り方に工夫が必要。

②「久保川イーハトーブ世界の自然再生」
久保川イーハトーブ自然再生協議会
常勤研究員　佐藤 良平 氏

改めまして皆様、どうもこんにちは。久保川イーハトーブ自然再生協議会の佐藤良平です。本日、この場で活動の報告をさせていただくことができ、ありがとうございます。

それでは、少しの時間ですが、始めさせていただきたいと思います。

まず、私どもの団体ですけれども、北上川の支流です。久保川という川は、一関の萩荘というところを流れておりまして、その久保川一級河川ですけれども、その川の上流、約10kmの地域の中を「久保川イーハトーブ世界」と名づけて、そこで「自然を守る活動」、「自然再生活動」を行っている市民団体です。

この団体の発足のきっかけは、久保川の流域に2000年代に入って侵略的外来植物と言われている、セイタカアワダチソウといって、黄色い花が秋に咲くような植物ですけれども、それが大変繁茂しまして、それに危機感を覚えた流域にある知勝院という樹木葬をやっている寺院の和尚さんが、市民団体やほかのＮＰＯ法人や大学の研究室などの協力を仰いで立ち上げたものです。

久保川は、結構特徴的な川で、上流域はこのような岩盤むき出しのかなり浅い河川になっていて、下流域に行くと、このような大きな崩れた斜面になっていまして、大体その川が上の斜面の高低差が何十ｍもあるようなところで、下流域にはサケが遡上してくるといったような川になっています。

具体的にどこの範囲かといいますと、近くで有名な場所だと磐井川の厳美渓がありまして、我々が活動の範囲としているのは赤い枠線の中。ここが、久保川が流れていて、距離的には大体北から南に４km、西から東に10kmの範囲の中で自然再生事業をやっています。

この久保川イーハトーブ世界の「イーハトーブ」というのは宮沢賢治先生が創作した理想郷の名前で、ここからちょっといただいて使わせてもらっています。

我々の目標としていることが大きくまとめて４つあります。まず一つは、生物多様性という言葉を最近、耳にするようになりましたが、この「生物多様性に満ちた水田や溜池環境の保全再生」。二つめとして河川、里山を中心とした水辺の「里地里山の自然環境を保全する」ということ。そして、里地里山の環境が劣化しつつある地域に、かつて存在した日本にもともと住んでいる在来の植物だったり、動物だったり、昆虫だったり、在来種から構成される生態系を再生させて自然環境学習の場として役立たせる。

そして、この「里山の自然と人との関わりの維持・回復」をして、自然と共生する社会の重要性を地域の内外に広く発信していく。そして、この再生された自然を活かした里山歩きとか、自然観察会とか、保全再生作業の体験など、自然環境学習をテーマとしたエコツーリズムなどによって、この首都圏と当該地域の交流を活発化させる地域おこしにつながればということを目標にしています。

この団体は環境省が定めている自然再生基本方針に基づいて活動しています。

生物多様性とはどういう意味なのかと言いますと、難しくはいろいろな定義があるようですが、簡単に申しますと、例えば、川があったり、人が住んでいる家を含む、田畑やため池があったり、そして樹林があったり、このようないろいろな環境に、それぞれそこに住んでいるいろいろな生き物が共生して暮らしている。

このようにいろいろなものが豊かである環境や、生き物の層が豊かであるところを「生物多様性が豊か」というふうに表現するんですけれども、地域の場合は生物多様性に加えて、地域の地元の人々が今も行っている草刈りとか、野焼きとか、あとは、土側溝を利用した伝統的な農法、「くらしの文化」が合わさって、「現在の日本から失われつつある自然環境、生物多様性がとても良い形で残されている」地域というふうになっています。

ところが、先ほども少しお話ししましたが、2000年代に入って、下のセイタカアワダチソウとか、ウシガエル、アメリカザリガニや、オオクチバスといったような、生態系を破壊して生物多様性を大きく損ねてしまう侵略的外来種というのが、大量に侵入してきました。

そこで協議会では、具体的に、この４つの活動を通して、それを何とか防ごうとしています。

地域の住民の方々と協力して、この「侵略的外来生物の防除作業」、そして、休耕してしまった田畑を利用してそこをビオトープ化してため池をつくったり、または棚田や雑木林の整備をしたり、そして、ほかのＮＰＯ法人や大学の研究室と連携して、研究の成果を発表したり、また実習を行ったりしています。

そして、これらのいろいろな活動や成果を皆様に広く伝えるために地域住民や都市からの住民を

対象とした「自然観察会の実施」などを行っています。

少し駆け足でいきますけれども、ウシガエルの防除については、久保川流域の川を中心にして、範囲に大体600箇所近くのため池が今ありまして、そのうちの100箇所にこのアナゴ篭という篭を2011年から仕掛け続けて、ウシガエルやオタマジャクシをずっととり続けてきて、何匹とったかも集計していますがこの防除を続けた結果、下の写真にあるような、いわゆる在来生物。在来の、特に水生の昆虫、昔はよくいたのですが、今は絶滅危惧種になっています。ガムシとか、あとはトンボの幼虫。こういう在来の昆虫類の数がふえてきていることがわかっています。

それに加えて植物のほうです。このセイタカアワダチソウが、2000年より抜き取りを開始し、当初は年間６tの抜き取りをしていました。これは、久保川の基盤の整備をした後に、大量に生えてきたのですが、これをずっと取り続けていて、2013年には年間２tまで減少させることができて、それに加えて、地道な草刈り機を使うこともありますが基本は選抜的な除草といって、植物を選んで抜き取る。例えば、背の高くなるようなススキとか、そういうものを選んで抜き取るようにした結果、下のような絶滅危惧種に指定されている在来の植物がよみがえってきています。

そして「耕作放棄地」です。休耕してしまった田畑、雑木林を利用して、「ササ刈り」だとか、ため池をつくることによって、このような在来植物をよみがえらせることにしていて、魚はなかなか自然によみがえることは難しいので、近くにもともと生息しているところから、これ、もう岩手県内では絶滅の一歩手前となっていますけれども、シナイモツゴという魚がいましたので、そちらも放流したら、今、自然にふえてきて、かなり個体もよみがえってきており、こういう休耕してしまったところを利用して在来種とか、こういう生き物の生息環境をつくっているという状態です。

発足からそろそろ10年が経ちますが、ため池や棚田を中心としてきた活動が主ですが、今後は、この「地域の水源である久保川での活動も活発に」していこうということで、今までには川遊びを兼ねた環境学習、東北の大震災に被災した子供たちの受け入れとか、地域の児童保育所の子供たちの受け入れをしています。また、今、セイタカアワダチソウは少なくなりましたが、今はキショウブが大変繁茂していて、これは近くの農家さんとかでも水路を埋め尽くしてしまって大変だということになっていますが、これの防除を中心として活動しています。

そして、専門的な研究者を招いて調査をした結果、またこのような絶滅危惧種に指定されているハナカジカというものが近くの川で見つかったりもしていますし、そのほかの整備として、河川周辺の草刈りもやっています、都市住民を対象としたリバートレッキング、水質調査などもやっており、これからの河川についてはいろいろな活動を発展させていきたいなと思っています。

まとめです。この久保川流域での自然再生事業の成果について紹介しますが、地域の方々が守り続けてきた暮らしとか、そして復活した自然再生が、多くの人々に活動し、交流する機会を与えています。

これは３年前から日本ユネスコ連盟とダンロップ東北という企業が協力して、この耕作放棄地でのため池の造成や、植樹作業を手伝うということを今やってもらっていて、毎年５月ぐらいにやっており、60人の社員さんたちが来てくれて、私たちが３カ月かけてやる作業を１日でやってもらっています。

あとは、都市大学の研究を仰いでいるということもお話ししましたが、地元の短期大学の学生さんたちに来てもらって、これは幼児教育科というところの生徒さんですが、やはり子供の教育のためにはこういう自然を残すことが大切だということで、「校外学習・自然体験」をしてもらっています。

あとは、他県からのホームスティの受け入れがあったり、この現地での研究者同士の交流にもつながっています。

地域内外の企業や学校、さまざまな団体と連携して、体験・教育の場としてこの地域を活用して、それが教育から心のケア、癒しとか、また来たいと思える場所、子供たちにも愛される場所へとなるように目指していきます。

様々な人に地域の事（自然や人の暮らし、文化伝統）を知ってもらう、地域の良さを知ってもら

うために自然を守ることが大切だと思っています。

地域内外と連携、協力して自然再生、地域おこしに今後も努めていきます。

2015年にめでたく久保川イートハーブ世界という名前で、環境省から生物多様性保全上重要な里地里山にも選ばれましたし、これからは久保川という枠組み、殻を破って、北上川のいろいろな団体さんがいますので、ぜひ協力したり、意見交換を、この場をかりて続けさせていただきたいと思っていますが、最後に、人間も自然の一部と考えればこのように外来植物が侵入してきたり、自然が変わっていくこともしようがないことかもしれませんが、幸いなことに、ここの岩手県全体で考えても現在の日本から失われつつある人と自然が共に暮らす環境、里山の風景が残っています。これを日本のどこかに残していってもよいのではないかということではなくて、これは絶対残したいという思いが、私たちにはあります。

命や環境について考えるきっかけの場として、次世代へ向けて、この地域を守り、情報を発信していきたいと思います。ありがとうございました。

【質問】　配付した資料の中に「生態系被害防止外来種リスト（抜粋）」というのがありますが、植物の名前だけでは分かりにくいと思いましたので、河川沿いで注意したい植物については、写真をつけています。このような植物たちが駆除対象になるかと思っています。

河川ではありませんが、最近は国道沿いにニワウルシも目に付くようになっていますので、注意が必要です。

写真からも分かるかと思いますが、セイタカアワダチソウやオオハンゴンソウなどは、花がきれいであったり、ミツバチの蜜源植物であったりして、草刈り等も控えられてきた経緯もありました。しかし、近年、久保川でのセイタカアワダチソウの駆除や盛岡市内を流れる中津川でのオオハンゴンソウの駆除の活動も行われており、また、他にも生態系の保全活動を行っている団体もありますので、次年度にでも紹介できればいいなあと考えています。

【質問】　非常に専門的な分野でありながら、地域との取り組み方、連携の仕方、とても上手に進めているなと思いました。

こういう方法でするともっと地域との連携にいいよとか、どういうやり方をしているか教えてください。

【佐藤】　私ども、その点は非常に苦労しまして、保全活動を行っているというところが、やはり地域の方々が所有しているため池とか、棚田とかが中心なので、そこに入っていくときには許可が必要になってきますが、こういう活動をしていて、例えばセイタカアワダチソウがこういう生き物ですよという案内を、区長会を通して地域の方々に回覧板で回して周知をしたりとか、常に活動するときにはやはり敷地に入るときに声をかけたりとか、そういう細かいところから、今の段階では、活動に協力してもらうというよりは、まず活動を理解してもらうというところから始めて、何とか今、久保川流域の地域全体的にはそういう活動をしているところなのでよろしくねというような立ち位置になっていまして、中には自主的にウシガエルを防除するような篭を仕掛けてくださる方もいるので、地道な声かけが、まずは必要なのかなと思います。

今お話ししたこと全て、ほとんどお配りしている冊子に載っていますので、後でどうぞご覧になってください。中に１枚、現地案内の資料があり、電話番号、ＦＡＸ等書いてあります。お電話いただければ現地の案内も可能ですので、もしよろしければ当地へいらっしゃってください。

久保川イーハトーブ世界の自然再生
活動報告

久保川イーハトーブ自然再生協議会
佐藤　良平

・久保川イーハトーブ自然再生協議会とは？

⇒北上川の支流、久保川（一級河川）の上流、約10Kmの地域、（久保川イーハトーブ世界）にて、自然を守る活動（自然再生活動）を行う市民団体です。

2000年代、流域に繁茂した侵略的外来種、セイタカアワダチの抜き取りを流域の寺院、知勝院が実施。それをきっかけに2009年、（市民、NPO法人、大学研究室などを含む民間パワーでの）協議会を発足。

久保川イーハトーブ世界

⇒岩手県、久保川の上流、約10kmの周辺の地域を
（東西約9km、南北4km＝自然再生事業の範囲として活動）

「イーハトーブ」＝ 宮沢賢治が岩手を題材にして名付けた理想郷

自 然 再 生 事 業 の 目 標

① 生物多様性に満ちた水田・溜池・河川を含む水辺と里地里山の自然環境を保全する

② 劣化しつつある地域に、かつて存在した在来種から構成される生態系を再生させ、自然環境学習の場として役立たせる

③ 里地里山の自然と人との関わりの維持・回復など、自然と共生する社会の重要性を内外に発信していく

④ 再生された自然を活かした「里歩き」や、保全再生作業体験・自然環境学習をテーマとしたエコツーリズムなどによって首都圏と当該地域の交流を活発化する（地域おこし）

環境省が定める自然再生基本方針に基づき活動する

生物多様性とは？＝色々な環境に色々な生き物が暮らしていること

久保川イーハトーブ世界 ＝ とても豊かな自然と生物多様性

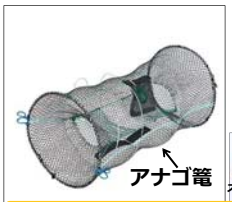
地域の伝統的な農法（草刈り、野焼き、土側溝）くらしの文化

**現在の日本から失われつつある自然環境、
生物多様性がとても良い形で残されている**

しかし！　2000年代になって…

生態系を破壊し、生物多様性を大きく損ねてしまう
・侵略的外来種が地域に侵入、大繁殖！
（大規模工事の影響　・　人による持ち込み等）

ため池におけるウシガエル防除活動　結果



2010年より、ため池100カ所以上にアナゴ篭を仕掛け、防除を実施

・通年4月～11月に防除実施

・一つのため池につき、月４回ほど巡回、篭の引き上げを行う

・篭に入る在来種は種と個体数確認後、放流。ウシガエルは捕獲、防除

ウシガエルの個体数減少、抑え込みに成功
2011年～15年は、ツチガエル、ガムシなどの在来生物、特に大型水生昆虫の個体数が増加した

侵略的外来植物の抜き取り作業　結果

2000年より抜き取りを開始
当初、年間6ｔの抜き取り
↓
～2013は年間2ｔまで減少
＋
地道な下草刈り

その結果、希少な在来の植物、種数が増えた

地域の水源である久保川での活動も活発に

川遊び環境学習の受け入れ

侵略的外来植物、「キショウブ」を中心とした外来種防除活動

市民や都市大学協力、専門的な生き物調査

・河川周辺の草刈り作業

・都市住民対象の
リバートレッキング

・河川水質調査

…なども実施

まとめ…久保川流域での自然再生事業の成果について紹介

地域の方々が守り続けてきた暮らし、復活した自然環境が
多くの人々に活動し、交流する機会を与えています。

地域内外の企業や学校、
様々な団体と連携
体験・教育の場として活用
↓
教育から心のケア(癒し)
また来たいと思える場所
子供たちにも愛される場所へ

様々な人に地域の事（自然や人の暮らし、文化伝統）を知ってもらう、地域の良さを知ってもらうために自然を守ることが大切。
地域内外と連携、協力して自然再生（地域おこし）に、今後も努めていきます。

…最後に

人間も自然の一部と考えれば、
外来生物の侵入も自然な事かもしれない。

現在の日本から失われつつある
人と自然が共に暮らす環境（さとやま）
が日本のどこかに残っていても良いのでは？
… 残したい！

命や環境について考える切っ掛けの場として、
次世代へ向けて、この地域を守り、
情報を発信していきます。

③「川を活用し盛岡のまちづくりにつなげたい」
北上川に舟っこを運航する盛岡の会
事務局長　阿部 優 氏

ただ今ご紹介をいただきました、「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」の阿部です。

私どもは川についてほとんど素人でございまして、ほとんど知らないもので、非常にペテン師みたいな、何かよくわからないようなことを言うと思います。勢いだけでやっていますけれども、ただいまからせっかくのお時間をちょうだいしましたので、お話をさせていただきます。

最初に盛岡のご紹介ですが、盛岡を語るときは必ず、まず岩手山と北上川、そして盛岡城です。そして、中津川。これは日本の名水100選にも選ばれています。

歴史と文化の香る町、盛岡です。四季折々にすばらしい景色があり、初夏の風物詩、チャグチャグ馬コ、夏は盛岡さんさ踊り、そして北上川ゴムボート下り、この２つはギネスブックにも登録されています。舟っこ流しは８月16日、お盆に行っています。

これは、藩政時代の盛岡の鳥瞰図です。やっぱりこの時代にも岩手山を背景に書かれていいます。

盛岡城を中心に３つの川、北上川、雫石川、中津川、そして、盛岡の城下町に入るときに渡りました舟橋。これは舟を連なって、下に木を敷きまして通って、ここから盛岡に入ったということですが、この舟橋の近辺には船がいっぱい浮かんでいます、このころから盛岡は舟運が盛んだったと言われています。

これを現在の航空図に照らし合わせて、私どもの舟っこの会の会員を紹介させていただきます。

ほとんど商店街みたいな、７団体が集まって、舟っこの会をつくっています。

一番上流の地域には材木町商店街振興組合、これは夜市で有名なところです。そして、盛岡駅前東口振興会、私も所属しているところですが、川のへりに木伏緑地がございまして、ここでいろんなイベントをしています。

そして、盛岡駅前商店街振興組合。これは駅前から開運橋のところで、100均市とか、そういうイベントをやっています。

中の橋のほうに移りますと、肴町商店街振興組合。これは藩政時代から栄えた商店街で、盛岡でたった一つの全街アーケードの商店街です。

藩政時代の御蔵を守っている南大通三丁目町内会。舟っこ流し協賛会。我々が舟を流して、終着のところだと考えています盛岡まち並み塾、もりおか町屋物語館というところに、いろんなものを飾っています。

こういう団体で私どもの北上川に舟っこを運航する盛岡の会がつくられています。

活動報告ですが、昨年の２月15日に設立しました。ですから、まだ１年経っていません。その割には結構いろいろな活動をしてきました。

中でも記念講演会。舟運を、皆さんに知っていただこうということで行った設立講演会で、今日お見えの国土交通省の岩手県河川国道事務所の三浦副所長さんにも講演をいただきました。

また、平山先生にも講演をいただき、これがす

ごく評判がよくて、１年に２回、２回目も10月に講演をいただいています。

それからもう一つ大きな活動としまして、北上川フェス in MORIOKAというフェスタを行いました。

ちょうど私どもが考えています、舟下り、夕顔瀬付近から町屋付近、明治橋付近まで舟を下らせようということでやったわけですが、この大変わずかな部分まで、なかなか私ら川をよくわからないで、全く本当に私どもは無知だなと感じました。なかなか大変でしたけれども、盛岡市あるいは国交省のご協力をいただきまして、行いました。

これはそのとき木の船が調達できないので、ゴムボートでやったわけですが、これは開会式の模様です。今日おいでの国交省の成田所長、あるいは平山先生、盛岡市長夫妻にもボートの出発式にご登壇いただきました。

そして、開運橋のところでは、国交省のボートを出していただきまして、旋回してその辺をご覧いただきました。

そしてこれが上陸地点、下流部ですが、もう少し下りたかったのですが、この辺しかボートを着けられるところがないということで、国交省の方に急いでこのような場所をつくっていただきまして、行いました。

そしてこのフェスタは、歴史探訪ということでしたので、参加者には南部藩時代の米蔵を見ていただいたり、あるいは、もりおか町家物語館、これは昔の物をいろいろ飾っていますけれども、こちらのほうも見ていただきました。

また、町家でＣＧで撮影した舟橋を作成しまして、そちらのほうも見ていただきました。

それから、私どもが今やりたいなと思っていることがこれです。いわゆる先ほどの場所は大体川を下るところは、夕顔瀬付近から下っていくわけです。これを一つの観光にしたいと思っています。

木造の船で下りたいということで、今、木造の船を発注していますけれども、ここから下りまして、この三川の合流の地点、この辺で１回船をとめまして、ここもすばらしい背景です。岩手山があり、北上川が流れ、ここでこういう啄木の「ふるさとの山に向かひて言うことなし ふるさとの山はありがたきかな」。啄木が入った高等小学校がすぐそこに見えるわけです。

それから、盛岡城も見えます。そういう観光のお話をしながら、下っていただきまして、終着点。

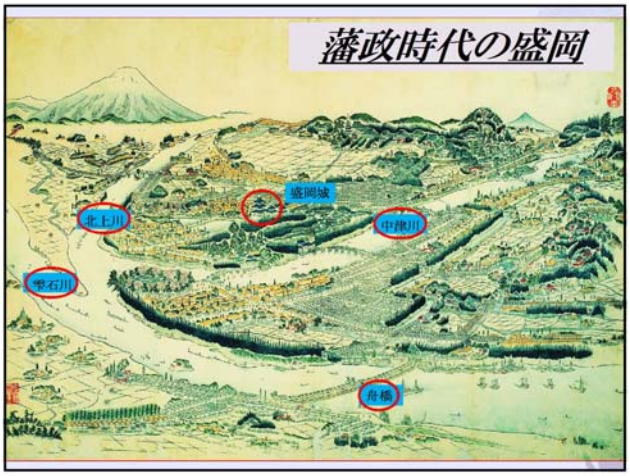
終着点から船をおりていただきまして、ここからがまちづくりにも共通するわけで、市内を回遊しながら帰っていただく。貸自転車で帰っていただく、あるいは、「でんでんむし」というバスが出ていますので、あるいは徒歩で、いろいろ街を回遊しながら、歴史を見ながら帰っていただくと考えています。市内回遊です。

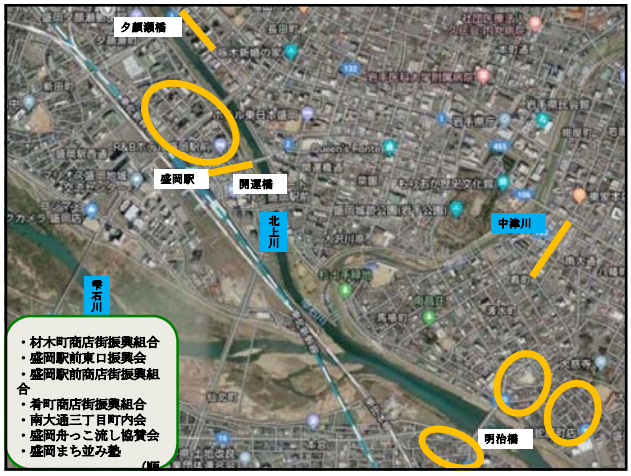
そして、舟っこの会、いつの日か、これはちょっと眉唾物ですが、いずれ「東京から新幹線で２時間半盛岡へ　Discover Pacific Ocean」。太平洋を発見する旅ということで、盛岡から北上川を海まで３日コース。160kmの旅。

盛岡に体一つで来ていただいたら、宿泊、バーベキュー、釣り具、その他ボート、全部レンタルします。ぜひ来ていただきたい。そして、太平洋に下る間に皆様の川の駅などを拝借しながら共同でこういう事業をやれたらすばらしいなと思って、考えたものですが、少し眉唾で、先ほどもちょっと聞きましたら、３日では下らないのではないかなとは聞きましたが、いろいろな方法はあるので、先に何をやるかということを決めてから、それができることを考えようと思っています。

これがうちの舟の会の会長が言って、私も最後に一言お伝えしているのですが、川に対する思いはそれぞれさまざまで、「川を活用し、川に対す

る様々な思いを組みあわせ、新しい盛岡のまちづくりにつなげたい」と、大変すばらしいことだと思って、お披露させていただきました。これで私の発表は終わらせていただきます。





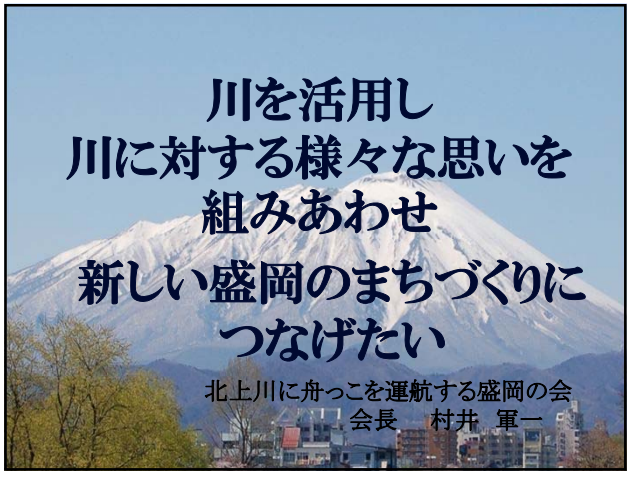
北上川に舟っこを運航する盛岡の会」設立記念講演会
義昭 先生
義昭 先生
「北上川舟運考」
北上川に舟っこを運航する盛岡の会
主催 北上川に舟っこを運航

第1回「北上川フェスタ」
IN MORIOKA
日時 平成29年6月17日(土)10:00~16:00
場所 北上川夕顔瀬橋~明治橋下流区間
¥1,000
北上川
北上川に舟っこを運航する盛岡の会

舟で下って自転車で観光
盛岡市内観光
市内周遊
北上川
料金表
出発時間
9:00

舟っこの会
いつの日か…
夢
北上川に舟っこを運航する盛岡の会

東京から新幹線で 2時間半 で盛岡へ Discover Pacific Ocean
盛岡 北上川を下って海まで3日コース 太平洋へ
盛岡~石巻160kmの旅
宿泊から舟もキャンプ用品も
全て揃えてお待ちして居ります。
盛岡
鮎つり
太平洋
石巻
川の駅
途中要所
川の駅
川の駅ご案内


川を活用し
川に対する様々な思いを
組みあわせ
新しい盛岡のまちづくりに
つなげたい
北上川に舟っこを運航する盛岡の会
会長　村井　軍一

④「川のふれあい　北上川サポート協会」

ＮＰＯ法人 北上川サポート協会

事務局長　　金野 和則 氏

それでは、黄色いジャンパーで判断しかされない、北上川サポート協会の金野です。ジャンパーを脱ぐと、この人誰だったっけなということで疑問視されますので、今日も黄色いジャンパーで決めて来ました。

北上川サポート協会の昨年の活動事例をもとに発表をします。私、北上川サポート協会の金野と言います。よろしくどうぞお願いします。

私たちは、「川とのふれあい」をテーマに活動を展開しています。私たちの活動拠点は、県南、一関市川崎町の防災センターにあります。協会の活動資金は国土交通省の「河川調査船『ゆはず』の運行管理業務委託」、そして、「一関市からの指定管理業務」この２本立てが資金源となります。

私たちの活動を大きく５つに分けています。

「水辺創造活動」。これにつきましては、「ピザ焼き体験」、そして「ホタルの観察会」。「水生生物調査」。もう一つは自然学習活動。これは「川っ子祭り」。あとでスライドでご紹介します。

川の体験と、「環境保全活動」については、春と秋の「北上川のクリーン作戦」。いわゆるごみ拾いです。

「人材育成活動」、これについては、協会員の「救急講習」、そして「危険予知訓練」。

「支援交流活動」については、秋田県秋田パドラーズさんと交流があり、雄物川のクリーンアップ作戦の参加、そして北上川流域交流Ｅボート大会の支援。いわゆるサポート協会が実動部隊ということで支援を行っています。

この写真については水辺創造活動の中の親子レク。子供会対象のピザ焼き大会の写真になります。子供たちが生地を伸ばしてトッピングをして、今、ピザ窯が見えますが私がつくったピザ窯第１号機になります。

ほとんどが余った資材の普通のれんがです。買った資材は耐火セメント、耐火モルタルです。一応２段式にしています。

これは子供たちがおいしいかまずいかはわからないけれども、食べている写真です。私はおいしいと思います。

これは昨年末完成した２号機です。こちらは２号機完成。軽量化し軽トラックに積めるようにしました。活動の場の拡大を狙うために、軽量化しました。

看板は、ネットを見ながら小さなピザ屋ということで看板を上げました。

次が同じく水辺創造活動の竹灯りの作成したときの記念写真です。この写真は本当は子供会ですので、子供が穴を開けなければいけないのですが、おじいさんが張り切り過ぎて、一生懸命今、穴を開けています。

これで一番大変なのは、ドリルで穴を開ける作業ですが、生竹を使うとすぐ割れてしまうので半年間ぐらい乾燥させた竹を作っています。

これは作業段階の途中で、明かりを点灯してみて、穴が少ないか多いか、多いかは埋めようがありませんので、穴が空いたままですけれども。中

に入っているのは100均のＬＥＤの懐中電灯です。

これはちょっとまた変わっていますけれども、これは自分たちがつくったやつです。中は同じく100均のＬＥＤライトです。あとはこういうフィルムを使ったりしていろんなことができます。

これも私たち協会員がつくったやつです。昨年の大晦日、川崎町内のお寺、そして神社で貸し出しして、イベントでも点灯しています。

これは門松づくり。門松といっても、大きい門松ではなくて、ミニ門松です。材料は１週間ぐらい前に山に行って切り出しをして、大変大汗をかきながら、約50～60個の組み合わせをつくりながら、準備しています。ほとんどの材料は手づくりです。

最後は「もちつき」になります。子供たちが楽しみにしています。これは全部の記念写真です。それぞれオリジナルのミニ門松の完成の写真です。間違えてサンタクロースもいましたけれども。

これは、一関市立川崎小学校４年生の水生生物調査の写真になります。１週間前から学校に出てきて１時間の座学。そして１週間後の現地での水生生物調査の写真です。小学校から歩いて５分近くのところで、環境的には近いし、安全な場所になります。

今、一生懸命採取して、あとは、指標生物の下敷きとにらめっこしながら判定をしています。結果的にはきれいな水でしたということで、汚い川にならなくてよかったなと思っています。

これは自然学習活動の中で川っ子祭り。私たちの活動の中でも、夏場のイベントになります。

内容的には、水上バイクの体験乗船、長生丸の体験乗船、カヌー体験。

これが川っ子祭りのメインイベント、「人間カーリングタライでトライ」という競技になります。３ｍのローラーコンベアを４本、全長12ｍありま す。川の部分の張り出し部分が１ｍ。さらに３人１組です。１人がタライに乗ります。２人が押します。人間関係が悪ければそのまま思いっきり落としに行く。これがギリギリでとめる競技です。飛距離を争う競技ですかというと、これは大間違いです。ギリギリで先端でとめます。最高記録が12cmです。

これは試験的に落とされている私です。落としているのは、今日あそこにいる人だけれども、思いっきり落とされます。前の日にはセッティングし、安全確認をするためには何回も落ちて、平らを確認したりして止まらなければ『ドボン』です。

同時開催で陸上のほうでは、水辺のマルシェということで、今年で２年目になります。約30店舗のマルシェ、個人店舗が集まり、開催しています。結構お客さんがお見えになっています。

これは自然学習活動の中で、カヌー体験のスタート地点になります。横石橋梁の下からインクラインまで約３キロ、カヌー体験20分から30分というようなコース体験をしていいます。

カヌー体験のできない子供たちは、砂鉄川の河口で水遊びをしながら、あとは川流れをしている。当然川流れをする前には安全な流れ方、深いところ、浅いところと指導しながら、スタッフがついて、ゴムボートもつけて、本流に出て、インクラインまで体験をします。

春と秋の北上川のクリーン作戦。とにかく舟が出まして、北上川の両側のごみを拾っていいます。

これは人材育成活動の中で、久しぶりに協会員も楽しもうということで、10年ぶりに四十四田ダムからゴムボートで下りました。天気の悪い日でした。肌寒くて。

ここは、ご存じの北ホール。水が多くてすんなり行ってしまった。猫も一緒に下りました。開運橋の上で、下から「かわいい犬ですねー」と言われました。「いや、猫です」と言って笑われましたけれども。本当に寒かったです。

これは出発前の写真です。第２弾ということで10月１日、川崎から石巻まで。ゴムボートに乗って、朝もやといっても８時半です。これは台風の影響で伸びました。ちょうどサケの解禁だったです。

11時半の和渕のお昼時間には快晴でした。そして約１時半下って、無事到着しました。これが記念写真になります。

あとは、人材育成活動ということで、国土交通省の船がありますので、船舶の運航中に何かあってはどうなのかなということで、布担架を購入しまして、傷病者を想定して搬送訓練をしています。

支援活動、「秋田パドラーズとの交流」。雄物川のクリーンアップ作戦に、５月に参加しています。秋田パドラーズさんは、カヌーで下っていって、中洲または岸に上陸しての「ゴミ拾い」活動を行っています。ちょっとしたお手伝いを行っています。

これはゴール後の記念写真。夜は定番の交流会。これも雨でした。寒かったです。

支援交流活動。これは昨年、第13回の北上川流域交流Ｅボート大会開会式。これは毎年仮装して参加するチームです。一応ドラえもんだと思います。ドラえもんに見えるか見えないかは別として。

最後になります。「今後取り組みたい活動」をということで、協会員のアイディアにより、竹灯りを作成しました。これ結果的には新聞にも取り上げていただきまして、地域住民の方からも関心を持っていただきました。

これに伴っての、地域とのかかわりもいいのかな。今後とも会員からの意見やアイディアを反映して活動していきたいと思っています。当然協会員のスキルアップにつながっていったらいいかなと思っています。

あとは、背伸びせず、無理せず、できることからコツコツと今後も活動を継続してまいりたいと思います。

1．ＮＰＯ法人北上川サポート協会

◎ 活動拠点
一関市川崎町（川崎防災センター）

○ 協会の活動資金
・国土交通省河川調査船「ゆはず」の運行管理業務委託
・一関市からの指定管理業務委託

2．日頃の活動について・・・

○ 主な活動として5つ！！

・水辺創造活動・・・ピザ焼き体験・ホタル観察会
水生生物調査等
・自然学習活動・・・川っ子祭り・カヌー体験等
・環境保全活動・・・春・秋の北上川クリーン作戦
・人材育成活動・・・救急講習、危険予知訓練等
・支援交流活動・・・秋田雄物川クリーンアップ
Ｅボート大会支援

ピザ窯２号完成
（軽量化）

軽トラック積載可

活躍の場の拡大

一関市立川崎小学校水生生物調査
（水辺創造事業）

千厩川支流の加妻川

（自然学習活動）
川っ子祭り

長生丸体験乗船

カヌー体験乗船

人間カーリングタライでトライ
秋田千秋公園・気仙沼大島でも実施！

先端ぎりぎりで
止める競技！
止まらなければ
「ドボン」

「水辺のマルシェ」の開催

カヌー体験スタート地点（自然学習活動）
大船渡線横石橋梁下～インクライン　約3キロ

川遊び・川流れ体験
（砂鉄川河口から北上川へ）

春・秋の北上川クリーン作戦
（環境保全活動）

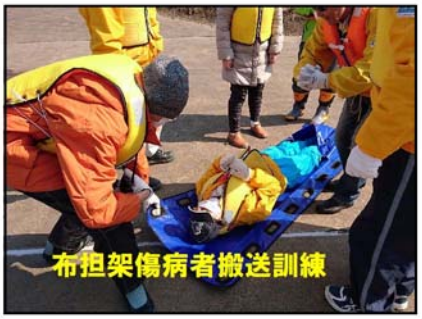
（人材育成活動）
「ど～んとまるごと北上川」
H29年6月・四十四田ダム～南大橋まで

午前8時半：朝もやの中をスタート

脇谷閘門

午後1時半、石巻到着（中瀬）

無事にゴール・記念写真


布担架傷病者搬送訓練

秋田・雄物川

カヌーで着岸してゴミ拾い

トレーラーハウスで交流会（大平山）

毎年仮装して参加するチーム

３．今後取り組みたい活動

- 協会員のアイディアにより竹灯りなどを作成、結果地域住民からの関心を呼ぶ形となった。（地域との関わり）
- 今後とも会員からの意見・アイディアを反映して活動していきたい。（協会員のスキルアップ）
- 背伸びせず、無理せず、出来る事からコツコツと今後も活動を継続。

⑤「北上川遊覧船 分流めぐりの試みほか」
水と緑の環境フォーラム・ものう
監事　舟嶋 茂昭 氏

どうもこんにちは。フォーラムものうの舟嶋と申します。どうぞよろしくお願いします。

我々、ものうフォーラムは、石巻の最北部にあります桃生を本拠地に、脇谷閘門の周辺を中心に活動している団体です。

これまでものうフォーラムは、「川遊び体験」とか、「川ガニを食べながら北上川を語る会」、その他いろいろ、クルージングをやってきました。

これらの１年を通しての活動をもう少し見直しをして、観光資源の掘り起こしであったり、教育支援の見直しとして、まず分流施設の脇谷閘門、それから、鴇波の洗堰のクルージング、「サケまつりの会場」としての北上川分流施設について、もう少し世の中に広めていこうではないかと考えています。

ご覧のように、新北上川、旧北上川のちょうど分流地点にある脇谷閘門、鴇波洗堰、北上町と石巻のほうに流れていくということです。

まず、脇谷閘門をご説明します。脇谷閘門は、大正14年に着工し、昭和７年３月に完成しました。全長73m、幅が7.8m。上のほうが下流部分から見た脇谷閘門、下のほうが上流部分から見た閘門ということになります。

では、脇谷閘門って何なのか。いわゆる分流施設ですので、国土交通省では、当時の土木者が大変苦労をしてやっとつくり上げた、そういう「叡智の結晶」であるというふうな言い方をされています。

そして、これを見ていただくと本当にわかります。北上川が流れていて、石巻のほうに流れていく川。そしてここの水位差が大体1.6mほどあるわけです。その水位差をうまく船で越えるための水面昇降機能があるということです。

これは、船が左側から下流部分から上ってくる。新北上川のほうに行きくときは、水門を閉めて、上流側の水門の上昇を待って上がっていく。初めてこの閘門を通過する子供たちや観光客の方は、大変感動するところです。船の上から下流のほうを見てもらうと、目視で1.6mの水位を感じることができます。

ですから、この脇谷閘門をもう少し観光資源として活かしていきたいなと、そんなふうに考えています。

これは、カナダの交換留学生の方々で、高校生ですか、脇谷閘門を通過したときに、当たり前のことですが、英語でびっくりしていました。

閘門をくぐって、そのままクルージング、こういったこともやっています。

これは４月の下旬ころだったのでしょうか。大変寒いときでしたが、クルージングをやりました。下のほうの写真がアズマヒガンという、九州であれば1,000m級にしか咲かないヤマザクラがもうこの時期、北上川の河口には咲いているという状況で、萌える柳の色、本当にきれいです。モワっとしたところに、桜のピンク色がすごく印象的で、寒いけれども景色がすごくいい。また、そのほかにも、藤のクルージングであったり、変わったと

ころでは、閘門の中でミニコンサートのようなものをやった団体もありました。

私たち出前授業をやっておりまして、４年生の子供たち、この閘門を通過するように働きかけています。私たちも無料ではできないので、若干の料金をいただくわけですが、本当に１団体に１回、人数に関係なく１万円とか、１人何百円という単位でやっています。

これは船に乗る前に１時間、北上川の歴史のことについて勉強する。

これは私で白いワイシャツの方では下流事務所の米谷出張所の所長さんで、いろいろ手伝っていただきました。

出前授業をやって、実際に一番子供たちが感動したことは、畳１枚分に３㎝の雨が降ったらどれぐらいの重さになるんだろうか。50kgの重さで、それを体感して、「えー！」と、子供たちがやっぱり感じたことでしょうか。

何校か、北上川沿いの学校を回りました。

ですから、もっとこの脇谷閘門通過について、もっともっと広めていきたいなと考えています。

あと、その分流施設の中で、サケが９月から遡上し、10月から解禁になりまして、漁協でもある当会の会長は、脇谷の洗堰のところでサケを捕獲しています。

漁協さんのほうに言わせると、大体北上川に遡上するのは52,000匹ぐらいで、捕獲するのが脇谷閘門の洗堰で25,000匹ぐらいを捕獲しているのだということでした。

あと、ここでサケの話をちょっとしますが、やはり北上川の遡上するサケはちょっと違うのだということです。

水温が少々高くても遡上できる。そして、東大の研究室の方に言わせると、筋繊維、筋肉の成り立ちがちょっと違っているのだと。ですから、尾ひれの力も強いし、200㎞ぐらいは大体遡上するだろうというふうな話でした。

それから、おもしろかったのが、「顔つきが大変北上川のサケは優しいですよ」というお話がありました。

あと、こういう話も聞きました。２匹のサケにＧＰＳをつけて、その追跡調査をやっていたら、１匹は逆に川を下ったというサケもいたということで、やっぱりサケの中でもバカはいるんだなと思ったことでした。

あと、サクラマスの遡上のメッカであったり、スズキが遡上してきたり、釣り人でたくさん賑わっています。

一昨年から北上川サケまつりを漁協が中心になってお祭りも実施しています。私たちの団体とか登米のかっぱの会さんとかが協力しながらやっています。これは開会式をやった風景です。

レジュメのほうに若干詳しい説明が出ていますので、お読みいただければと思います。

我々、約20年近くやっている、「イカダ下り」、川遊び体験について若干お話をします。毎年夏に、７月下旬ぐらいから３回から４回、実施しています。イカダを組む大変な作業ですが、９時半出発であれば６時半ぐらいから、このイカダ組みが始まります。ユニックを使って、脇谷の船着場で組んで、そして、でき上がるまで約３時間。長さもこれだけの長さがあります。

そして、いよいよ出航ということで、天気によってこのブルーシートをかけたりします。今年初めてドローンで撮った画像をお見せします。

今パソコン上ではドローンの画面が流れていますが、初めてドローンで撮った映像です。

このほかにも、私たち近隣の観光施設というか、教育支援とか、そういったものをもう少し掘り下げて活動していかなければいけないなと考えてい

ます。近くにはいろいろな施設もあります。有名なところでは、北上川が大きく蛇行している相模土手、白石宗直がつくった堤と言われています。そこにあるお鶴明神とか、そういったことも子供たちにも伝えていきたいですし、多くの方々にも見ていただければなと思います。

時間ですので、あと休憩のときにでも、ドローンの映像を流したいと思います。以上です。

【質問】　あの子どもさんのところは、船１槽で１万円とか、あるいは何百円もらっているとおっしゃっていたのですけれども、それはどういう名目ですか？

【舟嶋】　学校というところはお金がないので、学校では前の年から予算化をしている。ですから、30人の学級でも１万円、40人の学級でも１万円という形でいただいています。

【質問】　お金をもらうという事業と、陸運局とかというのは関係ないですか。

【舟嶋】　そこはガソリン代というか、そういう形でしかいただいていない。謝礼という形でしょうか。運賃というふうな捉え方はしておりません。

【質問】　画面でカニを食べるような文章がありましたが、それは何という名前のカニですか。

【舟嶋】　モクズガニです。北上川で採ったモクズガニを茹でて、食べて、酒を飲みながら北上川のことについて語り合うという感じです。

【質問】　もりおか・鮎の川基金です。

鴇波洗堰のほうは、北上川漁協さんがトラップをつくって、遡上している鮎を一網打尽にしていますね。（笑）　脇谷閘門では、船が通るたびに開けたり閉めたりするわけですので、できれば５月になりましたら、１日１回は開通させていただくことはできないでしょうか。

【舟嶋】　いろいろ時期を見て脇谷閘門開閉していますが、うちの会長が脇谷閘門を開閉する担当になっています。１週間ぐらい前までに申請すれば、脇谷閘門を通過できます。

鮎は一網打尽ということもありましたが、漁協さんのやっていることなので、一網打尽になるのか、幾分上流でやっているのか。まず魚道もちゃんと確保されていますので、かなり上流のほうにのぼっていくとは思いますが、うちの会長が漁協の理事でもありますので……。

【白石】　どうも。鮎については、鴇波でとって、それで各河川に放流用に出荷しています。とれる年とか、とれない年とかもありますが、そのほかは、閘門のほうでは一切鮎はとっておりませんので閘門についてはそのまま残っていると思います。

鴇波のほうは、５月ごろ、いろんな河川に放流用にとっている状況です。

あとは、船の項目では、観光船の申請は、小さい船ですので、許可制ではなくて届出制ですが、かっぱの会と私のほうとでやっておりまして、大人で20人ぐらいは乗せられるぐらいの観光船をやっています。それで乗船料としてはいただいている。ただ、学校の場合は、学校側の事情もあるので、料金は非常に安くして実施しています。

それで大体いいでしょうか。

【司会】　先ほど、北上川のサケの特徴、お話しいただきましたけれども、非常にまとまった資料をお配りしていますので、後でご覧いただければと思います。

これまでの主な活動

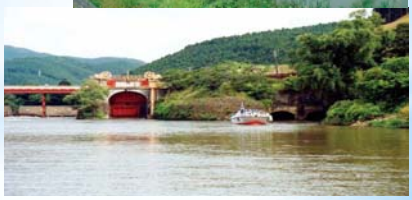
「川遊び体験」
「川ガニを食べながら北上川を語る会」
「北上川クルージング」
「お花見クルージング」
「クルージングやカヌー・シーサイクル体験」
「サケの放流への協力」
「北上川流域の交流」
「船着き場の周辺や川沿いの清掃活動」

観光・教育資源の見直し

1 分流施設

脇谷閘門や鴇波洗堰のクルージング

サケまつりの会場

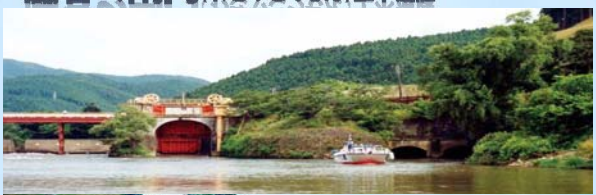


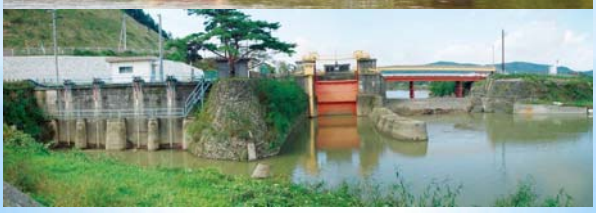
北上川分流施設（ぶんりゅうしせつ）

脇谷閘門について

大正14年着工　昭和7年3月完成
全長73m　幅員やく8m
全国稼働閘門20　その内11が稼働
昭和初期の重要な建築物
日本土木学会「推奨土木遺産」

脇谷の閘門（わきやこうもん）土木遺産



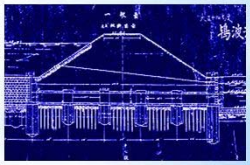


脇谷閘門について

旧北上川分流施設の成り立ち（1）

当時の土木技術者の苦労と叡智の結晶

* 建設の経緯
  * 新川開削において、旧北上川の低水流量維持及び洪水流量の低減を図る施設として計画
  * 当初、鴇波側で洗堰及び閘門を計画したものの、軟弱地盤等により幾度も設計を変更
  * 最終的に、脇谷側に洗堰及び通船用の閘門を追加
* 歴史的土木施設としての評価
  * 近代土木技術の黎明期に当時の土木技術者が『試行錯誤のうえ築造した記念碑的な土木施設』
  * 通常時の分派調節にオリフィス（暗渠）構造を採用するとともに、洪水時の分派調整として越流構造を併せもつ『唯一の施設』



建設初期は非越流構造であった鴇波洗堰

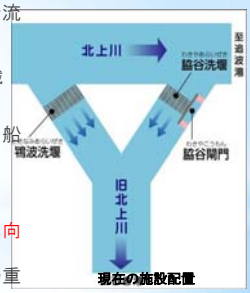
旧北上川分流施設の役割

2つの河口をもつ北上川の要

* 鴇波洗堰・脇谷洗堰の役割
  * 平常時及び洪水時に一定のバランスで流水を２つの北上川に分派する機能
    * 平常時は旧北上川に必要な水を供給
    * 洪水時には旧北上川の流量・水位を低減
* 脇谷閘門の役割
  * 水位差がある北上川と旧北上川の間を船で越えるための水面昇降機能

↓

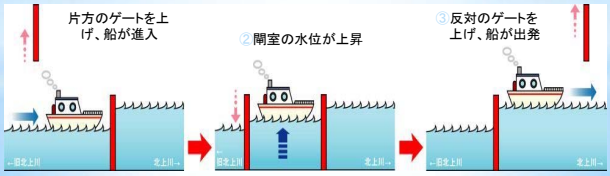
* これにより・・・
  * 北上川下流部の治水・利水が飛躍的に向上し沿川の開発が盛んに
  * 地域の安全な暮らしと産業等の発展の重要な基盤となっている



現在の施設配置

閘門のしくみ

* 旧北上川への水の分派のために洗堰の上下流で水位差（1.6mほど）が存在
* 水位差がある場所で船を昇降させる施設として脇谷閘門を設置
* かつて脇谷閘門を経由して石巻から岩手県一関付近まで舟運が往来



外国人もびっくり！！（交換留学生）

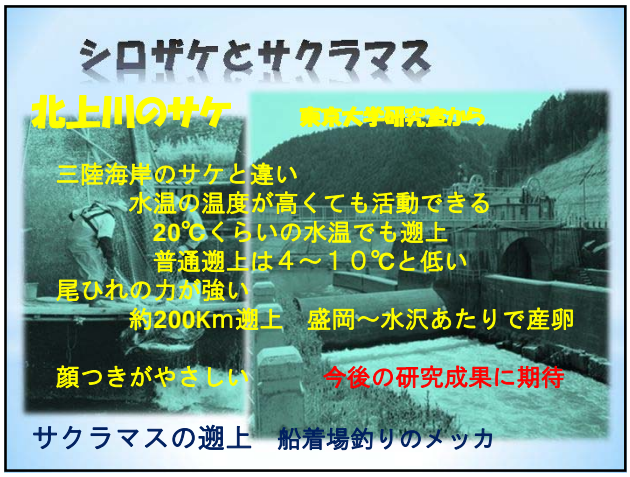
閘門をくぐってクルージング

寒ーいけど　山桜がきれーい　＊萌える柳もきれい

小学生4年の航行

事前に「北上川の歴史」を学習して

サケまつり北上川の魚　シロザケ
１０月から


シロザケとサクラマス
北上川のサケ
東京大学研究室から
三陸海岸のサケと違い
水温の温度が高くても活動できる
20℃くらいの水温でも遡上
普通遡上は４～１０℃と低い
尾ひれの力が強い
約200Km遡上　盛岡～水沢あたりで産卵
顔つきがやさしい
今後の研究成果に期待
サクラマスの遡上　船着場釣りのメッカ

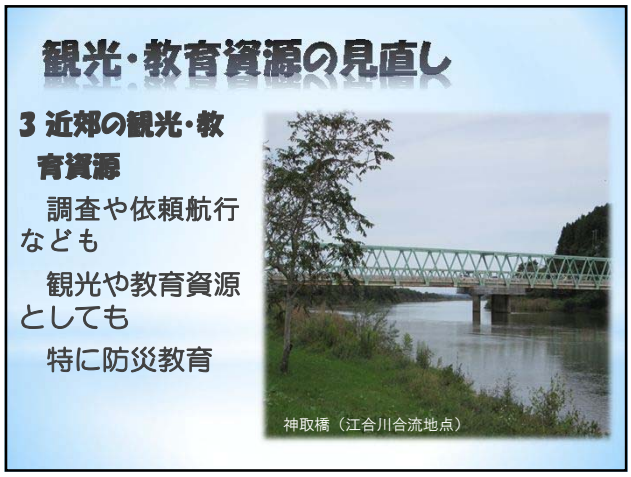
今年度のパンフ
第2回
北上川 サケまつり
10月14日(土)
イベント
サケ捕獲見学
海産サケ販売
海産サケあら汁・チャンチャン焼き
（有料）
子供対象イワナつかみどり（有料）
分流施設パネル展示・閘門カード配布
等々（下流河川事務所ブース）
日時　平成２９年１０月１４日(土)
１０時～１３時
場所　北上川河川歴史公園
主催　北上川サケまつり実行委員会
後援
問合せ　北上川漁協（0220-42-2258）

サケまつり(開会式典)
イベント
サケ捕獲見学
海産サケ販売
海産サケあら汁・チャンチャン焼き
（有料）
子供対象イワナつかみどり（有料）
分流施設パネル展示・閘門カード配布
等々（下流河川事務所ブース）

イカダ下り・川遊び体験
毎年３～４回実施
メイン行事

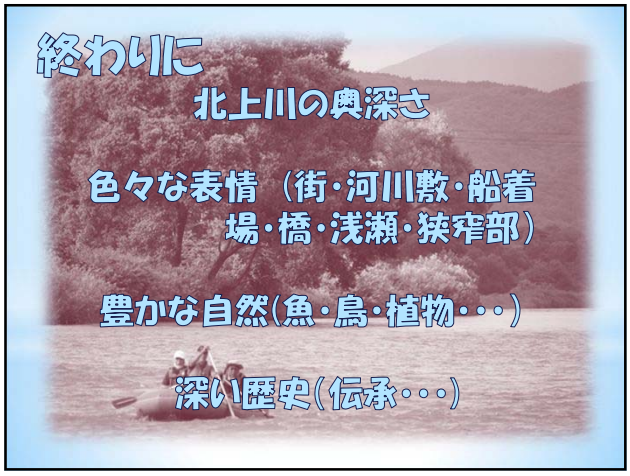
いよいよ　出航

イカダの解体と運搬


観光・教育資源の見直し
3 近郊の観光・教育資源
調査や依頼航行なども
観光や教育資源としても
特に防災教育
神取橋（江合川合流地点）

お鶴明神　（人柱になった悲しい話　民話）

活動を通して
もっと大人も子供も「遊び」を通して
自然と触れ合う


終わりに
北上川の奥深さ
色々な表情（街・河川敷・船着場・橋・浅瀬・狭窄部）
豊かな自然（魚・鳥・植物・・・）
深い歴史（伝承・・・）

⑥「胆沢ダムを活用した地域活性化の取組」

奥州市商工観光部商業観光課
観光物産係長　菊地 徳行 氏

皆さん、こんにちは。奥州市の観光政策を担当しています菊地と申します。皆様のお話を聞いておりまして、行政の話ではつまらないかもしれませんが、一担当者としての思いというか、主観も含めてお話をしたいと思います。

胆沢ダムにつきましては、皆様ご存じかと思いますけれども、石淵ダムの貯水量が足りないということで新しくできたダムです。大きさはかなり大きく、堤高132mで、東北地方の中では一番高い。体積につきましても全国第２位。堤防の長さも723mと結構な長さで、2013年11月16日に竣工しました。

このダムへのアクセスは、ＪＲ水沢駅、新幹線水沢江刺駅とか、東北自動車道から真っすぐ走って、胆沢ダムに着くわけですけれども、本当に真っすぐです。胆沢ダムへのアクセスが本当によくて、一般的にはこれぐらいの大きいダムになりますと、結構入り組んで山の中に入っていくこともありますが、このダムは本当にそのまま国道を真っすぐ走れば着いてしまうという、非常にアクセスがいいところです。

そういうようなアクセスがいいというようなことも含めまして、ここをいろんなところで活用したいということもあって、「胆沢ダム周辺の施設整備」計画を策定して、今のような設備をつくってきています。

眺望台とか、ここから見れば焼石山脈とか奥州市の胆沢平原とか、すごくきれいで、ここは石淵ダムが前あった堤体というか、実は水位が下がれば見えますが、そういったところがこの広場から見えるとか。

あとは、こっちのほうのおろせ広場というところから、猿の形に石が見える猿岩も見える、そういったようないろんな施設をつくっています。

胆沢ダムの堤体の下は、結構な広場になっていまして、我々としてはここを何とかうまく活用したいなと思っていますし、当然焼石山脈がこの辺にありますので、登山とか、いろんな形で自然活動に使えるエリアです。

当然、ダムの開設に当たりましては、行政だけではなく、いろんな関係する方々と一緒につくっていきたいということで、ダムができる前から「胆沢ダム水源地域ビジョン」をつくり、胆沢ダム水源地域活性化協議会という団体をつくりまして、いろんな活動を一緒に検討しながらやってきました。

これは一つの取り組みの「ダムフェス」。ダムカードが結構人気になっており、ダムマニアという方がたくさんいらっしゃるようで、ダムカードが欲しいという方もたくさんいらっしゃいますし、インフラが観光にも使われるようなことで、結構ダムを見に来る方がたくさんいらっしゃる。

ラフティングやカヌーもおもしろいのですが、ダムの堤体登山ということで、予約制で、結構高く疲れるのですが、非常に大人でも楽しめる形になっています。

これが秋の体験でダムヨガ。ということで、堤体は結構広くて眺めもよくて、天気がよければ本当に楽しめる場所でヨガをやってみたいということがあって、ヨガの体験会もやって、非常に好評でした。

あと、やっぱりダムを使う際、純粋に水だけでなく、水辺というのも結構大事なのではないかなと思っていまして、今年はバーベキューもやってみました。あいにく雨も降ってしまって、なかなかたくさんは来ませんでしたが、水に浮かぶということだけではない、水と戯れるとか、水と遊ぶというようなものもおもしろいのではないかなと思っています。

もう一つは、胆沢ダム直下が、「いわて国体」もあってカヌー会場にもなり、かなり評判はよくて、リオのメダリストの羽根田さんなどもいらっしゃって、非常にいいコースだと。国内でも有数のいいコースだと。アクセスもいいということもありますし、ダムの直下ということもあって、水量が常に一定です。雨が降った、何しようが、ダムで抑えていますので、常に一定だというようなことで、には非常にいい環境だと。

ジャパンカップ

あわせて、こういったような結構急流ですけれども、意外に横が、観客とか練習スペースにも使えるということで、非常にいいところであるというようなお話を受けて、カヌー協会さんとかとも連携をして、ジャパンカップを去年開催しました。今年も開催する予定でいます、カヌーにつきましては、もっと今年はカヌーのメッカとしてやっていきたいと言っています。

以上のように意外にいろいろやっているのではないかと思われますが、私は観光の担当でもあって、観光の面からもちょっとお話をします。

胆沢ダムの観光者数が、平成27年で75,000人ぐらい来ている。結構すごい数ですよね。

ただ、この効果というか、その人たちがどうも奥州市にお金を落とすような感じになっていないというのが、数字としても出ています。

結果的に、ダムに寄って、例えばそのまま須川、一関のほうに行ってしまうとか、逆にそのまま抜けて行って、花巻温泉のほうに行ってしまうという形で、なかなか地域にお金が落ちないというような状況。

何でだろうということですが、一つとしては、ダムという可能性、まだまだ我々としてもうまく把握できていないというようなことがある。

あともう一つは、観光客が何を望んでいるのかというところが、我々として捉え切れていないのではないかと。

結局ダムだけやって、何もないというようなのが今の状況で連携不足。

もう一つは、交通機関が非常に貧弱で、バスもない。ここに行くには車で行くしかなくて、「行きたいんですけれども」と言われても、「すみません、レンタカーで行ってください」と言うしかない。そういう状況なのだと。

あと、いろいろ下にも書いてありますが、結局なかなかダムを使った観光をうまく発見できていないというのが、我々の今の弱点なのかなと思っています。

それで、これからどうしようかなということですが、胆沢ダムをまず、「観光地化」。いかにも

ケバケバしく観光名所みたいな感じではなくて、観光地にするには最低限のトイレであったり、休憩所も必要ですし、ここにこういうところがありますよとか、交通手段とか、いろんなものが必要で観光地としての最低限の環境を整えて、来てもらえるような環境をちゃんとつくりましょう。

もう一つは、胆沢ダムだけではなかなか難しいので、近隣のいろんな観光施設と連携をして、周遊するような観光の確立を図っていきたい。

あとは、「体験型ツーリズム」。今奥州市で体験に重きを置いておりグリーンツーリズムは奥州市も盛んなところですので、そういう農村体験とか作業体験とかと組み合わせて、いわゆる自然体験というのも一つ大きなキーワードにすると、なかなか周りとの差別化も図られていいのではないかなといったことで、今これで動いています。

あとは、一番我々の中で大事だと思っていますが、やっぱり胆沢ダムの観光地化に伴って地域が盛り上がってこないと意味がない。結局、例えば、外からいろんな企業さんを連れてきて、例えばカヌーサービスとかをやらせるのは簡単です。そういったような申し出もなきにしもあらずですが、それでは全然おもしろくない。地域の人たちが、やりたいと言っている方がたくさんいます。そういう人たちに何とか事業というものを、うまくビジネスというか、そういうサービスをやっていただけるような仕組みに何とかしていきたいなと思っています。

そういったことで、「具体的な取り組み」ということで、カヌーとかラフティング体験のサービス提供に向けた取り組みを、まず地元の団体さんと連携して地元のインストラクターを養成したい。

あとは、いろんな地域の大会とかイベントを我々が側面から支援しましょう。あくまで「地域おこし協力隊」などという言葉もありますけれども、いろんな若い人たち、やりたいと言ってくれる人は結構たくさんいるんです。そういった人たちが、事業としてこういったようなサービスを起こせたときに、いろんな支援ができるような、そういうような体制を整えたいなと思っています。

もう一つは、山とか川は、カヌーとかラフティングだけでなく、もうちょっと広い意味での胆沢ダム周辺というのを増やしていきたいなと思っています。例えば、キャンプだったり、登山もですし、サイクリングだったり。魚も。結構いろんな自然体験するコンテンツがあると思いますので、いろんなことを組み合わせるとなかなかおもしろいところになるのではないかなと思っています。

さらに、周辺観光事業者さんとの連携では、近くにはひめかゆ温泉とか、ひめかゆスキー場とか、農家民泊をされている農家さんもいますので、いろんなところと組んで、パッケージとして何かサービスが提供できるとおもしろいのではないかなと思っています。

最後ですけれども、周遊ということで、例えばスタンプラリーだったり、観光タクシーというようなことで、観光タクシーさんと一緒に、例えば、藤原の里とどこどこを回って、一周回ったら１万円とか、そういったような中の一つとして、胆沢ダムも考えておりまして、そういうコースとしてうまくつくり上げて、情報発信も進めていきたいなと思っています。

我々としてはいろいろ考えていますが、我々が先頭を切るのではなくて、皆さんと一緒になってやっていきたいなと思っていまして、皆さんの準備が整わないうちは、我々として、すぐ何かをしたいとは思っていません。私はですけれども。

以上、本当に皆さんと一緒になって、この胆沢ダムの観光地化に向けて取り組んでいきたいなと思っているところです。

「胆沢ダムを活用した地域活性化の取組」

奥州市商業観光課
菊地　徳行

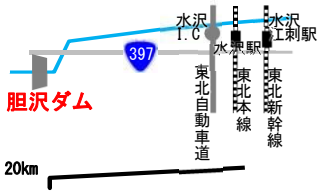
1

胆沢ダムの概要

1953年に完成した石淵ダムの下流に建設されたロックフィルダムで、堤高132.0mは東北地方に建設された多目的ダムの中では最も高く、堤体積は全国第2位、堤頂長723mは国内最長という全国屈指の巨大ダムで、2013年11月16日に竣工した。

胆沢ダムの役割

①水害を軽減する洪水調節
②農地へのかんがい用水
③水道用水
④水力発電
⑤河川環境の保全



胆沢ダム周辺の施設整備（～平成26年度）

新たなランドマークである「胆沢ダム」、「奥州湖」を中心に、「焼石連峰」を始めとする豊かな自然環境資源を活用し、既存の温泉施設等と連携した、観光振興を重点にした活性化を図るため、奥州市では「胆沢ダム周辺整備計画（実施計画）」を策定し、胆沢ダムの周辺に施設整備を行いました。

胆沢ダムを活用した地域活性化の取り組み

胆沢ダム水源地域ビジョン

胆沢ダムの資源性を十分に引き出した地域活性化への取り組み

胆沢ダム水源地域活性化協議会

ビジョン推進のための、活動団体・関連団体・自治体等の連携組織

- 環境保全
  - ・水源の森の保全
  - ・胆沢川の環境保全と共生
- 利活用
  - ・ダム湖周辺の利活用
  - ・胆沢川を利活用した体験観光
  - ・胆沢扇状地を活用した観光
  - ・既存資源の利活用と新たな資源の発掘による地域産業の振興
- 共通分野
  - ・人材育成
  - ・情報発信

協議会に加入している団体がそれぞれ活動を行っているほか、協議会として次のような活動を行っています。
●胆沢ダムフェス　●桜の回廊の環境づくり　●加入団体の交流会
●ダム湖面等安全利用のためのルール検討　●人工池の愛称募集

胆沢ダムフェス2017in夏（H29.8.5(土)～11(金)）

胆沢ダムフェス2017in秋（H29.10.7(土)～8(日)）

奥州いさわカヌー競技場

・胆沢ダム直下の胆沢川が、平成28年10月に行われた「いわて国体」カヌー競技の会場となり、このレガシーを活用すべく、市では「奥州カヌー競技場」として整備しています。
・平成29年8月には岩手県初開催となるカヌージャパンカップ（ワイルドウォーター・スラローム）が開催されており、今後、2020東京オリンピックに向けた活用や国際大会の開催が期待されています。

アジア選手強化合宿・大会出場

ジャパンカップ

観光資源としての課題

・日本一のロックフィルダムの完成
・立派な道路・看板を整備
・焼石連峰など豊かな自然（新緑、紅葉）
・日本三大散居集落の一つでもある胆沢平野

で、どうなったか？

胆沢ダムの観光客は増えたが、どの様に外貨を獲得するかが課題。

胆沢ダム観光客数（H27） 75,161
（胆沢ダム管理支所調べ）

想定される要因

・ダムの可能性を活かしきれていない
・観光客の消費ニーズを把握していない（食？憩い？体験？）
・周辺の観光スポットとの連携不足
・交通機関の貧弱さ
・せっかくの自然や農村を活かした体験型メニューの不足
・ストーリーを作れない（歴史？自然？体験？）
・パンフレット依存の情報発信
・外国人に対する意識が薄い

奥州市の施策の方向と具体的な取り組み

施策の方向

・胆沢ダムの観光地化と外貨を獲得する手段の構築
・胆沢ダムと市内観光施設を結びつける周遊観光の確立
・体験型ツーリズムの開拓
・胆沢ダム周辺の観光地化に伴う、地域の活性化（雇用、起業、地域コミュニティの関与）

具体的な取組

1 カヌー、ラフティング体験のサービス提供に向けた取組
・ 民間団体と連携したインストラクターの育成
・ 体験会や大会、各種イベントの支援
・ 起業支援（民間との連携、地域おこし協力隊の活用）
2 山や川など胆沢ダム周辺の自然を活かした自然体験ゾーンの確立
・ キャンプ、サイクリング、バーベキューなど新たな体験型コンテンツの発掘
・ 周辺の観光事業者との連携（ひめかゆ温泉、スキー場、農家民泊）
3 市内観光施設との周遊の強化
・ スタンプラリーの実施
・ 観光コースの設定（観光タクシー、情報発信）

河川行政の取組報告

① 東北地方整備局河川環境課

② 北上川下流河川事務所

③ 北上川ダム統合管理事務所

④ 岩手県県土整備部河川課

⑤ 宮城県土木部河川課

★　河川行政の取組報告　★

①「東北生態系ネットワーク推進協議会の設立について」

東北地方整備局河川部
河川環境課長　　平山 孝信 氏

改めまして、こんにちは。東北地方整備局河川環境課長の平山と申します。私のほうから、東北生態系ネットワーク推進協議会の設立について、説明をさせていただきます。

生態系ネットワークということで、生態系の専門家みたいな感じで受け取られると、非常に心苦しいなと。本当に生態系とか生物関係は、ど素人に近い状態で説明するということで、大変恥ずかしいところではございますが、その辺を酌み取っていただければと思います。

１ページめくっていただいて、資料は、この２段つづりの２枚ほどの資料になります。

こちらに「生態系ネットワークのイメージ」として書かせていただいています。これは、全国のパンフレットから取ってきた資料で、ここに書いてある混合図とかをちょっとイメージして書かれているようです。

生態系ネットワークって何だろうという話になってくると思います。生物多様性を保っていくためには、同じタイプの自然だけではなくて、異なるタイプの自然がネットワークされていることが必要なのだということです。

野生生物というものは、１つの場所で完結はしなくて、餌をとる場所とか、休息をとる場所とか、繁殖、あるいは１年、一生、１日でも、複数の異なるタイプの自然を利用して生活しているというところです。

ある生物が、集団として孤立してしまうと、その生物としての多様性が失われてしまい、単純に我々、今まで多自然川づくりということで川の中の生育、一生懸命河川環境の取り組みをやってまいりましたが、川の中を利用するだけではなくて、周辺の地域、例えば、湿地となる田んぼやため池、または森林とか、そういった場所も生息環境として利用していく。そういった場所が整うという前提が必要なのではないかと。

我々も河川だけではなくて、河川を飛び越えて、流域のほうにまで活動の場を広げていって、連携して、この生息環境の保全に取り組むことで、この取り組みを進めていきたいなと思っています。

今、全国的にやられているのは、こういった環境がわかりやすい指標としまして、例えば、これは渡り鳥とか、一度絶滅したコウノトリとか、そういった環境をまた復活することによって、その地域の自然環境の保全再生を行う。

行うことによって、そういった新しく生み出された環境とか、もう保全された環境を使って、観光や農業のブランド化につなげたり、ツーリズムをやって環境学習、先ほど、久保川さんのほうでもお話しいただきましたが、そういった活動につなげたい。

いずれこういった活動を継続的に行うには、やはり自然保護だけの活動ではなく、それを経済価値につなげるということで、持続的な活動につな

がるのではないかということで、今、全国的に行われているものです。

次のページの上のほうに、「設立趣旨」ということで書かせていただいています。いま全国的には、コウノトリとか、トキとか、そういったわかりやすい水鳥類を指標にして、そこの住める環境をまた取り戻すことによって、自然環境などを保全して、そこにまたコウノトリが生息するというような活動をしていますが、東北を見ますと、もうすでに例えば、マガンとか、ハクチョウ、身近なように感じますが、マガンは今、全国的に専門家から聞きますと、ラムサール条約湿地の伊豆沼、内沼、蕪栗沼、あの辺の周辺に、全国の90％が越冬地として利用されている。20万羽近くの鳥がいるということを聞いています。

すでにそういった豊かな自然環境を有している場所でもあるというところがほかの地域とまたスタートも違うのかなということです。

ただ、その価値を、一部の専門家の方々はわかっているけれども、我々、一般の人たちも、その価値に気づいていくことも必要なのではないかと、非常に重要な魅力ある自然の資産だということで、ぜひそちらを発出していくことで、この取り組みを進めていければと思っています。

先ほど申したとおり、河川だけでは当然成り立ちませんので、周辺の農地とか、あるいは大きくいうと農林水産省とか、野生生物については環境省とか、そういったところも連携していかなければいけないということで、またこの取り組みには、地道な地元の方々の環境保全の取り組みというところも必要になってくる。

こちらの各種を経済の活性化につなげるには、観光の分野の方とか、経済の分野の方とか、そういった方々のもとで取り込んでいく必要があるだろうということで、そういった方々を含めまして、12月14日、協議会を設立させていただいたところです。

この図についてはちょっと小さいので、大変申しわけないのですが、大きなパンフレットとか、ホームページとかで出ています。

この真ん中に河川があります。周辺に、河川を利用するときもあれば、ねぐらとしてため池等の湿地を使って、餌場として田んぼを使うとか、また、繁殖場所として木の上を使うとか、いろいろな自然環境が必要です。そういった環境を取り戻すことによって付加価値が生まれるということを、ここに集約して書かせていただいています。ぜひ、後でちょっと見ていただきたいと思います。

この活動で、先進的な事例ということで、兵庫県の豊岡市の河川でいえば円山川になりますが、こちらで「コウノトリも住める環境と経済が共鳴するまちの実現」という取り組みを、もう20年ぐらい実施しています。もともと昭和の初めあたり、戦前ごろはコウノトリが複数、人と一緒に生活していて、コウノトリ、コウノトリと言わないような環境で、人と生物が一緒に暮らしていたということですが、高度経済成長の流れで、河川も大分汚染されていた時代があります。

また、田んぼのほうでも農薬を使って、収穫をしていったということで、コウノトリは肉食なようで、まず餌がなくなっていって、だんだん生活する場も、湿地も失われていったということで、実際に一度絶滅したような状態だった。

ただ、大体1980年から90年にかけて、地元の人たちの昔の写真を見ると、コウノトリと地元の方が一緒に暮らしていた写真とか、いろいろ目にするようになって、やっぱりこういう昔の豊かな自然環境と一緒に、自然環境を取り戻すということを実現したい。その指標としてコウノトリを復元させたいということで、豊岡市のほうでは、まず

コウノトリをシベリアのほうから持ってきて、繁殖行為までをして、繁殖した鳥を放鳥するところもやられていました。

または、ここに書かれていますが、河川のほうで、高水敷を利用して湿地を造成したり、田んぼの休耕田を利用したビオトープをつくったり、こういった湿地環境をつくって、あとはひも等で、その落差によって餌となる魚や、そういったものが上がってこれない環境を取り戻す、地道な活動を展開していったということです。

こういった活動をつなげることによって、今、大体コウノトリが130羽を超えたそうです。

実は、この豊岡市から飛び越えて、関東や四国までコウノトリが繁殖して、飛んで行っていると。豊岡市のほうでも、コウノトリって高いところに巣をつくって繁殖をするそうですが、各地に巣を立てて、周辺には餌場となる湿地とか田んぼを改善したものをつくっている。

そういった活動を地道にしていくことによって、コウノトリが発祥した。これは地域の安心、安全の指標にもなるということで、こういったコウノトリが育む田んぼでできるお米だという、ブランド化をして売り込むことによって、どんどん価値を上げているという取り組みもしています。

さらには、環境面にも配慮ということで、この豊岡では「コウノトリの郷公園」というものをつくって、実際にコウノトリが生息する環境を観察できるところがあるそうで、こういった旅行代理店がこういったテーマを企画旅行として販売をして、全国からも来ている。こういった観光にもつなげているという。

こういった取り組みを、ぜひ東北のほうでもやっていきたいなと考えているところです。実は、地元が発案して、この取り組みを東北では、今まさに大崎市長がマガンで一生懸命頑張っています。

蕪栗沼で冬水田んぼとか湿地の再生の取り組みをして、マガンをなるべく、伊豆沼、内沼、蕪栗沼から分散するようなこともしていまして、そこを利用した田んぼのお米をブランド化として売り出したり、一ノ倉でその米を使ったお酒として売り出したり、というようなことまでつなげているところです。

こういったものを取り組みの中で各地に広げていきたい。

この協議会につきましては、いままで河川の専門家とか、我々つき合いが、ある種の接点はそういう先生ばかりということにもなってしまうのですが、鳥の専門家とか、さらには観光の専門家ということで、実は座長を、宮城学院女子大学の宮原先生、観光のご専門で、この方を座長にして、この協議会を進めています。

観光振興機構の方とか、地域経済の東北経済連合会の方々、環境省も入っていただいていますし、各県の方々も入っていただいて、現在進めています。

今とりあえず進めるには、東北の中でもモデル地域が必要ではないかということで、岩木川流域、北上川流域、鳴瀬川流域というところをモデル地域として、この取り組みを進めていきたいと考えています。

まだまだ地元の方が盛り上がらないと活動につながらないですが、まずは地元のほうに、この活動をつなげていきたいと思っています。

また、東北というくくりをしましたが、実際の活動については、地域での活動だということで、この地域での取り組みということになると、北上川のこの各種の取り組みの１つということで、この流域圏の中にも、ぜひ、加えていただければという思いをしています。

以上で私の発表を終わらせていただきます。

平成３０年２月３日（土）

第２回北上川「流域圏」推進交流会議

東北生態系ネットワーク推進協議会の設立について

～河川を基軸とした生態系の保全と地域振興～

国土交通省　東北地方整備局
河川部　河川環境課長　平山 孝信

1

河川を基軸とした生態系ネットワークのイメージ

川は、森林や農地、都市などを連続した空間として結びつける、国土の生態系ネットワークの重要な基軸であり、流域の中にまとまった自然環境を保持している貴重な空間です。

国土交通省では、川の中を主とした「多自然川づくり」から流域の「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」へと視点を拡大し、多様な主体と連携しながら、流域の農地や緑地などにおける施策とも連携しながら魅力的で活力ある流域づくりを支援しています。

東北地方整備局においても、平成29年12月14日に「東北生態系ネットワーク推進協議会」を設立し、有識者、関係機関とともに東北の生態系ネットワークの形成と魅力ある流域づくりを図ってまいります。

2

東北生態系ネットワーク推進協議会の設立趣旨（概要）

○ 東北の１級河川とその流域は豊かな自然環境を残し、ガン類やハクチョウ類など大型水鳥類の越冬地等として、ラムサール条約湿地など国際的に重要な地域も含まれている。

○ しかし、豊かな自然環境は当たり前の存在となっており、価値や魅力を十分に認識・発信できていない。

○ また、一部鳥類の越冬地は過密状態にあり、一方で、コウノトリやタンチョウ等については、安定生息環境・生息地分散も課題となっている。

○ これらの課題対応には、広域的かつ多様な主体による連携・協働が欠かせない。

○ 近年、生態系の広域的ネットワークの指標となる大型水鳥類等をシンボルとした、水辺環境の保全・再生、観光や農業等の地域振興の取り組みが全国各地で展開されている。

○ 東北でも、行政区域や分野を超えた多様な主体が広域で連携・協働するための枠組みとして平成29年12月14日に『東北生態系ネットワーク推進協議会』を設立することになった。

○ 本協議会では、河川を基軸とした豊かな生態系を保全・再生・創出し、観光資源等として地域振興に持続的に活用することで、東北の魅力の再発見やブランド力向上を図っていく。

平成29年12月14日

3

水辺からはじまる生態系ネットワークの形成のイメージ

4

事例

コウノトリも住める環境と経済が共鳴するまちの実現

［円山川流域］（兵庫県豊岡市）

治水事業と一体で「コウノトリも住めるまち」を実現

・河道掘削手法の工夫、遊水地整備、環境共生型の水田整備等のコウノトリの生息に適した湿地環境を創出。県や市、NPO等と連携して保全管理・活用の取組を推進。

・水路−水田間の落差解消のための樋門改修や水田魚道の設置。

現在、90羽を超えるコウノトリが野外に生息

5

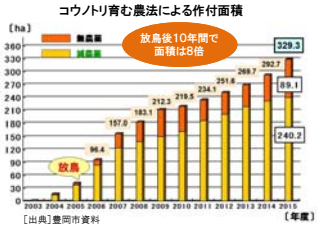
■環境と経済の共鳴　－農業分野への波及効果－

農業使用を抑え、水管理に配慮した「コウノトリ育む農法」の推進により、慣行栽培から転換した水田は年々増加。収穫した米は、認証制度に基づくブランド農産物として高価格で流通。

認証マーク

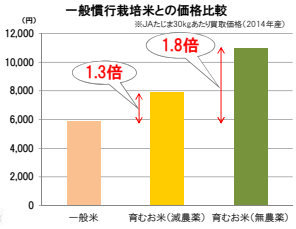
コウノトリをモチーフとした農産物加工品など

コウノトリ育む農法による作付面積



［出典］豊岡市資料

一般慣行栽培米との価格比較

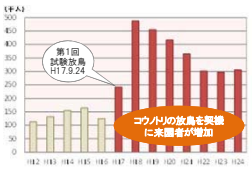


6

■環境と経済の共鳴　－観光分野への波及効果－

観光分野の経済効果だけでも年間10億円との試算も。

コウノトリの飼育放鳥の拠点「兵庫県立コウノトリの郷公園」



コウノトリの郷公園内にあるコウノトリ文化館の来館者数

旅行代理店が「コウノトリ」をテーマとした企画旅行を販売

豊岡市では市民ガイドの養成講座や、タクシー運転手を対象とした「コウノトリ講習会」を開催するなど、受け入れ体制を積極的に整えるコウノトリツーリズムを展開。

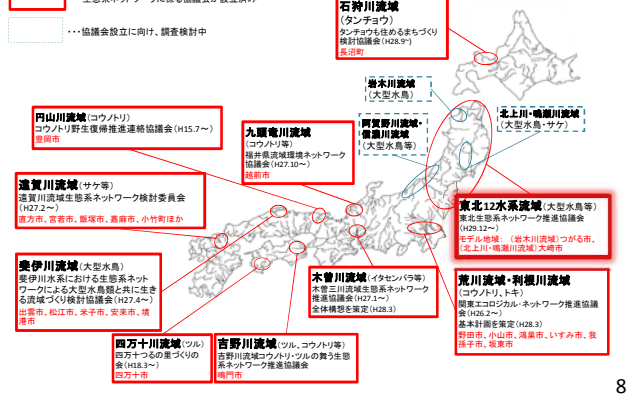
豊岡市への来訪を呼びかける観光ポスター

コウノトリツーリズムによる入込客は年間30万人

7

生態系ネットワークに関する各地域の取組状況

平成30年1月11日現在



8

第１回 東北生態系ネットワーク推進協議会を開催

東北の河川を基軸とした広域の生態系ネットワーク形成に向けて、河川流域の多様な主体との連携・協働する第1回「東北生態系ネットワーク推進協議会」を設立

［日　時］平成29年12月14日（木）13：00～15：00
［会　場］ＴＫＰガーデンシティ仙台勾当台 ホール１（仙台市青葉区）
［出席者］約50名（学識経験者、連携自治体首長（つがる市、大崎市）、関係機関・企業等、関係行政機関（東北農政局、東北地方環境事務所、東北地方整備局、青森県・岩手県・宮城県の土木・農林・環境部署、報道機関 等）※委員（14名）、オブザーバー、報道機関、一般傍聴含む
［事務局］東北地方整備局 河川環境課、（公財）日本生態系協会

協議会の開催風景

協議会の概要

・冒頭に、座長の宮原育子氏より、「本協議会を、行政区分や産業分野の垣根を越えて、鳥や生きものの視点から環境や地域振興を考える場としたい」旨のご挨拶をいただいた。
・事務局から、国内及び東北における河川を基軸とした生態系ネットワークの形成状況の報告を行い、呉地委員から、大型水鳥類等から見た東北の環境ポテンシャルと、豊かな自然を活かした地域振興のあり方についての話題提供をいただいたのち、ご出席の委員による意見交換を行った。
・平成29年度内は、東北全域を対象とした生態系ネットワーク形成の基本計画（案）の策定し、モデル地域（岩木川流域、北上川・鳴瀬川流域の2地域）における行動計画の枠組みを検討することが決まった。

座長 宮原育子 氏（宮城学院女子大 現代ビジネス学部長）
平山健一 氏（岩手大学名誉教授）
福島弘芳 氏（青森県つがる市長）
伊藤康志 氏（宮城県大崎市長）
呉地正行 氏（日本海を保護する会会長）
渥美雅裕 氏（(一社)東北地域づくり協会 理事長）
菅原秀徳 氏（(一社)東北経済連合会地域政策部長【代理】）
小島雄一 氏（(一社)日本自動車連盟 宮城支部 事務所長【代理】）
新倉電祐 氏（(一社)東北観光推進機構 総務外部 総括マネージャー【代理】）
今野俊宏 氏（株式会社河北新報社 編集局長）
三浦安正 氏（東北農政局 農村環境課 課長補佐【代理】）
小澤晴司 氏（東北地方環境事務所 所長）

各委員の主なご発言

・東北の豊かな自然を次世代に継承することが魅力ある地域づくり、ひいては観光客の誘致等につながる。
・各流域で取組みを進める際の、取組みのシンボル（生きもの）は、地域の環境特性を踏まえることで、地域により受け入れられやすくなるのではないか。
・生態系ネットワークの取組みとして東北は後発だが、国内最大のマガンの越冬地を有する等、各地に豊かな自然環境があり、協議会設置を契機にそれを活かした地域振興のチャンスが生まれる。
・これまであまり接点のなかった分野・業界が、生態系ネットワークの形成及びその成果を活かした地域振興を目的に集まった意義は大きい。今後の取組みに期待したい。

9

第１回 東北生態系ネットワーク推進協議会を開催

東北生態系ネットワーク推進協議会
委員・オブザーバー名簿

平成29年12月14日現在

	氏名等	所属・役職
有識者	東 信行	弘前大学 農学生命科学部 教授
	呉地 正行	日本海を保護する会 会長
	佐々木 幹夫	八戸工業大学大学院 工学研究科 教授
	平山 健一	岩手大学名誉教授
	宮原 育子	宮城学院女子大学 現代ビジネス学部長
連携自治体首長	福島 弘芳	青森県つがる市 市長
	伊藤 康志	宮城県大崎市 市長
関係機関、企業等	渥美 雅裕	一般社団法人 東北地域づくり協会 理事長
	小野 晋	一般社団法人 東北経済連合会 常務理事
	久保 連也	一般社団法人 日本自動車連盟 東北本部 会員部 部長
	紺野 純一	一般社団法人 東北観光推進機構 専務理事 推進本部長
	今野 俊宏	株式会社 河北新報社 編集局長
関係行政機関	農林水産省	東北農政局 農村振興部長
	環境省	東北地方環境事務所 所長
	国土交通省	東北地方整備局 河川部 部長
オブザーバー	青森県	県土整備部 河川砂防課 課長
		農林水産部 農林水産政策課 課長
		環境生活部 自然保護課 課長
	岩手県	県土整備部 河川課 総括課長
		農林水産部 農村計画課 総括課長
		環境生活部 自然保護課 総括課長
	宮城県	土木部 河川課 課長
		農林水産部 農村振興課 課長
		環境生活部 自然保護課 課長
	国土交通省	青森河川国道事務所 所長
		岩手河川国道事務所 所長
		北上川下流河川事務所 所長

10

東北における生態系ネットワークの推進体制（案）

平成29年度内に設置（平成29年度は2回開催）
（仮称）東北生態系ネットワーク推進協議会
［事務局］東北地方整備局

■推進協議会の役割
・東北6県全域を対象とする基本計画の策定・推進
・モデル地域で行われる取組み状況の把握
・隣接地方の協議会の取組状況の把握、情報共有等

平成30年度以降に設置
（仮称）岩木川地域
生態系ネットワーク流域協議会

平成30年度以降に設置
（仮称）北上川・鳴瀬川地域
生態系ネットワーク流域協議会

※必要に応じて部会等を設置
（仮称）生息地づくり部会
（仮称）地域づくり部会

※必要に応じて新たな流域協議会を設置
（仮称）○○川地域
生態系ネットワーク流域協議会

■流域協議会の役割
・基本計画との整合を取りつつ、モデル地域の流域を対象とする行動計画を検討・策定。
・モデル地域の流域における多様な主体との情報共有、連携促進。
・行動計画に基づく具体的な取組みの推進・把握。

■ 平成29年度予定スケジュール

H29年12月14日　第1回推進協議会
■おもな議事内容
・協議会立ち上げ
・東北6県の基本的事項の共有
・東北6県全域を対象とした基本計画（案）の提示
・今後の進め方

H30年2月27日（予定）　第2回推進協議会・北上川,鳴瀬川流域 現地視察会
■おもな議事内容
・東北6県全域を対象とした基本計画の策定
・基本計画を踏まえたモデル地域の行動計画（案）の策定

H30年3月（予定）　岩木川地域における講演会（案）
■おもな目的
・岩木川周辺地域における生態系ネットワークの機運醸成を図る
■主な内容
・調整中

H30年　第3回推進協議会　平成30年度以降も年1回程度開催

11

河川を基軸とした生態系ネットワークの形成について

～参考～

■自然環境の状態を把握する空間単位について

河川を含む広範囲の自然環境の状態を把握する際の単位として、**流域**（集水域）を想定。

■流域の自然環境の状態を把握する生物指標について

河川や水田、池沼等の湿地環境を広域にわたって利用する種で、その種の生息状況（長期にわたって定着等）が、当該流域の生態系の健全さの目安となる種を「指標種」候補として想定。指標種は、東北地域でなじみのあるガン類、ハクチョウ類、コウノトリ、ツル類などの**大型水鳥類**を想定。

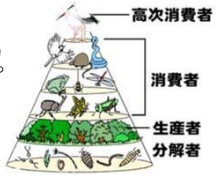
なぜ大型水鳥類なのか？

■「流域の豊かな水辺環境の存在・広がり」を表す

ガン類やハクチョウ類、ツル類などの大型水鳥類は採食や休息などで、まとまった面積の水田や池沼を利用する。これらの湿地は、カモ類などの小型の水鳥類や昆虫類、植物など多くの野生生物にとっても重要な生息・生育環境である。

■「流域の生態系の健全さ」を表す

コウノトリやトキなどの大型肉食鳥類は、里地・里山の生態系の頂点に立つ高次消費者であり、その地域の生態系を構成する野生生物が健全な状態で生息・生育していることを把握する目安となる。



12

参考　生態系ネットワークの行政計画等での位置付け

・国内では2010年に名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（生物多様性COP10）を契機に、生態系ネットワーク形成の取組が本格化。

・各省が策定した各種計画でも、生態系ネットワークの形成を図ることが明記されている。

国土交通省	2013年　安全を持続的に確保するための今後の河川管理のあり方について〔答申〕（社会資本整備審議会）
	2014年　環境行動計画 ー環境危機を乗り越え、持続可能な社会を目指すー
	2014年　国土のグランドデザイン2050～対流促進型国土の形成～
	2015年　新たな国土形成計画(全国計画) → 2016年　東北圏広域地方計画［東北地方整備局］
	2015年　第4次社会資本整備重点計画
環境省	2012年　生物多様性国家戦略2012-2020
	2014年　生物多様性条約第5回国別報告書
農林水産省	2012年　農林水産省 生物多様性戦略
	2013年　国有林野の管理経営に関する基本計画

■生態系ネットワーク形成に関する省庁連携

2016年度より、国土交通省・環境省・農林水産省の担当部署で構成する、生態系ネットワーク形成に関する三省連携の会議が定期的に開催されており、情報共有や意見交換が行われている。

13

東北における主な水鳥類等の飛来状況　［全域の概況］

管内の一級水系の流域では、広域の水辺環境を利用する様々な大型水鳥類や猛禽類が確認されている。

「タンチョウ生息地分散行動計画」（平成25年4月）北海道地方環境事務所・釧路自然環境事務所より

14

■東北における生態系ネットワークの拠点等

15

参考　東北における主な水鳥類等の飛来状況［水系別］

管内の一級水系（12水系）を対象に、河川水辺の国勢調査（国土交通省）の調査結果をもとに、河川を含む**広域の水辺を利用する種、地域固有性の高い種**等に着目し、水鳥類等の生息・飛来状況を整理。

代表的な生物			岩木川	高瀬川	馬淵川	北上川	鳴瀬川	名取川	阿武隈川	米代川	雄物川	子吉川	最上川	赤川	記録流域数	備　考
	科名	種名														
鳥類	カモ	ヒシクイ	●	●		●	●			●	●		●	●	9	新規にクイの越冬地は宮城県北部には確認られる
		マガン	●	●		●	●			●	●		●	●	9	宮城県北部に越冬個体が集中
		カリガネ				○									1	
		ハクガン				○				○					2	
		シジュウカラガン	○			○				○			○		4	
		コハクチョウ	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	10	
		オオハクチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	
	カイツブリ	カンムリカイツブリ	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●		10	東北地方の繁殖地は青森県と秋田県のみ
	コウノトリ	コウノトリ	○	○		○	○	○	○						6	
	トキ	トキ										○	○		2	
	ツル	タンチョウ	○			○				○	○		○		5	
	クイナ	シマクイナ		○											1	仙沼が国内唯一の繁殖地
	チドリ	イカルチドリ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11	
		シロチドリ	●	●	●	●	●			●	●			●	9	
	カモメ	コアジサシ	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	10	米代川と八戸市が繁殖北限
	タカ	オジロワシ	●	●		●	●	●	●	●	●		●	●	9	
		オオワシ	●	●		●					●			●	5	
		チュウヒ	●	●		●	●		●	●	●		●		8	
	センニュウ	オオセッカ	●	●											2	岩木川下流と仏沼で繁殖
	ホオジロ	コジュリン	●	●			●				●		●	●	6	繁殖地が局地的
合計種数			16	14	5	14	12	5	11	14	12	7	13	8	–	

○：河川水辺の国勢調査以外の記録（ガン類渡来地目録、日本産鳥類目録（第7版）、レッドデータブック2014、鳥類図鑑鳥類等の記述を参考にした。迷鳥は除いた）

16

■平成27～28年度の検討内容

基礎情報を整理し、東北における生態系ネットワーク展開の方向性を検討

■国内の生態系ネットワークの取組状況の整理
・先進事例、関連する国等の施策に関する情報整理

■東北における生態系ネットワークの指標種の検討
・象徴性、環境指標性、上位性、希少性、地域固有性などに着目して、大型水鳥類の生息・飛来状況を整理

■東北における生態系ネットワークの方向性の検討
・管内12水系の概況整理（自然・社会条件）
・取組方策の検討（基本方針案、ロードマップ案の作成）　↑平成27年度の検討内容

↓平成28年度の検討内容

■東北の一級水系の流域特性の整理
・管内12水系の流域特性の整理
・大型水鳥類の生息ポテンシャルマップの作成

■推進方針（案）と基本計画（案）の検討
・取組推進における留意事項、基本計画の掲載項目の検討
・平成30年度以降、先行して取組を行うモデル地域の候補抽出

17

東北圏における今後の取組みの進め方（イメージ）

目標年を見据えたバックキャストによる取組みの推進

平成32年度
目標年次（愛知目標の短期目標年、「復興・創生期間」の目標年次）
事業目標の（部分）達成/継続（PDCA）
他水系の流域でも行動計画の検討開始

平成31年度
モデル地域で生態系ネットワーク行動計画の実践
実現可能な取組の実践、成果の見える化
成功体験の共有と流域への面展開

平成30年度
モデル地域で生態系ネットワーク行動計画を作成・試行
モデル地域において協議会を設置
（岩木川地域、北上川・鳴瀬川地域を想定）

平成29年度
生態系ネットワーク推進協議会の設立・開催（2回程度）
東北圏全域を対象とする全体計画の作成
モデル地域を対象とする行動計画の作成

18

②「北上川下流の復旧･復興状況など
最近の取組について」
北上川下流河川事務所
副所長　今野 裕美 氏

北上川下流河川事務所の今野です。皆様におかれましては、本来、我々がやるべきであろう河川行政等の広報活動的なことを、率先してやっていただいていることに、本当に感謝を申し上げます。特に先ほどの発表の中でも、ものうフォーラムの皆様には、本当に我々のやらなければならない防災救助の部分とか、踏み込んでやっていただいているということで、本当に感謝しています。

それでは、私のほうから、「北上川下流の復旧・復興状況など最近の取組について」ということで、ご報告させていただきますが、多分、北上川の堤防が徐々にでき上がってきているということには、特に皆様あまり興味がないかなと思うので、資料、両面コピーを１枚お配りしていますが、特に強調して申し上げたいのは、いわばこれから石巻の顔になるであろうと言われているところが、大体でき上がりました。

ちょうど今、この左上の写真の部分で、海岸のここに、中瀬の萬画館がある、ちょうど向かい側の部分ですが、ここの中央地区というところの堤防が大体でき上がってきています。

堤防に併設して、マンションと、あとちょっと見づらいかもしれませんが、「いしのまき元気いちば」、人を呼ぶときの交流拠点としています。

あとこの辺に、市の川まち交流センターというのが、この３月に完成の予定です。

余談ですけれども、この辺に新しい店舗をつくっている。そういう状況のところで、この川辺のテラスが、大分でき上がったということで、ここを我々、市民の皆さんに使っていただくために、いろんなことを、今、仕掛けています。

左下の写真が、去年の夏の川開き祭りの花火大会のときの、堤防の法面の脇に皆さんが花火を観覧されている風景。新しくできたエリアに、たくさんの人が集まって花火を観覧できたということ。

あと、右下の写真は、何と、水辺のテラスで、落語会を開催させていただきました。これも結構評判がよくて、周辺にはマンションの窓からご覧になっている方とか、そういった方もいらして、非常によかったなと思っていますし、昨年の７月の「水辺で乾杯」では、130人ぐらい、このテラスに集まってやっています。

このテラスも橋の付近まで、今年度できる予定で、この夏ぐらいには、元気いちばの２階から直接堤防に出て、オープンカフェ的なスペースも生まれることになっていますので、ぜひ皆さんもお越しいただければと思います。

先ほども平山先生から、今年の流域圏シンポジウムは宮城県でというお話をいただきまして、ちょっと先程からどこでやったらいいかなと、候補地を考えましたが、シンポジウムをやる場所は、もっと大きい器の場所かもしれませんけれども、終わった後の交流会などは、ぜひここのレストランを貸し切りにして、北上川の水面を皆さんで眺めながら、親睦を深めればいいかななどということも、今、頭の中に浮かんでいますので、皆様乞

うご期待ということでお願いしたいと思います。

復旧・復興についてはこんな状況で、例えば、有名なのかもしれませんけれども、舟っこ盛岡の会でしたか。皆様が石巻まで舟で来られるということで、ちょうどこのテラスの部分が、網地島ラインの発着所がここにある。この春から。

ですので、上流から舟で下ってきていただいて、ここから網地島とか、田代島に行っていただくというオプションもつけ加えていただけることも可能かと思いますので、夢は広がるかと思います。

あと、新北上川については、復旧はもう終わっており、先ほどの奥州・岩手ＮＰＯネットの皆様が河口部の清掃に来ていただいているということで、ぜひ、どんな形になるかわかりませんが、我々もできる範囲でご協力させていただきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

続きまして、これは先ほどものうフォーラムの皆様も「閘門くぐり」のお話をされていましたが、我々も何かやれないかなということで、去年、これは北上川サポート協会さんのご協力を得て、石巻の子どもセンターの皆さんを連れて、ゆはずを使って「閘門くぐり体験」などもさせていただいています。閘門の使い方、いろいろ我々ももっともっと使っていきたいなと思っています。

実は、当事務所も、ゆはずほどの大きな舟ではないですけれども、10人ちょっと乗りぐらいの舟を、去年運行開始しまして、主に河口部の復旧運行状況ということで、いつでも出航できるように河口部の浮き桟橋に停泊させていますが、こういった船を使って、上流のほうにも登っていって、いろんな交流を進めていきたいなと、上流に遅ればせながら考えていきたいと思っています。

あと、どうしても話しておかなければならないのが、皆さんにお配りした「歴史探訪　川村孫兵衛重吉　ゆかりの地巡り　印章帳」というのがありますが、これは去年、実は宮城県さんが今年で明治維新150年とかやっていますけれども、北上川改修400年、去年だったんです。

川村孫兵衛が北上川改修に着手してから400年の年、何かやれないかなということで、去年の１月に川村孫兵衛シンポジウムを行いました。100人集まればいいかなと思って、石巻専修大の100名ぐらい入る教室をお借りして開催したところ、人が入り切れずに、300人ぐらい集まってしまったという、非常に反響のあるシンポジウムとなりました。これは何かやれるかなと思いまして、川村孫兵衛のスタンプラリーをやってみようということで、意外と石巻でも夏に川開き祭りというのが、川村孫兵衛をたたえる祭りだということは何となく知っていても、川村孫兵衛が実際何をやられた方なのかというのを知らない方が意外と多い。

そういったことを、なぜ我々が、川村孫兵衛重吉をやるのかというのは、土木技術者の先駆者だと、我々の大先輩だということを無理矢理こじつけたわけではないですが、始めたところ、どうせなら孫兵衛の出身地である、山口県萩市と連携してできないかなということで呼びかけたところ、乗っていただきまして、萩市との連携企画で、去年の夏１カ月ぐらいやり、意外と反響があり、大体300名弱の方が参加されました。

７名の方が、山口と石巻両方を制覇されまして、石巻市長から孫兵衛マスターの称号を授与しています。萩市はすごい乗り気で、今年はもっと手広くやりたいということで、準備時間をくれと言われておりまして、少し時間をかけて準備をして、今年はもうちょっといっぱい参加してもらえるようにしたいなと思っています。

この中で我々も何かインセンティブをということで、「孫兵衛カード」というものをつくり、下孫兵衛カードを３カ所制覇ごとに１枚やったとこ

ろ、割とよかったなということで、今年も継続して、明治維新150年にはあまり関係ないかもしれないですが、乗っからせていただきながら、継続していきたいなと思っています。

③「ダムを活かした水源地域の活性化について」

北上川ダム統合管理事務所

副所長　　槙田　雅士　氏

北上川ダム統合管理事務所の槙田です。

うちの事務所は皆様ご存じのとおり、四十四田、御所、田瀬、湯田、そして胆沢という、５つのダムを統合管理しているところです。

先ほどの発表の中で、奥州市の菊地さんから、「ダムカード」を皆さんご存じですかと言われましたが、ダムカードが発行されてから、ちょうど10年になりました。うちの五大ダムのダムカードの配布枚数を調べたところ、平成19年が1,200枚程度だったのが、平成26年度に胆沢ダムが完成した以降、うなぎのぼりになりまして、今、平成29年度のまだ途上ですけれども、60,000枚を超しているところです。これだけダムマニアの方々が、ダムを訪れているのかなと思います。

今年度、いろいろな行事を行い、特に来客数が多かったのは、左側に３つグラフがあって、「クレストゲート点検放流」とかと書いてありますが、要は、とんでもない大雨が降ったときにしか開けられないゲートを年に１回春先に開けましょうというところで、そこで湯田ダムでは約1,800名を超える方々が来ていただいた。これは２日間のことでした。

あとは、四十四田の桜まつりだとかいろいろありますが、湯田の貯砂ダムのところでは、2,400名ぐらいが来ています。あとは、やっぱり胆沢ダムが結構来ておりまして、ゴールデンウェーク期間中だけで6,000名以上の方々が来ています。

夏休みの期間中も、胆沢ダムにバスで来られて、特に秋田の読売旅行だったか、ミステリーツアーをやって、それで胆沢ダムが選ばれて、必ず観光客も連れて来ていただき、これだけの数字に乗っかってきているかなと思います。

ちょっと宣伝にはならないですけれども、日清のＵＦＯという焼きそばがありますが、先月、ダムの放流に真似て、焼きそばの湯切りをするときのふたを１枚たしか200円だったと思いますが、販売してすぐ売り切れになりました。今回は、東北地方では山形県の鶴岡市にある月山ダムが選ばれて、このコラボになっています。

次回が２月21日販売ということで、インターネットのみの受付と聞いています。買ってくださいとは一言も言っておりませんので、興味のある方はどうぞ。

それと、四十四田ダムで、完成から今年の10月でちょうど50年になるので、何か50周年記念事業なるものをやれればなと考えています。

開催日程が、10月13日の土曜日に、四十四田ダムで行おうかなと思っています。今、企画中ですので、主催となる市町村、あと岩手県さんにも説明をして、これから実行委員会を立ち上げようというところまで来ています。乞うご期待というところです。

先ほど、各イベントの来客者数が結構多いということでしたが、ちょうど錦秋湖湯田ダムで、昨年の４月の２日間、右のグラフにあるとおり、来客者数が昨年度の平成28年度から比べると2.2倍。近くに107号が通っており道の駅がありますが、道

の駅の売上が約1.4倍になった。ちょうど湯田ダムカードを、道の駅に持って行って、ダムカレーを頼むと通常より50円引きになるとか、キャンペーン期間中は100円引きになるとか、地元の観光協会とタイアップしてやったところ、お客さんが大分増えてきたというところです。

湯田ダムが初めて今年度、夏場にフェスティバルをやり、画面の一番右に７色の水が流れているところがありますが、ここで全国初の貯砂ダムカード、湯田ダムの上流側にある砂をとめるダムで、そこのカードを発行して、ここも観光協会とタイアップして、何十円引きというのをやったところ、ここも２日間で約2,000名以上の方々が来ていただき、遠くは沖縄県からダムフェチが来たというところです。

そして、これも今年初めてやりました「湯田ダムフォトコンテスト」で、今、携帯版だとか、あとは普通の写真だとか、あとはドローンで撮った映像です。これ一番最後にお見せしますけれども、東京からも、結構な完成品度の動画が応募されてきました。うちのホームページでも掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。

「胆沢ダムフェス」については、先ほど奥州市さんのほうから報告がありましたので、ここら辺は飛ばします。

四十四田ダムの「さくらまつり」も来年度もやります。これも御所ダムのほうでやります。河川のほうでは、「ごみ川柳大会」というのを毎年やっているところです。

ここら辺は、洪水が今年もありましたよというところです。

これがちょうど昨年７月に、四十四田ダムで、今年、九州北部の豪雨があったときに、川の流木が非常に悪さをしたということでしたが、うちの四十四田ダムで、流木を捕捉した、とめた状況の写真ということで、上のほうを見ると、盛岡市街地がすぐ迫っているというところで、ぎりぎりのところでとめているといった、ちょっとひやっとします。

あと「下流域住民への防災意識」として、ダムがあるから大丈夫ということはないよと、下流の皆様方に啓蒙活動をしているところも、我々の報告の内容かなというところです。

これで一応発表を終わりますが、最後に先ほどの動画コンテストの映像、ドローンを飛ばした湯田ダムの上空から撮影したものです。

－　動画　－

ちなみに、これにかかったお金は、行政側は０円です。版権はこちらにありますので、ぜひ、何か使用したいという方があれば申し出てください。よろしくお願いいたします。

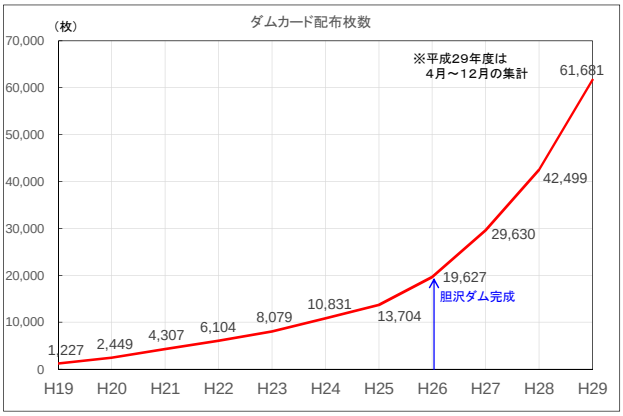
ダムを活用した水源地域の活性化について

平成30年2月3日（土）
北上川ダム統合管理事務所

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

ダムカード配布枚数

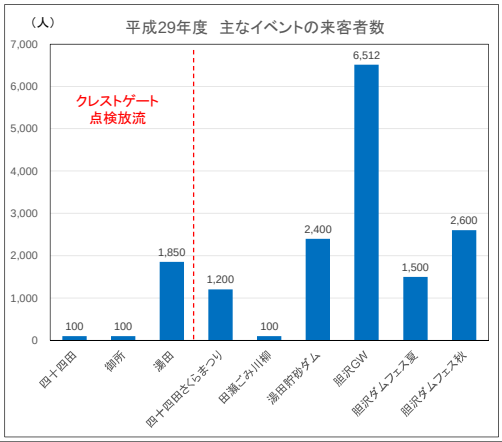
国土交通省



1

平成29年度　主なイベントの来客者数

国土交通省



2

「ダムと焼きそば」がまさかのコラボ商品に！

国土交通省

※今回、月山ダム、小渋ダム、苫田ダムのプレートが発売

出展：日清食品ホームページより

3

四十四田ダムが完成から５０周年になります。

～「みちのくダム湖サミット in 四十四田」とあわせて記念事業を実施～

……昭和４３年１０月竣工～平成３０年１０月で還５０歳になります。……

四十四田ダムは、北上川５大ダムの４番目として昭和４３年１０月に完成し、平成３０年１０月で完成から５０周年を迎えます。
完成後は、盛岡市内をはじめとするダム下流域の北上川の氾濫を抑え、四十四田発電所により電力供給を行ってきております。
北上川ダム統合管理事務所では、完成５０周年に向けて、今後、広報活動や準備を行っていきます。

※ 期間日程（案）平成30年10月12日（金）～13日（土）

現在の四十四田ダムの四季

流木の捕捉状況（平成29年7月25日）

北上川ダム統合管理事務所　管理第二課　TEL.019-643-7972
【ホームページ】http://www.thr.mlit.go.jp/kitakato/index.html

4

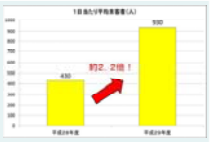
錦秋湖スプリング放流in にしわが2017

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

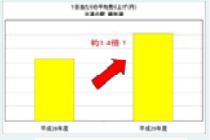
【実施期間】平成２９年４月２２日（土）～４月２３日（日）（２日間）

町と連携した臨時特産品コーナー

発電事業者と連携した取水口連絡トンネルのパネル展



堤体内見学



ダムカードを活用した
町の観光施設との連携

非常用洪水吐きからの点検放流

来場者の声

〈アンケート〉
大変満足～やや満足92%

〈声〉「また来ます」
「大迫力でこんなにすごいとは思いませんでした」
「放流の虹きれいでした」

5

【湯田ダム】[錦秋湖大滝サマーLIGHTフェスティバルｉｎにしわが]を開催

【実施期間】 平成２９年８月１１日（金）１１：３０～８月１２日（土）２０：００（２日間）

【実施内容】

①貯砂ダム（錦秋湖大滝）のライトアップ
滝の裏側を通ってダムカードポイントへ移動できる。

②関係機関とのタイアップイベント（錦秋湖大滝サマーLIGHTフェスティバルinにしわが）を実施し、期間中ダムカード提示で西和賀町の施設で割引等の優遇措置や、イベント会場で、キッチンカー、出店等で地域の特産品を提供。

③貯砂ダムカードの提供
貯砂ダム完成15周年を記念して作成したダムカードをイベント当日から配布開始。

④アンケートを利用した抽選会
アンケートに記入いただき提出いただいた方に湯田ダム産の天然クワガタ抽選会を実施。

⑤作業船による湖上体験
ダム職員及び西和賀町教育委員会職員自ら、作業船を操船し、貯砂ダム上流の湖上体験を実施。

⑥漁協協力による釣り体験
西和賀淡水魚業協同組合協力のもと貯砂ダム下流で、湖に主息する魚の釣り体験を実施。

⑦薪割り体験
湯田ダムへ流れて来た流木を活用し、西和賀町森林組合による薪割り体験を実施。

⑧火起こし体験
岩手県スポーツ振興事業団協力のもと、火起こし体験を実施。

⑨資材倉庫を利用したパネル展
普段は作業船などを格納している倉庫を利用し、ダムの写真展を実施。

【実施結果】
●初の試みとなるイベントで無事故に実施することができました。
●来客数は、２．４００名（２日間）以上と大盛況で、多くの見学者から毎年実施して欲しいと要望されました。
●全国初となる貯砂ダムカード希望者も、タイアップイベントの効果により、２．２００名（２日間）以上と大盛況でした。
●アンケート結果から、「また来年も来ます」「すごく楽しかった」など、９６％以上の来場者から満足との評価をいただきました。

6

胆沢ダムフェス

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

ダム水源地域の活性化を目的とした「胆沢ダム水源地域ビジョン」の取り組みの一環としてダムフェスを開催
◆８月１０日～１１日「胆沢ダムフェス2017 in 夏」（来場者約1,500人）
「堤体登山」、「ダムカフェ」、「カヌー体験会」、「ラフティング体験会」等を実施
◆10月７日～８日「胆沢ダムフェス2017 in 秋」（来場者約2,600人）
「湖面巡視体験会」、「ダムカフェ」、「カヌー体験会」、「ダムヨガ」等を実施

堤体登山

ダムカフェの様子

カヌー体験会

湖面巡視体験会

堤体登山

ラフティング体験会

ダムヨガの様子

湖面巡視体験会

7

2017　四十四田ダムさくらまつり

○開催日時 ： 平成29年4月29日（土・祝） 10:00～16:00
○場　　所 ： 盛岡市内 四十四田ダム駐車場 特設会場
○主　　催 ：「四十四田ダムさくらまつり実行委員会」（盛岡市、滝沢市、八幡平市、岩手町、北上川ダム統合管理事務所）
○開催内容 ： ・ダム建設で移転となった地域に伝わる神楽・獅子舞、キッズダンスほか
・ダム内部見学と小学生を対象としたダム湖面巡視体験
・北上川酸性水等の簡易水質調査、病院の出張保健室、パネル展示ほか
・さくらカフェ（ダムカフェ 第3弾）、流域市町のうまいもの市、フリーマーケットほか
○来客者数 ： 約1,200名（前年度 約1,200名）

9

【胆沢ダム】春をさけるものの開花とダム放流

1．実施日時：平成２９年４月２３日（日）１３：００～１５：００
2．内　　容：クレストゲート４門からの点検放流
3．放流見物者数：　約１００名

＜ 実 施 結 果 ＞
●さくらの開花は間に合わなかったが、今年度は放流ゲート脇の通路（階段）を解放したことにより、放流状況を間近に見ていただくことにより好評を得ることができた。
●前年同様、隣接する手作り村（公益財団法人）に直接PRしたことで、手作り村の村内放送で来訪者にダム放流の案内を行っていただいたことにより、昨年より多くの見学者に来て頂いた。

10

【田瀬ダム】「第5回　田瀬湖一斉清掃＆ごみ川柳大会」

■ 日　時：平成29年4月23日（日） AM9時～12時
■主　催：田瀬ダム水源地域ビジョン推進協議会
■概　要
・田瀬湖畔のゴミ拾いを実施した後、ゴミをテーマとした川柳大会を開催
・参加者数　103名、収集ゴミ計　約1.2トン（前年 1.0トン）

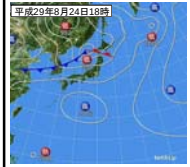
入選作品（抜粋）

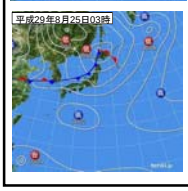
ごみ川柳　捨てた人にも　詠ませたい
田瀬のゴミ　なくして五輪　迎えよう
まごばなれ　できぬじさまと　ゴミひろい
やりたいな　ごみ拾いより　ゴミ採り
今年こそ　嫁を拾えと　親が言う

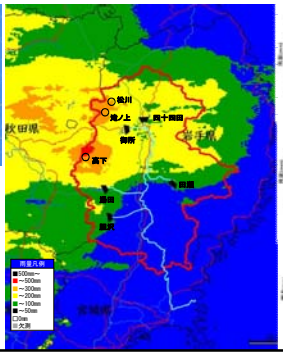
11

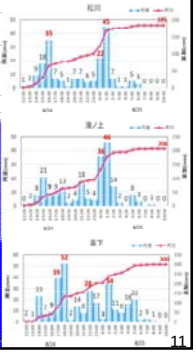
平成29年8月25日（低気圧）　平成29年8月洪水（低気圧）の概要

◆ 前線を伴う低気圧の影響で、８月２４日から２５日にかけて大気の非常に不安定な状態が続き、東北北部で非常に強い雨が降り続きました。
◆ この低気圧の影響により、北上川５ダム上流域で大雨となり、特に、松川や滝ノ上、高下など、奥羽山脈側の雨量観測所では１時間あたり４０mm以上の降雨を記録し、一時的に非常に強い雨を観測しました。
◆ ダム流域の平均雨量は、御所ダム156mm、湯田ダム169mm、四十四田ダム111mmを記録しました。









11

平成29年8月25日（低気圧）

五ダム合計で 約5，200万m3の貯留効果
～五ダムによる洪水調節の効果～

【御所ダム】
流域面積：635km2
総雨量：156mm
貯めた水量：927万m3
（東京ドーム 7．5個分）

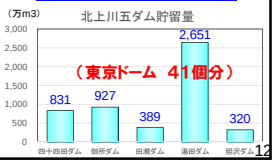
【湯田ダム】
流域面積：583km2
総雨量：169mm
貯めた水量：2，651万m3
（東京ドーム 21．4個分）

【胆沢ダム】
流域面積：185km2
総雨量：58mm
貯めた水量：320万m3
（東京ドーム 2．6個分）

【四十四田ダム】
流域面積：1,196km2
総雨量：112mm
貯めた水量：831万m3
（東京ドーム 6．7個分）

【田瀬ダム】
流域面積：740km2
総雨量：63mm
貯めた水量：389万m3
（東京ドーム 3．1個分）

【五ダム合計】
貯留量：5，118万m3



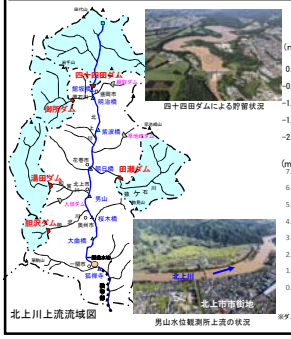
県内の北上川流域のうち
42．5%がダムの流域となっています。
(全体 7,860km2／五ダム 3,339km2)

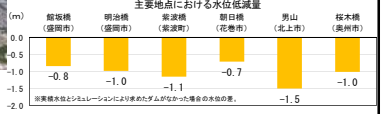
12

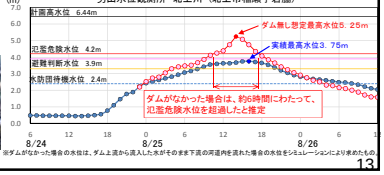
平成29年8月25日（低気圧）

北上川全川(岩手県内)で約1mの水位を低減させ浸水被害を軽減
～五ダムによる洪水調節の効果～

◆ 5ダムで約5，200万㎥を貯留することにより、北上川の水位を全川にわたって約1m低減させ、浸水被害の軽減に大きな効果を発揮。
◆ ダムがなかった場合、氾濫危険水位を超過しなかった下流域でも氾濫危険水位を長時間超過することとなり、浸水被害が拡大した可能性があります。







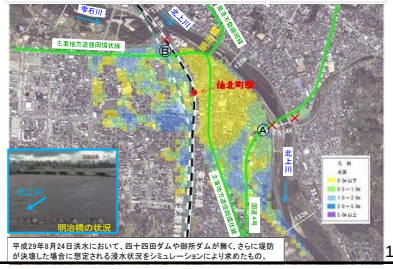
13

平成29年8月25日（低気圧）

盛岡市街地約4,600戸の浸水被害を軽減
～四十四田ダム・御所ダムによる洪水調節の効果～

◆四十四田ダム・御所ダムの効果

◆ 四十四田ダムや御所ダムが無かった場合、盛岡市仙北町付近の雫石川及び北上川の水位は氾濫危険水位を上回っていたと想定されます。
◆ 河川の水位が氾濫危険水位を超過した場合、堤防決壊に伴う氾濫・家屋浸水などの被害が発生する危険性が高まっていたと推測されます。



平成29年8月24日洪水において、四十四田ダムや御所ダムが無く、さらに堤防が決壊した場合に想定される浸水状況をシミュレーションにより求めたもの。

14

ダムによる流木捕捉で下流の流木被害を防止～平成29年8月洪水～

国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

◆四十四田ダム・御所ダム・湯田ダムには、大量の流木が流れ込みましたが、ダムで全て捕捉しました。
◆ダムで大量の流木を捕捉したことにより、ダム下流の橋梁等の施設や周辺への浸水被害の防止に貢献しています。

流木がそのまま流下した場合・・・
○ 橋梁等施設の破損
○ 流木が橋梁に引っ掛かり、橋梁下が閉塞し、川が溢れるおそれ

15

ダムによる流木捕捉効果

国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

流木の捕捉状況（H29.7.25 四十四田ダム）

16

下流域住民への防災意識啓発

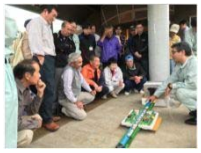
国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

◆防災意識の低下
・上流にダムが完成、浸水被害が少なくなり「ダムがあるから大丈夫」という誤解

⇒ ダムにも限界があることを認識（異常洪水時のダム操作）
⇒ 有事の確実な避難行動のため、平常時からの備えが重要
⇒ 自ら命を守る防災意識の啓発

地域の防災訓練へ参加、下流域住民との勉強会の実施

高齢者施設の避難訓練との連携
（ダム下流域の氾濫を想定した訓練）



職員手づくりの模型による対話式の説明（異常洪水時のダム操作）

勉強会の様子（ダムの操作、治水効果、放流警報等について説明）

■ 勉強会参加者のアンケートより
・ダムがあれば、洪水が発生しないと思っていたが、異常な雨量の場合、そのままの量を流すことを知って驚いた。
・洪水・災害のメカニズムが良く把握できた。

17

④「県管理河川における水防災意識社会の再構築に向けた取組」

岩手県県土整備部河川課

総括課長　岩渕 和弘 氏

岩手県河川課総括課長の岩渕です。

日ごろ、本県の河川行政の取り組みにつきまして、ご理解とご協力を賜わりまして、御礼申し上げます。

本日は、洪水時の減災対策として、「県管理河川における水防災意識社会の再構築に向けた取組」ということでご説明します。

この取り組みは、平成28年に発生しました台風第10号によりまして、岩泉町を中心とした、甚大な豪雨災害を踏まえまして、今後住民の皆様が早めに避難できるような取り組みについて、まとめているものです。

そういったソフト対策を中心にご説明します。

まず、「岩手県における洪水減災対策協議会」についてですが、平成27年から関東、東北豪雨におきまして、記録的な豪雨により、鬼怒川などの堤防が決壊しまして、死者が14名、全半壊家屋が7,000棟以上という、甚大な被害が発生しています。

この災害を教訓としまして、施設には限界があり、施設では拭い切れない大洪水は必ず発生するという意識を、社会全体で共有して、災害に備えるという防災意識、社会への転換を図るということとしています。

こうした国の取り組みと並行しまして、県では台風第10号の災害など、雨の局地化、集中化、激甚化を踏まえまして、減災のための目標を共有して、ハード設置とソフト対策を具体的に進めていく必要があるということから、昨年６月までに、国、県、市町村で構成する、洪水減災対策協議会を県内３圏域に設立したところです。

右側の図に、３圏域のエリアを示しています。

ここが、一昨年は岩手河川国道事務所さんで設立しました、北上川上流。さらに県管理河川も、これに追加しようということで、取り組みを進めています。

さらに、県内全域も展開しようということで、県北の二戸市、八幡平市を中心とした、馬淵川、米代川、新田川圏域。さらにその三陸沿岸の、三陸圏域ということで、この２つの協議会を新たに設置したところです。

本協議会におきましては、各圏域におきます、水防災にかかる現状や取り組みについて、課題の整理をした上で、昨年12月に今後５年間で実施すべき、地域の取り組み方針を策定したところです。

この取り組みは、新聞各紙にも取り上げられましたので、ご覧になられた方もおられるかと思います。

今後はこの取り組み方針に基づき、逃げ遅れゼロの達成に向けまして、減災対策に取り組んでいくということで考えています。

次に、「防災・減災のための主な取組」の１つとして、「水位周知河川の指定」について、ご説明します。

「水位周知河川」とは、ちょっと聞きなれない言葉かと思いますけれども、洪水により大きな被害のおそれのある河川として知事が指定していま

す。

この水位周知河川に指定された河川は、避難準備を行うための目安となる避難判断水位や、氾濫危険水位などを設定しまして、その基準に達した際、市町村や管理機関に情報が通知されまして、テレビやラジオを通じて一般への情報提供により、住民の自主避難に役立つものとなっています。

県内では、平成29年３月末現在、28河川、32区間を設定しています。

今後は、県内の防災拠点や、資産集中区域をカバーするために、未指定の市町村の河川や、台風10号で甚大な被害があった河川等を優先しまして、今後５年間で20河川を指定するということで考えています。

右側の地図におきまして、赤字に指定したところが、いま現在指定済みの河川になっておりまして、緑色で表示した箇所が今後５年間で指定する河川です。

ここの北上川流域におきましては、下から、諸葛川、雫石川、岩崎川、稗貫川、和賀川、胆沢川などを予定しています。

また、左下に記載していますが、ちょっと小さくて見づらいですが、水位監視カメラです。これにつきましては、昨年５月に岩泉町の小本川とか安家川も水位周知河川に指定しておりまして、これも含めた30河川で現在は設置工事を進めているところです。

このカメラの設置によりまして、これまで水位データを公表していたわけですけれども、３月からは画像でも水位状況が確認できるようになります。

次に、「洪水浸水想定区域の指定」についてです。これは、市町村が作成する洪水ハザードマップの元となるものです。

県内では平成29年３月末現在、27河川を指定しています。

指定に当たりましては、水位周知河川を優先するほか、②としまして、北上川水系の県管理河川においては、「国管理区間の指定との連続性を確保」しようということで、①に加えて10河川を指定して、合わせて計５年間で30河川を指定しようということで考えているものです。

右側に地図を示していますが、これは昨年の９月に一関市の宮城県境にあります夏川の区域図です。

想定最大規模の包囲をもとにして、洪水範囲を色で示しています。

今後、この指定後に基づき、市町村の地域防災計画の見直しとか、洪水ハザードマップの作成を指定していきます。

次に、「ホットライン」についてご説明します。

「ホットライン」というのは、水位情報を直接市町村長へ伝達しようという取り組みです。これは、下のグラフがありますけれども、青の折れ線で示す河川水位が時間とともに水位が上昇しまして、上から２本目の紫色の線ですが、市町村長が高齢者などの避難開始発令の目安となる避難判断水位を超過するおそれがある場合に、県から市町村長へ水位情報を連絡するということにしているものです。

右上のところに表に示しています。昨年、７月から５回の大雨、または台風の際には、「延べ26市町村」へ連絡しています。

北上川流域におきましては、９月に砂鉄川、10月の台風21号の際には、夏井川、衣川での流域市町村へ電話連絡をしています。

今後も県からの情報が、市町村長に直接伝わり、避難勧告等の発令の遅れを防ぎ、確実な避難報道につながるように取り組んでいきたいと考えています。

次に、「タイムライン」について、ご説明します。

「タイムライン」とは、今日も表の作成例を記載していますが、水位周知河川におきまして、台風の接近、上陸を想定した災害時に、気象情報や水位到達情報を時間軸としまして、いつ、誰が、何をするかに着目し、洪水が発生する前から、迅速に動ける体制をとれるよう、時系列で整理したものとなります。

現在、市町村と調整を図りながら作成を進めており、今年度中には県内の全ての水位周知河川で運用を開始しようということで考えています。

次に６ページの「河道掘削・立ち木伐採」についてです。これは平成28年の台風第10号の浸水におきまして、県内の多くの河川で川に土砂の堆積が進んだことから、これまでの計画を見直して、洪水に備え、流下断面を確保しようというものです。

「河道掘削」は、全部で114河川、「約152万㎥」になります。県庁をマスに例えますと、約18杯相当分の、かなり膨大な量となっています。

そのほかにも、「立ち木伐採」等も見込んでおりまして、今年度から「５ヵ年」で実施していこうということで考えています。

次に、「最近の国の動向」についてご説明します。

１つ目は、「危機管理型水位計」というものです。これは国のほうでは、洪水時だけの水位に特化した低コストの水位計を開発しまして、都道府県が管理する中小河川へ水位計を起用促進して、「水位観測網の充実を」図ろうというものになります。

この水位計というものは、「長期間メンテナンスフリー」として、「無給電で５年以上稼働」とか、初期コストや「維持管理コストの低減」を図ろうというものです。

これまでについても、設置費用というのは１カ所設置するのに、約2,000万円用意しておりまして、なかなか設置の数を増やすことができなかったわけですが、この水位計というのは、１台大体100万円以下と、従来型の10分１以下のコストとなっています。

県としましては、今、国のほうで実証実験を進めており、来年度からは、順次現地に進めていこうと考えています。

次に２つ目として、「中小河川緊急治水対策プロジェクト」というものです。

国のほうでは、平成29年の九州北部豪雨を踏まえまして、全国の中小河川の緊急点検を行ったところです。それをもとに、緊急時の対策を実施しようということです。

大きく取り組みが３つありまして、１つ目が、「土砂・流木による被害」の対策についてです。通常は、水を流して、洪水時には流木や土砂を捕捉する透過型砂防堰堤の整備をいたします。

外題に記載のとおり、県のほうでは、22渓流に対策を実施していこうということで考えています。

中程の２点目は、「再度の氾濫発生」への対策として、河道掘削や堤防を整備するものです。県では、台風第10号の関連などを加えまして、現在実施中の７河川、44.0km区間で対策を実施しようと考えています。

３点目は、「洪水時の水位監視の」対策として、先ほどご説明しました「危機管理型水位計の設置」です。

これまで県管理の水位計は、58河川82箇所に設置しておりましたが、全部で312河川のうち、245河川、約８割の河川では水位計が設置されていない状況から、水位計を導入しまして、全ての河川に設置しようと考えています。この設置によりま

して、水位観測方法の充実が図られて、早めの住民避難につながるよう、役立てていきたいということです。

県では、このプロジェクトの再編につきまして、一昨日の２月１日に国のほうで、補正予算など確立されましたけれども、こういった予算を活用するなど、重点的に取り組みを推進していきたいと思っています。

今後も住民の円滑かつ、迅速な避難を促すために市町村と連携を図りながら、ハード整備とソフト対策を組み合わせた、総合的な治水対策を推進してまいりたいということです。

以上で説明を終わります。

2 防災・減災のための主な取組 （3）ホットラインの運用

ホットラインのフロー図

平成29年６月１日から、水位周知河川で運用開始

水位周知河川において**避難判断水位を超過するおそれ**がある場合

伝達者（県：河川管理者）

水位到達情報等の河川情報を電話連絡

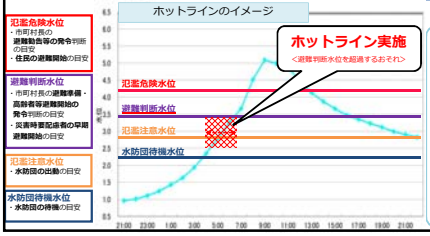
受達者（市町村長等）

再確認、質問等

〔H29実績〕　延べ 26市町村へ実施

日付・事象	河川名	観測所	市町村
7/22～23 大雨	3河川 松川、安比川、北上川	4箇所	3市 盛岡市、八幡平市、二戸市
8/24～25 大雨	5河川 簗川、安比川、松川、馬淵川、小本川	6箇所	5市町 盛岡市、二戸市、八幡平市、一戸町、岩泉町
9/12 大雨	1河川 砂鉄川	1箇所	1市 一関市
9/18 台風第18号	5河川 盛川、甲子川、大船川、津軽石川、気仙川	5箇所	6市町 大船渡市、釜石市、大槌町、宮古市、山田町、陸前高田市
10/23 台風第21号	9河川 夏井川、安比川、瀬月内川、馬淵川、安家川、津軽石川、小本川、松川、衣川	11箇所	11市町村 久慈市、二戸市、八幡平市、九戸村、一戸町、岩泉町、宮古市、山田町、盛岡市、奥州市、平泉町

ホットラインのイメージ



ホットラインの体制構築（例）

○伝達者（県）

	役職
第１順位	広域振興局土木部長等
第２順位	広域振興局土木部等の河川担当課長
第３順位	広域振興局土木部等の管理担当課長

○受達者（市町村）

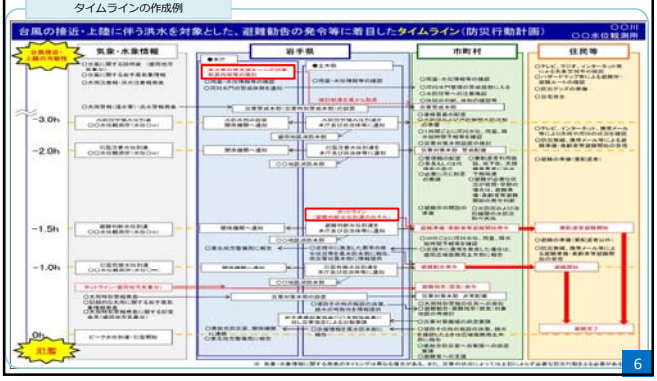
	役職
第１順位	市町村長
第２順位	市町村の危機管理部門の長
第３順位	市町村の危機管理部門の担当課長

5

2 防災・減災のための主な取組 （4）タイムラインの作成

（現在の取組状況）
市町村と調整を図りながら作成中。**平成29年度中に、水位周知河川で運用開始**

タイムラインの作成例



6

2 防災・減災のための主な取組 （5）河道掘削・立ち木伐採

◆全体計画
・河道掘削　　114河川　239箇所　約152万m3
・立ち木伐採　　74河川　116箇所　約127万m2
◆計画期間　平成29年度から５カ年

<対策箇所の選定基準>
① **「近年出水箇所」**で「家屋浸水」があった箇所
② 「河道断面が不足している箇所」で**「資産集中箇所」**
③ **市町村要望箇所**
④ その他、必要と認められる箇所

北上川上流圏域

市町村	河川名
盛岡市	北上川、松川、簗川、雫石川等
花巻市	湯川、亀卦沢川、菅丸川、鳴沢川、酒市川、東沢川、猿の沢川、錦織川、新川川、荒屋川、土口川、八木沢川、幸田川、南沢川、椚貫川、豊沢川、平滝川、瀬川等
北上市	口内川、飯豊川、黒沢川、和賀川、夏油川等
遠野市	猿ヶ石川、甲瀬川等
一関市	上油田川、金流川、有馬川、刈生沢川、滝沢川、磐井川、菊川、久保川、市野々川、物部川、小関堀川、本寺川、夏川、磯脇川、倉沼川、山谷川、黄海川、大平川、大川、甲子川、千厩川、砂鉄川、厳美川、山谷川、興田川、田茂木川、津谷川、猿沢川、高梨川、二迫川、磐井川等
八幡平市	兄川、矢神川、松川、安比川、赤川等
奥州市	人首川、伊手川、広瀬川、笹谷川、山内川、衣川、白鳥川、小田代川、岩堰川等
滝沢市	木賊川等
雫石町	雫石川、葛根田川等
岩手町	北上川等
紫波町	緒市川、滝名川、黒沢川等
矢巾町	大白沢川等
西和賀町	和賀川、小荒沢川、横川等
金ケ崎町	蒲内川、黒沢川等
平泉町	太田川、小金沢川、戸河内川、磯沢川等

馬淵川米代川新井田川圏域

市町村	河川名
二戸市	馬淵川、十文字川、安比川等
八幡平市	兄川、矢神川、松川、安比川、赤川等
葛巻町	馬淵川、山形川等
岩手町	瀬月内川、雪谷川等
九戸村	瀬月内川等
一戸町	馬淵川、女鹿川、小繋川、二ツ石川、平糠川等

三陸圏域

市町村	河川名
宮古市	閉伊川、近内川、長沢川、刈屋川、津軽石川等
大船渡市	盛川、甫嶺川等
久慈市	久慈川、長谷川、長内川、夏井川、小屋畑川、戸呂町川、遠別川、大沢田川等
陸前高田市	気仙川、矢作川等
釜石市	甲子川、鵜住居川等
住田町	気仙川、大股川等
大槌町	大槌川、小鎚川等
山田町	津軽石川、関口川等
岩泉町	小本川、大川、長内川、清水川、安家川等
田野畑村	番代川、明戸川、川平川、松前川等
普代村	茂市川等
野田村	明内川、泉沢川等
洋野町	有家川、馬家川等

〔実施にあたっての方針〕
効果的・効率的な実施
・**事業効果の高い箇所**から実施
（浸水実績、人口・資産状況）
・**民間の砂利採取の活用**
・**地域住民との協働**
・出水後の見直し等、適宜実態と整合

※年次計画は予算の状況等により変更があるもの。

7

3 最近の国の動向 （1）危機管理型水位計（洪水時に特化した低コストの水位計）

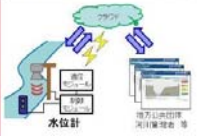
平成29年9月17日公表
出典：国土交通省HP

【目的】
洪水時のみの水位観測に特化した低コストな水位計を開発し、**都道府県や市町村が管理する中小河川等への普及を促進**し、水位観測網の充実を図る。

【特徴】
○ **長期間メンテナンスフリー**（無給電で5年以上稼働）
○ **省スペース（小型化）**（橋梁等へ容易に設置が可能）
○ **初期コストの低減**
（洪水時のみの水位観測により、機器の小型化や電池及び通信機器等の技術開発によるコスト低減）
（機器設置費用は、**100万円/台以下**）
○ **維持管理コストの低減**
（洪水時のみに特化した水位観測によりデータ量を低減し、IoT技術とあわせ**通信コストを縮減**）

【現状及び今後の予定】
○ 開発12チーム（21者）により機器開発中
○ **平成29年8月から**、開発した水位計を鶴見川水系鳥山川（横浜市内）に順次設置し、**試験的に水位観測**を開始
○ 計測の確実性や計測データの精度等を検証
○ **平成29年内に機器開発を完了**の後、機器特性をとりまとめ公表　※現在、寒冷地対応の危機管理型水位計を開発中
○ **平成30年より、順次現場へ設置予定**

洪水時に特化した低コストな水位計



8

3 最近の国の動向 （2）中小河川緊急治水対策プロジェクト

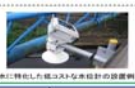
平成29年12月1日公表

全国の中小河川の緊急点検結果と対応策（概要）　出典：国土交通省HP

九州北部豪雨等の豪雨災害による中小河川の氾濫など、近年の豪雨災害の特徴を踏まえて実施した、「全国の中小河川の緊急点検」の結果に基づき、土砂・流木捕捉効果の高い透過型砂防堰堤等の整備、多数の家屋や重要な施設の浸水被害を解消するための河道の掘削等、洪水に特化した低コストの水位計（危機管理型水位計）の設置について、平成32年度を目途に対策が行われるよう、交付金による支援等を実施。

全国の中小河川　約2万河川
↓ 都道府県と連携して点検を実施し、優先箇所を抽出

土砂・流木による被害の危険性	再度の氾濫発生の危険性	洪水時の水位監視の必要性
透過型砂防堰堤等の整備	河道掘削・堤防整備	危機管理型水位計の設置
約700渓流（約500河川）	約300km（約400河川）	約5，800箇所（約5，000河川）
土砂・流木を伴う洪水により被災があった渓流で、流木捕捉機能を有する砂防施設等がなく、下流の氾濫域に多数の家屋や重要な施設・要配慮者利用施設・市役所・役場等）がある渓流	過年、洪水により被災した履歴があり、再度の氾濫により多数の家屋や重要な施設（要配慮者利用施設・市役所・役場等）の浸水被害が想定される区間	人家や重要な施設（要配慮者利用施設・市役所・役場等）が浸水するおそれがあり、的確な避難判断が必要な箇所



緊急点検を踏まえた中小河川緊急治水対策プロジェクトとして全国の中小河川で実施（全体事業費約3，700億円）

岩手県　22渓流（８河川）　岩手県　44.0km（７河川）　岩手県　338箇所（268河川）

9

⑤「『全国運河サミットinみやぎ』について」
宮城県土木部河川課
技術副参事兼技術補佐　巻 博之 氏

宮城県土木部河川課技術の総括をしています巻です。私のほうからは、お手元の資料のとおり、今年の秋に「全国運河サミットinみやぎ」という結構大きなイベントを考えていますので、それについて報告というよりご案内します。

10月26日は、仙台国際センターで、ちょうど目の前が広瀬川という結構きれいな川が流れている場所になります。

また、27日につきましては、運河沿川９市町におきまして、同じ、主にフィールドのほうで、皆様にいろいろ見てもらおうということも考えています。

開催の主旨ということですが、宮城県には「日本一長い運河群」と言いまして、これは、伊達政宗の時代から、明治にかけて、ずうっとつくられた、主に舟運を目的にしてつくられた運河があります。

それにつきましては、全部ではないのですが、今回の津波でほとんどが被災して、現在その復旧工事を進めている。そうした中で、あわせて背後で、この「まちづくり」なども行われています。

復旧に際して、どうしてもマンパワー的な過不足があったものですから、「全国からの支援」をいただきまして、進めており、そういった中の全国の支援に対する感謝という念を込めまして、今回この運河サミットを開催しようと考えています。

それは、結果的に、取り組み事例のご紹介であったり、情報交換など、参加者間の交流を進めることによって、運河のより一層の利活用を図られるということを目的にしています。

「日本一の長さを有する運河群」ということで、大きく貞山運河、東名運河、北上運河に分かれています。これについては、ちょうど北は旧北上川から、南は阿武隈川まで、こちらの松島湾を挟みますが、そういった中で、トータルすると49kmになっています。

そして、江戸時代、「政宗の命により建設が始まった」と。そして、その運河の中には、ちょっと写真が出てきますが、ここの土木遺産、これは野蒜築港と言いまして、明治の時代のあたりのもので、その左側については、松並木ということで、いずれも２カ所とも、本来であれば災害復旧の中で、コンクリートで覆われた三面張りの大きな堤防ができるところでしたが、こういった土木遺産であるとか、松並木を保存するために、少し技術のほうで工夫をしまして、これらを何とか、保存できるような復旧方法を考えて、今、取り組んでいるという状況です。

「全国運河サミットinみやぎ」の内容ですが、今、協議会を立ち上げまして、いろいろ運河を使って活動されている団体の皆様であるとか、地元の方で、今、内容を詰めている最中です。ですので、まだしっかりとした固まったものはありませんが、大体10月26日、金曜日１日目につきましては、「基調講演」であるとか、この「基調講演」については、テレビとかそういったマスメディアに出ていらっしゃるような、ある程度著名な人な

ども含めて人選をしている最中です。

あとは「パネルディスカッション」であったり、運河サミットということです。あと、パネル展としては、運河沿線で行われている活動の状況であったり、今、運河の沿線に、全国からの寄附によって桜並木をつくっていこうという取り組みを行っていますので、そういった状況のパネルであったり、そういったものを皆さんにご紹介していきたいと考えています。

２日目につきましては、外でやる形になります。この「スタディツアー」は、これも49㎞の運河の中を大きく３つのブロックに工夫しまして、それぞれのテーマによるイベント、舟遊び体験であるとか、あと物産市であるとか、そういったものを行っていこうと、今、協議会の中でご相談させていただいているという状況です。

「貞山運河再生・復興ビジョン」とありますけれども、ちょっと略称的になってしまうのですが、ザクッと言いますと、要はこの貞山運河、江戸時代からずっと舟運のために使われてきたということもあって、周辺の人々、県民を初め、非常に愛着を持たれてきた運河でした。ところが、今回の津波によって、大きく被災していて、今、復旧をやっているわけですが、その復旧に際しまして、この運河沿川では、運河だけではなくて、海岸はもちろんのこと、高齢であったり、介護の復興のまちづくりであったり、あと農地であったり、いろんな事業が行われています。

そういったこともあり、それらは、各それぞれで復旧を進めるのではなくて、ある程度一定の目標を持って、それに向かって、みんなで協調しながら進めていこうということで、「貞山運河再生・復興ビジョン」がつくられています。

この中には、特に、民間団体の方々もどんどん入ってこられるような仕組みになっており、例えば、カヌーの体験であるとか、あとは水上バスであるとか、あとは、環境学習であるとか、水上カフェであるとか、そういったものをどんどん民間も含めて、行政と一緒にやっていきたいということで、これが平成25年の５月に策定されています。

その中での政策の一つとして、今回の運河サミットもあるということです。

最後になりますが、この運河サミットを開催するに当たりまして、今時点で大体こういう方々と、実行委員会をつくりましてやっています。

いずれ、この運河サミット、多くの皆様に宮城県の状況を見ていただきたいということですが、情報発信が非常に重要だということで、その情報発信の仕方も含めて、今、実行委員会の皆様ともご相談をしている状況です。

ですので、皆様も、もしよければ仙台のほうにぜひお越しいただければと思います。

宮城県

「明治１５０年」記念事業

全国運河サミットinみやぎ

～日本一長い運河群の沿川から 復興支援に対する感謝を込めて～

開催日　平成３０年　　会場

１０.２６（金）　仙台国際センター

２７（土）　運河沿川９市町

開催趣旨

宮城県では、東日本大震災からの復旧・復興に向けて、江戸・明治期に築造された**日本一長い運河群（貞山・東名・北上）**の復旧工事とともに、運河沿川市町では、**市民団体等と連携**を図りながら、創造的復興に向けて運河を活用した**復興まちづくり**が進められております。

そのため、「明治１５０年記念事業」※として平成30年秋に、これまでの**全国からの支援に対する感謝**を込めて本県沿岸部の復旧・復興状況を情報発信するとともに、**全国の運河沿川自治体等**の運河を利活用した取組事例の紹介や情報交換を通した**参加者間の交流促進**により、貴重な地域資産である運河のより一層の利活用を図ることを目的として開催するものです。

※「明治150年」記念事業とは・・・

平成30年は、明治元年から起算して満150年の年に当たります。
政府は、この「明治150年」をきっかけとして、明治以降の歩みを次世代に遺すことや、明治の精神に学び、日本の強みを再認識することは、大変重要なことと考えており、「明治150年」に関連する施策に積極的に取り組んでいます。
日本各地で、地方公共団体、民間等の方々による様々な取組が行われる予定です。

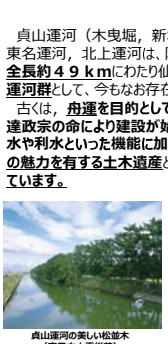
◆関連サイトURL　http://www.kantei.go.jp/jp/singi/meiji150/portal/index.html

5

日本一の長さを有する運河群（貞山・東名・北上運河）

貞山運河（木曳堀，新堀，御舟入堀の総称），東名運河，北上運河は、阿武隈川から旧北上川まで、**全長約４９ｋｍ**にわたり仙台湾沿岸を繋ぐ**日本一の運河群**として、今もなお存在し続けています。

古くは，**舟運を目的として江戸時代に仙台藩主伊達政宗の命により建設が始まったとされ、現在では治水や利水といった機能に加え、歴史，環境，景観等の魅力を有する土木遺産**として、多くの方々に**愛されています。**



貞山運河の美しい松並木
（東日本大震災前）

（土木遺産）野蒜築港跡

6

プログラム　※プログラムはH29.12時点

１０月２６日（金）　仙台国際センター　【会議棟桜・萩】

全国運河サミットinみやぎ

第1部　**基調講演**「　　」（歴史、地域づくり有識者から人選中）

第2部　**パネルディスカッション**（防災・観光・まちづくり・土木遺産）
全国運河沿川自治体や利活用団体の取組事例報告・討議

第３部　**全国運河サミットinみやぎ2018宣言**

パネル展

・本県運河群の紹介ブース（各運河の今昔）
・全国の運河紹介ブース
・東日本大震災からの復興状況紹介ブース
　仙台市・石巻市・塩竈市・名取市・多賀城市・岩沼市・東松島市・松島町・七ヶ浜町・宮城県など
・運河利活用団体の活動紹介ブース
　利活用団体、大学、高校・・・・

桜植樹会（毎年開催）

松並木の保全

復興パネル展

プログラム　※プログラムはH29.12時点

１０月２７日（土）　運河沿川９市町各地開催

運河沿川でのイベント（調整中）

石巻市・東松島市・松島町・塩竈市・七ヶ浜町・多賀城市・仙台市・名取市・岩沼市各所で関連イベント同時開催！

舟あそび体験、運河散策、
カヌー体験、物産市、など開催

スタディツアー　～運河沿川の震災復興の今～

石巻市から岩沼市までの運河沿川市町の運河と復興の今を学ぶツアーを開催します。

土木遺産を学ぶ：石巻・東松島方面

日本三景と貞山運河を学ぶ：仙台湾・松島湾方面

運河と未来をつなぐ復興まちづくりを学ぶ：名取・岩沼方面

貞山運河再生・復興ビジョン

宮城県では、歴史的な土木遺産である仙台湾沿岸地域を縦断する運河群の復旧・復興において、目標とする姿やそれを実現するための仕組みについて示し、様々な主体が連携して、本県の復興のシンボルとして運河群の再構築を図るため、学識経験者や関係行政機関と連携し、広く一般の方々にもパブリックコメントを実施して**平成25年5月に策定**しました。

全国運河サミットinみやぎ
実行委員会構成団体　※H29.12時点

自治体（9市町、1県）

石巻市長	亀山　紘
東松島市長	渥美　巖
松島町長	櫻井　公一
塩竈市長	佐藤　昭
七ヶ浜町長	寺澤　薫
多賀城市長	菊地　健次郎
仙台市長	郡　和子
名取市長	山田　司郎
岩沼市長	菊地　啓夫
宮城県知事	村井嘉浩（代表）

運河利活用団体（5団体）

ＮＰＯ法人ひたかみ水の里
すばらしい北上運河の沿線の自然をまもる協議会
野蒜築港ファンクラブ
貞山運河「御舟入堀」プロジェクト
貞山運河研究所

アドバイザー※H29.12時点

後藤光亀（工学博士）
貞山・北上・東名運河研究会世話役

後援・協賛団体

関係官公庁、大学、復興支援企業、その他河川・まちづくり団体等を予定

宮城県

復興へのご支援ありがとうございます！

宮城県公式キャラクター
「むすび丸」

意 見 交 換

～自然環境、舟運復活、今後に向けて～

表　彰　式

□ 奨 励 賞

□ 特 別 賞

★ 意見交換 ★
～自然環境、舟運復活、今後に向けて～

【司会】　この後は、平山委員長と軍司副委員長のお二人に進行していただきながら、先ほど発表いただいた内容に触れながら、皆さんと意見交換をしたいと思います。

【軍司】　では、今日は北上川流域で活動されている方々の発表を聞くことができ、大変良かったと感じております。個人的にも参考になる事例が多々ありました。

一方、行政側からの報告につきましては、時間が足りなくなってしまいまして、大変残念だったと反省しております。

これから意見交換ということですが、時間の制約もございますのでフリーにいきたいと思います。

今回の発表に対しての感想や、まだちょっと話し足りなかったというような方がおられましたら、手を挙げてご発言ください。

【軍司】　それでは、どなたかおられませんでしょうか。何でも結構です。

【平山】　私の印象から言わせてもらえれば、今日の発表は、20年前のやった成果が随分出てきたなという感じをしています。北上川サポート協会もそうですし、海岸清援隊もそうですし、久保川の千坂さんのお話もそうです。あのころの努力というのが、何か形になって現れるのは、すごく嬉しく思いました。北川さんとか、新井さん、井山さん、柏さん、軍司さん、本当に、あのときは一生懸命やっていたのだな、それが何か思い出すように出てきて、やっぱりあのときにやったことは無駄ではなかったなとすごく感じました。それが私の印象です。

【軍司】　ほかに何かありませんか。私の専門は生態系関連ですが、そういう取り組みが盛岡でも、色々な場所でやられています。ですから、テーマごとの情報交換の場があればいいなと考えています。今回の久保川の事例は、多少特殊かとも思いますが、ただ色々な立場の人を巻き込みながら活動している点がいいですよね。菅原さんの活動もそうですよね。特定の人だけではなくて、民も官も巻き込むことで大きなうねりにはなっていくのかなと思っていますけれども、その辺の取り組みのコツなどがございましたら、菅原さん、ちょっとアドバイスしていただけないでしょうか。

【菅原】　別に意識して民とか官とかを巻き込もうとは思っていないのですが、やっぱりいろんなところに行ってお話をすることで、たまに共感してくれる行政の人もいたり、また、うちは企業さんと環境保全で何社かと連携して、市民団体を企業さんに紹介しており、その関係もあって、海岸清掃には企業３社が参加してくれています。

あと、自分たちＮＰＯは、ものすごい宣伝下手です。宣伝力がないというか。ただ、びっくりしたのは、河口の清掃活動が、私の知らない人たちが知っているのに驚きました。参加者が自分のスマホとかで発信してくれました。写真付きで。こういうところに行って、こういうことをしてきたよとか、感想文まで含めて発信していて、びっく

りして。岩手大学が参加されたきっかけも、塚本先生が参加者の発信したスマホの記事を見て、自分の論文にそれを挙げて、びっくりした状態でした。やっぱり大切なのは、私たちのイベントに参加してくれる一般の方なのかなと私は思います。

自分の活動も宣伝したいけれども、参加してくれる人たちを大切にする。また、参加してくれる人たちの意見を言う機会をつくるというのも、聞く機会をつくるというのも、すごく大事なのではないかな。多分宣伝してくれるのは、一般の参加者の人だと思います。うち、宣伝力全然ないので。あまり有名な団体でもないし。以上です。コツではないです。

【平山】　菅原さん、中間管理団体で、非常にご苦労されていると思いますが、それは人のことであり、予算のことであり、年齢のことであり、いろんなことがあると思いますが、やはり行政の先ほどのお話を聞いていて、水防災意識社会をつくろうと。これは共助、コミュニティーの力をつけようということですね。

今野副所長も、我々非常にお世話になっており、お礼をさっき言いましたけれども、平山課長からは、やはりああいう中で、市民の活動を活用していきたいとおっしゃった。だけれども、以前に比べて、さっき新井さんと話していたら、我々に対する支援が少し薄くなっているのではないかと。これは大切なことなのにもかかわらず、なかなかその分には回ってこない。

今すぐそれをどうしてくれるのかと、答え出せということにはなりませんけれども、まず基本的なお考え、今野副所長は、そういうのは大切にしたいという役所のお考えを言ってくれたので、私はそれが前向きだなと思います。

平山課長にもそのあたり、どんなふうに我々の活動の支援とか考えているのか、ちょっとお伺いしたいのですが。

【平山】　なかなか厳しいご意見を。

今ちょっと挨拶の中でもご紹介させていただきましたが、河川協力団体という制度ができまして、これも前はいろんな形で支援していたところが、なかなかできづらい時代になってきている。それでも、皆さんの活動は今までどおり続いていると。

これからＮＰＯの活動を支える必要があるのではないかというところも、この制度のスタートだと聞いています。今はＮＰＯに対して、我々河川管理とか、河川環境の保全活動の、我々の行う活動の一端を担っていただくということで、その部分を委託できるような制度になっています。なかなか各団体にそれを発出しているかと言われると、まだまだ足りない部分があります。

あと今は、いろんな団体の補助制度というのもあります。河川財団とか、民間企業からもいろいろ出ており、そういったご紹介もさせてはいただいているところです。

なかなか答えになっているか、なっていないのかわからないですが、やれることは今のところそんな感じで動いているということです。

【菅原】　すみません。もう一回意見いいですか。

実はちょっと一言、お話ししたいなと思ったことがあります。それは、高齢化で人口減だという時代なので、何となく日本という国の中で、都道府県の考え方とか、市町村の行政の考え方を聞く

と、人口の取り合いをしているみたいな感じがして、すごくならないです。

そのうちに、封建時代に戻って、移動はならんとか、引っ越しだめだとかならないと思うけれども、人口を自分のところだけ増やすとか、岩手県だけ増やすとか、奥州市だけ増やすとかという感覚ではなくて、本当に環境を保全している皆さんはもうご存じかと、すっかりわかっていることだと思いますけれども、環境の取り組みって、自分が住んでいる地域の環境だけよくなれば、絶対よくなるとかというものではないですよね。

自分の住んでいる地域の環境の影響が、隣の市町村に及ぼすなんてこと、当たり前のことなので、その辺も行政にわかってほしいな。わかっているのかもしれないですが、心の底からわかってほしいなと思うのと、高齢化で人口減っている時代だからこそ、地域間の連携が、これからものすごく大切になっていくのではないかと思います。

そういうときに、例えば、このお金を奥州市のお金だから奥州市内で効果が出ないとだめだとか、岩手県のお金だから県内でなければだめだという方向ではなくて、地域間の連携であれば、他県でもこのぐらいまではいいとか、奥州市で効果が出なくても、最終的に奥州市に効果が回ってくるのであれば、このパーセンテージで助成してもいいとかというような方向に、ＮＰＯって公的なお金で実施しているところが多いので、その辺、地域間連携していくのに使える公的費用があるとすごくいいなとは思っています。

【軍司】　なかなか難しいですよね。先般も会議に出ていて、花巻空港に降りた観光客は、直接花巻温泉向かい、周辺の観光もせずに、翌日は別の場所へと移っていくので、地元に金を落とさない仕組みになっているそうです。

実情はそういうことのようですが、みんなで連携して取り組むことによって、地元も潤う仕組みが出来ていくのではないかなと思っています。

今回の発表の中で、北上川サポート協会さんからは、長く続いている活動についての報告がありましたが、その辺の取り組みのコツについても、お話いただけないでしょうか。

【金野】　一番最後の発表のまとめのところで、コツコツということで、まずは小さい活動でも地域住民に理解をいただく、地域住民との触れ合いを持ちながら、本来私たちは川とのふれあいをテーマに活動していますが、では、竹灯り、餅つきというのは、川と全く関係ないと感じられるでしょうが、いかんせん、川は当然シーズンがあるわけです。夏場、遅くても10月ころまでは川遊びはできます。それでは、シーズンオフの川で何をするのかというふうなことで始まったのが、竹灯りの作成とか、門松づくり、まずは川辺に人を呼びましょうという形で、参加者を募る。

そして、一番大事なのは、サポート協会の年齢層は、上は80歳以上、下は24歳ぐらいで、私たちの協会では、イベントのときは、サポート協会以外の人も手伝ってくれます。そこは私たちの活動の強みです。

手伝うよということで、スタッフが来てくれる。だけれども、その人たちには、協会に入れやという無理押しは絶対にしていません。協会員に対しても、イベントのときは、午前中だけならいいけ

れどもという人には、午前中に来てもらって、午後は帰ってもらう。１日お手伝いできればそれはそれ。ですから、協会員に対しても、ギリギリ無理はさせていませんし、当然一般のお手伝いの方にもごり押し、無理押しはしていません。

こんな感じで、やっぱり無理にお願い、無理に作業させないというのが、協会として長続きしている秘訣なのかなと私は思っています。

【軍司】　ありがとうございます。

非常にすばらしい仕組みで運営されており、感心しました。

それでは、内田さん、お願いします。

【内田】　今日前半の流域活動の６団体の発表を聞いていまして、発表の内容がまず環境に関する発表と、まちづくりと、川を使った地域づくり・活性化だったなと思います。平成９年に河川法が変わって、治水、利水から環境ということを取り入れられ、環境を考えた川づくりとなったときに、やはりこの環境という部分がいっぱい出てきたのだと思いました。

そして、もう一つですが、川づくり。川を使っての活性化と捉えたときに、どういう助成なり、行政との連携が望めるのか、お金というのは難しいよねという中で、例えば、今日発表がありました胆沢川の下のラフティング下流コース、放流によって左右される。発電放流は、ダムには流しているのですが、９月の半ば以降になると、放流自体止める、制限をかける。そうすると、春にはラフティングができなくなる。観光の使い方ができなくなる。

もしくは四十四田ダムでも、私どもが修学旅行と一緒に下ろうとしたら、ダムからはだめですよというような返事があった。もしくはダムが放流によって影響される。そういうふうに考えた場合に、放流という行政との連携であったり、できなかったら、利水の観点で、農業用水や生活のためだったと思うのですが、観光として使えるぞとなったときに、ダムの放流をちょっとそれに合わせて調整してみる。盛岡のボート下り大会はしていますけれども。あと、水辺の活用として、船着場をもう少し使いやすいようなものをつくっていくみたいな、そんな連携なり、助成、行政との連携みたいなのをできないのかなと思いました。

【軍司】　時間が押してきているようですが、どなたかございますか。

【柏】　盛岡の北上川流域連携交流会、柏です。

せっかくですから、岩手県さんのほうにお願いということで、一言申し上げたいなと思います。

今回の水防災意識の社会の再構築に向け、新しい発信をしていただくということで、例えばカメラをつけて発信するということですが、意外と常に道路のほうも発信していまして、路面状況ということでやっていますが、道路と河川というのは、逆に連携して、同じところを何も２回映さなくてもいいのではないの。別の方がまたつける必要があるの？という、素朴な疑問です。

そして、行政の取り組みということで、いざ、災害において、一番の災害被害者と言われるのは、小さい子供さんだったり、高齢者だったりということです。

ですから、ぜひとも、せっかくつくる発信ということでありましたならば、誰にでもわかる、それこそ小さい子供にでもわかる、高齢の方にもわかるような発信の仕方をしていただきまして、わかりやすい発信と連携、道路と河川というところでしょうけれども、ぜひとも、広くわかりやすい発信をしていただければ大変ありがたいですし、かつ、我々市民が一番活用できる情報として、ウェルカムだと思うのですが、そこら辺の発信の仕方と取り組みについて、過度に今回の発表につい

てはおっしゃられて、一般的な発表の仕方だけをしたと思いますが、ちょっとだけでいいですから、実を言うと、こういう工夫をして、わかりやすく、そして、一番災害というところで生命線を担っているような発信元になりますので、それのコツを教えていただければと思います。岩手県さん。

【岩渕】　今、災害状況についての発信について、もう少しわかりやすくできないかというご質問だと思います。

まず一つは、最初にお話ししました水位監視カメラについては、今まではホームページとか、いわてモバイルメールでも、ただ、数値だけで表示していたわけですが、数値も大事で、画像で、今、ここまで水位が上がったねというものが、目視でも確認できるようにしたほうが、より一般の人たちもわかりやすいのかなということで、取り組みを始めるところです。

あと、道路と河川についてということもあります。確かによく言われます。

例えば道路は道路のほうのホームページを見なければわからないし、河川は河川ということで、いろいろのホームページも開いたり閉じたり、繰り返ししなければならないということも言われています。

そういった中で、岩手県の防災関係については、総合防災室というところが一通りの取りまとめの窓口になっていまして、そこのサイトを開いてもらいますと、道路から河川から、全てのサイトを１つのところから見えるようになっています。

さらには、今、柏さんからお話があったとおり、誰でもわかりやすいような仕組みにつきまして、今、我々もいろいろと考えているところでして、もうちょっと時間をいただければと思っています。

今後引き続き、よりわかりやすい情報提供に務めていきたいと思っていますので、ご理解をよろしくお願いします。

【柏】　ありがとうございました。

もし警報が出ましたら、河川付近の小学校、幼稚園、そういうところに警報を流していただければと思います。

河川とか、幼稚園とか、学校のところに思い切って警報を流して、そこら辺の川にいる、学校、幼稚園、保育園、そういったところが危ないですよというぐらい思い切った取り組みが岩手県さんとして、していただければ大変ありがたいと思いますので、せっかく発信するのですから、ほんとに津々浦々、わかりやすい発信の仕方をぜひとも献身的な取り組みでお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

【岩渕】　すみません、あと１つ、言い忘れたことがありました。

新たな取り組みとして、今、我々のこういった情報等について、テレビ局等にもお知らせしておりまして、例えば、ＮＨＫのデータ放送にそうい

った交通災害情報というのがありますので、そこを見ていただければ、今どこで、こういう状況になっているというのもお知らせしていますので、ご覧になっていただければと思います。

【軍司】　他にどなたか。

【北川】　今回非常に考え方が柔らかくなりまして、本当に住民のこととか、地域のこととか考えられるようになって、本当に昔と違いましたね。嬉しく思いました。

ただ、環境課長の話だと、広報の皆さんが、確かにそうで、必要となればとれるようになった、昔と違って。

だから、例えば連携交流会があったのは、どっちにしろそういう広報に使える自由なお金があったということで始まっており、川崎のＥボートもそれがきっかけで続いていて、やっぱり工夫しながらちょっとずつお金を確保していかないと、河川行政が立ち行かなくなる可能性もあるということだと思います。

だから、これから、住民とコラボレーションやらないと、なかなか行政は難しいわけですから、国が知恵を絞りながら、どうしてそういうお金をやっていくのか、ぜひ考えていただきたいと。結局国自身も困るだろうと、僕は思っています。

それを言いたくて、勝手なことをＯＢで言わせていただきました。

【軍司】　ありがとうございました。今回は前のモニターに表示していますように、民間の企業からも協賛金をいただいて、この会を運営しています。行政からの支援もいただいておりますが、産業界も含め多くの方々からの支援をいただきながら、我々は活動すべきだなと思っています。

【平山】　それにしても、今日は、川や環境とは直接は関係ないと思われる商店街の皆さんが、参加されており、本当に新しい動きもありました。

【軍司】　昔から随分変わりました。いかがですか。

【阿部】　毎日利水・環境だということから、ちょっと一歩出て、前向きに川下りなど、地域の活性化、地域づくりに使っていきましょうという雰囲気が出たのは、本当に、少し進歩があったのかなと思います。ありがたいことだと思います。

【軍司】　それでは、最後になりますが、どうぞ。

【新井】　皆様、お疲れ様です。ひたかみ水の里の新井と申します。

ちょっと意見交換というところで、さっきちょっと考えて思ったのが、自分は小さいころから、流域連携交流会を見させていただいて、最初はわからないこともありましたけれども、そういった自分の思い出とかも入れて、これからのことで考えると、やっぱり次の世代というところで考えていて、もう少し、いろんな方たちの意見交換などを聞いている中で、ちょっと足りないなと思いました。

また、２つの県が来ているのに、団体さんなり、行政なり、それを流域の連携があまり薄いのではないかなというところが見えたりして、県は県ごとでというところがちょっと強いのではないかなと感じました。

昔だと子供たちの交流会をやったり、そういうのを自分は覚えていまして、実は今年度、石巻の子供たちを連れて、ダムとかいろいろ巡りました。

上流に連れて行って、２泊３日で。

それも、流域圏のこういった会議のときに、前のダム統管の佐藤伸吾さんにちょっと声をかけて、こっちの子供たちを連れて、上流側がどういうふうになっているか見に行きたいと言って、そこからいろいろ手配していただいた。四十四田なり湯田なり、あとはゆはずの源流のほうを見に行ったりして、結構子供たちもよかっということになったので、来年度も子供たちを連れて行きたいなと思っています。

うまくそういうので何かしら、国交省さんも、国と宮城県と岩手県にいるので、もう一回そういった交流事業を何かできないのかなと、今後考えていただければと思います。

自分も来年度はまた子供たちを連れて、岩手県に行きたいというのがありますので、よろしくお願いします。

【新井（偉）】　連携交流会が半分以上まとめるのがあったのよ。そのまとめるのが上流と下流を今までつないでくれたわけよ。ところが連携交流会があると言いながらも、それではね。ちゃんと人をまとめてありますよと、連絡をもらえばつなぎますよというふうに本当は代表が言えばいいんです。

そういうふうな方に、改善点を言えば、わかればいいというにもやっぱり参加者が来ているねというふうにやってくれれば、新しい組織はいいけれども、やっぱりもう一度、この流域のその場所をちゃんとつくっていって、連携させるというふうにしないと、平山さん。何だかわからないし、がっかりですよ。

でも、植物にしても、何にしても、人がかかわるという関係が大事なんだよと。植物だって、今日はいっぱい資料出てきたけれども、また新しい組織を、お願いします。以上です。

【軍司】　その通りだと思います。

確かに、今言われたような動きがありました。そこで、再構築を目指して流域圏での展開を始めております。ご指摘のように、色々な方のご意見を聞きながら、流域という視点で活動を進めていければと考えています。

エリアを限定すれば動きやすいのは確かですが、下流から上流、あるいは支川も含めての活動を目指します。

【平山】　それと一つ、それから流域、日本だったり、世界だったりということになるかと思いますけれども、もっと広い視野で取り組みたいと思っていますので、皆様のバックアップだけではなくて、意欲的なご意見を、ホームページに「川談義」というのはつくっていますので、その中で、皆さんの意見を交わせる機会ができればいいなと考えています。

【軍司】　私は、今回の川談義で、昔の川での思い出を紹介したのですが、今の人たちは、川は危険な場所であるという認識であり、その現実が全てということになりますので、昔はこうだったよとか、こんな川遊びをしたなどという思い出だけでなく、逆に、ごみが捨てられていたのを見たよなどと言った負の部分も含めながら、「川談義」をお願いします。

今日は久しぶりに新井さんに喝を入れていただきました。本当にありがとうございます。

★　表彰式　★

流域活動発表をいただいた６団体の中から、選考委員４名（行政２名、実行委員２名）により、参加者からの推薦も参考に、奨励賞を１団体、特別賞を２団体選考しています。

なお、この賞は発表団体の順位を付けるものではなく、これからも頑張ってほしい、みんなで流域を応援していこうという趣旨で授与するもので、副賞として、展勝地レストハウス提供の北上川流域の物産を進呈しています。

奨 励 賞

「久保川イーハトーブ世界の自然再生」

久保川イーハトーブ自然再生協議会

常勤研究員　　佐藤 良平 氏

特 別 賞 ①

「川を活用し盛岡のまちづくりにつなげたい」

北上川に舟っこを運航する盛岡の会

事務局長　　阿部 優 氏

特 別 賞 ②

「北上川遊覧船 分流めぐりの試みほか」

水と緑の環境フォーラム・ものう

監事　　舟嶋 茂昭 氏

■ 選考委員

東北地方整備局　河川環境課長	平山 孝信
岩手県県土整備部河川課総括課長	岩渕 和弘
ﾌｫｰﾗﾑ実行委員会　運営委員長	中村　巌
ﾌｫｰﾗﾑ実行委員会 副運営委員長	内田 尚宏

〔推薦用紙〕

第２回　北上川『流域圏』推進交流会議　流域活動発表について

６つの団体に発表をいただきますので、発表団体の中から、流域圏活動の参考となるもの、一押しのところ、何かを感じたところなど、いいなと思う団体を２団体選んでいただきたいと思います。

この選考は優劣を決めるものでは全くありません。選考委員（国１名、県１名、実行委員２名の計４名）により奨励賞、特別賞を選考するための参考とするものです。

全国「いい川・いい川づくりワークショップ」では、川の「タカラモノ」に光を当て、「“いい川”“いい川づくり”とは何か」を全国から集まった団体のグランプリ選考の過程で議論していますが、その視点、評価のポイントを参考まで記載します。

○発想・着眼評価 → “いい川”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価

○関わり評価 → 地域住民と川との豊かで良好な関わり合いについての評価

○プロセス評価 → “いい川”を育むための市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価

○計画・技術評価 → 川らしさの保全や“いい川”回復のために工夫された計画手法や施工技術等についての評価や“いい川”を実現した技術に対しての評価

限られた時間の中での発表となりますが、工夫を凝らし点、発表者の想いを感じ取っていただければと思います。

そして発表、意見交換、参加者との交流を通じて、新たな発見や取組へのエネルギーを感じていただければ幸いです。

No	発表テーマ　発表者	推　薦
①	「中間支援の環境活動　～北上川河口清掃ほか～」 NPO法人 奥州・いわてNPOネット　理事長　菅原 恵子 氏	
②	「久保川イーハトーブ世界の自然再生」 久保川イーハトーブ自然再生協議会　常勤研究員　佐藤 良平 氏	
③	「川を活用し盛岡のまちづくりにつなげたい」 北上川に舟っこを運航する盛岡の会　事務局長　阿部 優 氏	
④	「川のふれあい　北上川サポート協会」 NPO法人 北上川サポート協会　事務局長　金野 和則 氏	
⑤	「活動報告（北上川遊覧船 分流めぐりの試みほか）」 水と緑の環境フォーラム・ものう　白石 定利 氏、舟嶋 茂昭 氏	
⑥	「胆沢ダムを活用した地域活性化の取組」 奥州市商工観光部商業観光課　観光物産係長　菊地 徳行 氏	

参 考 資 料

□ 実行委員会規約

□ 実行委員会名簿

「北上川『流域圏』フォーラム」実行委員会規約

（名　称）

第１条　本会は、「北上川『流域圏』フォーラム」実行委員会（以下「実行委員会」）と称する。

（目　的）

第２条　実行委員会は「北上川『流域圏』フォーラム」を成功裡に実施し、その成果を実現するために流域圏マネジメント構想の試行を推進することを目的とする。

（事　業）

第３条　実行委員会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

（１）基調講演、活動事例発表、パネルディスカッション、新たな形の提案、北上川宣言の企画運営

（２）流域交流調査の企画運営

（３）北上川視察船の企画実施

（４）北上川流域内の河川関係活動情報の収集・発信

（５）北上川「流域圏」推進交流会議（仮称）の開催

（６）その他「流域圏」推進に関わる取組の検討

（７）その他大会の企画運営に関わる事項

（委　員）

第４条　委員は関係河川管理者、地方公共団体、NPO 及び河川をフィールドとして活動し、当大会に参加する諸団体ならびに流域貢献をすすめる企業、関連団体等をもって組織する。

（１）実行委員長を置く。実行委員長は平山健一をあてる。

（２）副実行委員長を置く。副実行委員長は軽石昇、武山文衛及び軍司俊道をあてる。実行委員長に事故ある時は、副実行委員長がその職務を代行する。

（３）実行委員会に監事を置く。監事は実行委員長が指名する。

（４）実行委員会に運営委員を置く。運営委員長及び副運営委員長は実行委員長が指名する。

（５）実行委員会に事務局を置く。事務局長は実行委員長が指名する。

（監　事）

第５条　実行委員会に監事を置き、会計処理を監査する。

（委員会）

第６条　実行委員長は、実行委員会を招集し、その議長となる。

（１）実行委員会は次の事項を審議決定する。

①　事業計画や予算・決算に関すること。

②　その他重要な事項に関すること。

（２）実行委員会の議事は、出席者の過半数により決する。同数の時は議長がこれを決する。

（運営委員会）

第７条　運営委員会は下記の事項を協議・執行する。

（１）実行委員会に付議すべき事項。

（２）実行委員会の議決を要しない会務の執行に関する事項。

（３）実行委員会で決議した事項の執行に関する事項。

（４）その他実行委員会で必要と認めた事項。

（事務局）

第８条　実行委員会事務局は、「(株)展勝地内」に置く。

（会　計）

第９条　実行委員会の経費は次をもってあてる。

（１）参加費

（２）助成金

（３）寄付金、その他の収入

２．実行委員会の会計は、毎年４月１日～３月３１日までを１会計年度とする。

（解　散）

第１０条　実行委員会は、本会の目的を達成もしくは中止する事を決議した場合に解散する。

（雑　則）

第１１条　この規約に定めるもののほか、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が実行委員会に諮って定める。

附　則

１．本規約は、平成２７年 7月 1日の第１回実行委員会の議決を持って施行する。

２．本規約は、平成２８年４月２７日の第１回実行委員会の議決を持って施行する。

北上川「流域圏」フォーラム

平成29年度　実行委員会　名簿

実行委員

	氏　名	団　体　名	役　職
委 員 長	平山　健一	北上川リバーカルチャーアソシエーション	会　長
副委員長	軽石　　昇	ガイア展勝の会	会　長
副委員長	武山　文衛	NPO法人りあすの森	顧　問
副委員長	軍司　俊道	NPO法人北上川流域連携交流会	代表理事
委　員	白石　定利	水と緑の環境フォーラム・ものう	会　長
委　員	柏　眞喜子	をんな川会議	事務局長
委　員	白畑　誠一	北上川フィールドライフクラブ	代　表
委　員	内田　尚宏	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	代表理事
委　員	古舘　雅晴	川を知る会	事務局長
委　員	清水　　晃	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	所　長
委　員	高橋　政則	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所	所　長
委　員	成田　秋義	国土交通省東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所	所　長
委　員	岩渕　和弘	岩手県県土整備部河川課	総括課長
委　員	茂泉　博史	宮城県土木部河川課	技術参事兼課長
監　査	若林　治男	宮城建設(株)	取締役副社長

運営委員

	氏　名	団　体　名	役　職
委員長	中村　　巌	NP0法人北上川流域連携交流会	
副委員長	内田　尚宏	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	代表理事
委　員	菅原　惠子	NPO法人奥州・いわてNPOネット	理事長
委　員	佐藤 富美子	特定非営利活動法人ゆう・もあ・ねっと	代　表
委　員	齋藤　一公	NP0法人北上川流域連携交流会	事務局長
委　員	塚原　俊也	くりこま高原自然学校	校　長
委　員	岩沢　博章	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所調査第一課	課　長
委　員	郡山　秀樹	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所工務第一課	建設専門官
委　員	渡辺　　学	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所調査第一課	専門調査員
委　員	大澤　修一	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所調査課	課　長
委　員	色川　　篤	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所調査課	専門官
委　員	重茂　和志	国土交通省東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所調査課	課　長
委　員	馬場　　聡	岩手県県土整備部河川課	河川海岸担当課長
委　員	巻　　博之	宮城県土木部河川課	技術副参事兼 技術補佐(総括担当)
事務局長	小山　隆春	NP0法人北上川流域連携交流会	理　事
事務局	和賀　匡彦	ガイア展勝の会	
事務局	佐井　　守	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	
事務局	菊池　拓巳	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	

協 賛 企 業

東北公営企業(株)

本社/〒020-0052 盛岡市中太田屋敷田103-3
tel(019)659-3088 fax(019)659-3047

ISO9001:2015 ISO14001:2015
JQA-QMA10812 JQA-EM7297
下水処理施設運転管理・維持の設計及び実施

アベヤス

●文具・事務用品・オフィス家具の販売
●ＯＡ機器・通信機器・ソフトウェアの販売、保守並びに消耗品の販売等
●システム構築、ＬＡＮ／ＷＡＮネットワーク構築及び施工等
●測量機器・製図機器の販売及び保守等

〒024-0094　岩手県北上市本通り３－３－９
TEL：０１９７－６３－５２０１　　FAX：０１９７－６３－５７７８
http://www.abeyasu.co.jp/

～里山にある古くて新しい工務店～
株式会社 小菅工務店

代表取締役 小菅 誠

〒０２４－００４４
岩手県北上市平沢１２－３４
ＴＥＬ:０１９７－６４－３７６９
ＦＡＸ:０１９７－６５－０６３０
http://kosuga.biz/index.html

感動を人に、潤いを地球に。

お客様が求める製品と地球環境保全。
川嶋印刷は先進の印刷技術で
常に両立を実践します。

川嶋印刷株式会社

本社工場　岩手県平泉町佐野原21 TEL 0191(46)4161 FAX(46)4165
営業所／盛岡 花北 北上 水沢 三陸 鹿角 仙台 東京

51年目からの挑戦

50th Anniversary

旭ボーリング株式会社

代表取締役　髙橋　和幸

本社　〒024-0056 岩手県北上市鬼柳町都鳥186-1
TEL 0197-67-3121　FAX 0197-67-3143

旭ボ　検索

油圧ショベル・ホイールローダー・各種車両
整備・販売・レンタル

株式会社 キヤナギ重機

代表取締役　鬼柳賢也

〒024-0063　岩手県北上市鬼柳町宿151
TEL　0197－67－5233　FAX　0197－67－5216

KITAKAMI CITY KOKUEKI KENCHIKU

ありがとうございます。おかげさまで創業57周年

KOKUEKI

有限会社 国益建築

〒024-0043　北上市立花10-21　TEL0197-64-3396 FAX0197-64-3390
E-mail：kokueki@fancy.ocn.ne.jp

道の駅　平泉

自然にやさしい、人にやさしい

千田工業株式会社

【特定建設業・一級建築設計事務所・宅地建物取引業】

代表取締役社長　千田 和秋

本社：岩手県北上市九年橋一丁目10番29号
TEL：0197－63－3207
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.chidatec.com

おかげさまで25年 ― 皆様に感謝を込めて ―

ホテルシティプラザ北上

ご婚礼、各種ご宴会、ご会食 ご予約・お問い合わせ

☎ 0197(64)0001 代表

〒024-0032 岩手県北上市川岸 1-14-1
https://cityplaza.co.jp

DO!PLANNING

ホームページデザイン
ペーパーデザイン
グラフィックデザイン
ロゴデザイン

企画 制作
運営 管理
パンフレット チラシ
ポスター
メニュー
会社案内
各種販促
企画 デザイン

アイデアとデザインで、
あなたの思いを伝えます

株式会社 ドゥ・プランニング
〒024-0084 岩手県北上市 さくら通り3-18-2
Tel. 0197-62-7520 / Fax.0197-62-7522

詳しくは ▶ http://do-planning.jp/

Iwate Construction Industrial Corporation

ISO 9001 認証

代表取締役: 八重樫 博之

岩手建設工業株式会社

〒024-0012　岩手県北上市常盤台二丁目9-4
TEL(0197)65-1616　FAX(0197)65-1617

株式会社 佐藤組

代表取締役　佐藤正昭

本　　社 ／ 〒024-0051 北上市相去町旧舘沢 20 番地 1
TEL(0197)67-5555　FAX(0197)67-5564(代)
気仙営業所 ／ 〒029-2203 陸前高田市竹駒町字相川 90 番 6
TEL(0192)47-3420　FAX(0192)47-3421

自然・環境・人にやさしく
ビル総合管理・警備保障
北上ビルメン株式会社
本　社／北上市幸町 2-5　TEL0197-64-3347（代）　FAX0197-63-6114
営業所／盛岡・花巻・一関・宮古・大船渡・仙台

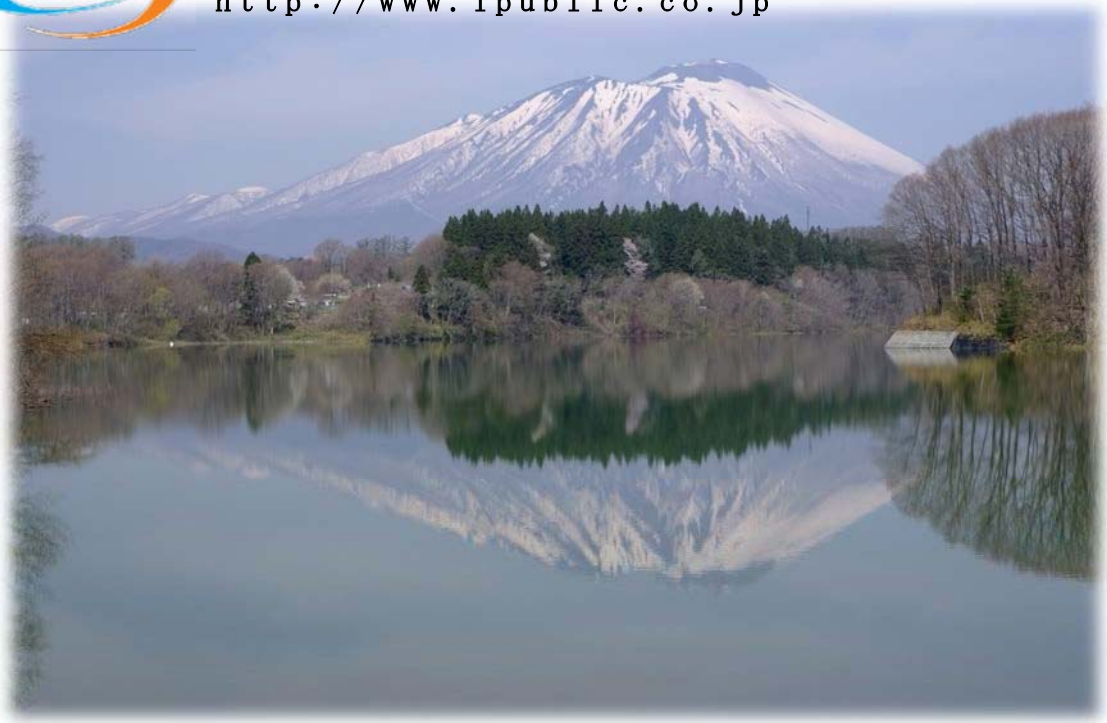
美しい水を守る
浄化槽維持管理・浄化槽清掃・浄化槽設備工事
みちのく環境衛生 有限会社
北上市和賀町岩崎 26-24　TEL. 0197-73-5602　FAX. 0197-73-5899

（株）小田島組

代表取締役社長　小田島 直 樹

株式会社岩手パブリック

http://www.ipublic.co.jp



岩手パブリックは、経営理念である「緑豊かな東北の創造 」の基、
社員教育の徹底を図り業務に取り組むことにより、
人々が安全に、安心して快適に暮らせる環境づくりに貢献し人々が安全に、
「美しいふるさと東北の創造」に寄与する企業を目指して参ります。

公共事業に伴う各種支援事業を行っております。

○発注者支援業務
○公物管理補助業務
○行政事務補助事務

岩手パブリックの取り組み

CSR 活動への取り組み

地域社会から信頼され愛される企業となるべく、「CSR 行動指針」を制定し、地域貢献活動等を行っています。

CSR：Corporate Social Responsibility

マネジメントシステム

顧客のニーズに対応し、満足度の更なる向上を図るための ISO9001 及び情報資産を適切に保護・管理するため ISO/IEC27001 の認証を取得しています。

本社　〒020-0114
岩手県盛岡市高松 2 丁目 14-28
TEL　019-601-7305
FAX　019-601-7352
営業所　/　宮古・秋田
代表者　代表取締役　西川　和雄

設立年月日　平成 16 年 9 月

小さな工事から、大きな工事まで、
どんなことでもご相談ください。

一般住宅からビルディングなど
様々な構造物を解体

一貫した管理体制で
解体から最終処分までの
廃棄物の適正処理

夢は
自然の中で
活き活きと遊ぶ
子どもたちの
笑顔を見続けること

安全で丁寧にスパッとします!

徹底した
分別解体

◆解体工事・舗装工事・土木工事・廃棄物の収集運搬処理◆
気持ちいい仕事を心掛けています。企画の段階からお気軽にお問い合わせ下さい。

株式会社スパット北上

Spat

〒024-0041 岩手県北上市稲瀬町上台 648 番地
TEL:0197-63-3576 FAX:0197-63-4307
盛岡営業所：盛岡市本宮６丁目１２−１２
http://www.spat-k.net/

私達は
北上川流域の活動を
応援します

みちのく民俗村指定管理者

みちのく民俗村

MICHINOKU FOLKLORE VILLAGE

展勝地レストハウス

岩手県北上市立花14-21-1
TEL0197(64)2110　FAX0197(64)2210
営業時間AM10:00～PM5:00　定休日/月曜日

軽石昇 副実行委員長挨拶

モニターによる協賛企業の表示

受賞者を囲んだ記念撮影

平成29年度

北上川『流域圏』推進交流会議　報告書

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会（構成機関）

北上川リバーカルチャーアソシエーション、NPO法人北上川流域連携交流会、
ガイア展勝の会、（一社）いわて流域ネットワーキング、をんな川会議、川を知る会、
北上川フィールドライフクラブ、NPO法人奥州・いわてNPOネット、
水とみどりの環境フォーラム・ものう、くりこま高原自然学校、NPO法人りあすの森、
国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、北上川下流河川事務所、
北上川ダム統合管理事務所、岩手県、宮城県

事務局：㈱展勝地　みちのく民俗村管理運営事業部

〒024-0043 岩手県北上市立花14-62-3　　TEL 0197-72-5067／FAX 0197-72-5074

E-mail: info.river@kitakamigawa.or.jp